

金沢大学

FD 活動報告書



令和6年度

<目次>

1	令和6年度 全学FD活動概要	1
1-1	本学FD活動の概要	2
1-2	各部局等からの回答をもとにした点検	4
1-3	FD委員会の活動	12
1-4	<ピックアップ>特色あるFD活動	19
1-5	教学マネジメントセンターの活動	27
2	各部局等のFD活動	39
3	各部局等のBSD活動	107
4	資料編	127
4-1	令和6年度授業評価アンケート	128
4-2	令和6年度卒業・修了者アンケート	130
4-3	令和6年度卒業・修了後アンケート	132
4-4	金沢大学FD委員会規程	135
4-5	金沢大学におけるFD活動指針	137
4-6	金沢大学における教育の内部質保証に関する指針	140
4-7	金沢大学履修規程	143
4-8	金沢大学シラバス様式	147
4-9	令和6年度金沢大学FD委員会名簿	148

1 令和 6 年度 全学 FD 活動概要

1-1 本学FD活動の概要

本学では平成20年度、「金沢大学FD委員会規程」（後掲：4 資料編）に基づき、教育企画会議に全学のFD委員会を設置した。

FD（ファカルティ・ディベロップメント）とは、

授業の内容・方法の改善等による教育の質の向上並びに学生の心身の保護とキャリア形成を促進する等の学生支援を図るための教員及び部局等の研究、研修等の自発的取り組みをいう。（金沢大学におけるFD活動指針第2）

FD委員会は、平成20年度に「金沢大学におけるFD活動指針」（後掲：4 資料編）をまとめた。同指針はFD活動が継続的かつ実質的に改善するために、FD活動をいわゆるPDCAサイクルの中に位置づけている（図1）。その一環としてFD委員会は各部局等が毎年度作成する報告書に基づき、当該年度の全学におけるFD活動に関する報告書（「年度報告書」）を作成することとした。この規定に基づいて作成したものが本報告書である。

本報告書では、各部局等が令和6年度の活動に対して行った自己評価のみならず、令和7年度における改善に向けての取り組み予定についてもまとめている。これらの点について他部局等の状況を相互に確認し、FD活動を相互に促進しあうことで、本学全体のFD活動が継続的かつ実質的に改善することが期待できる。

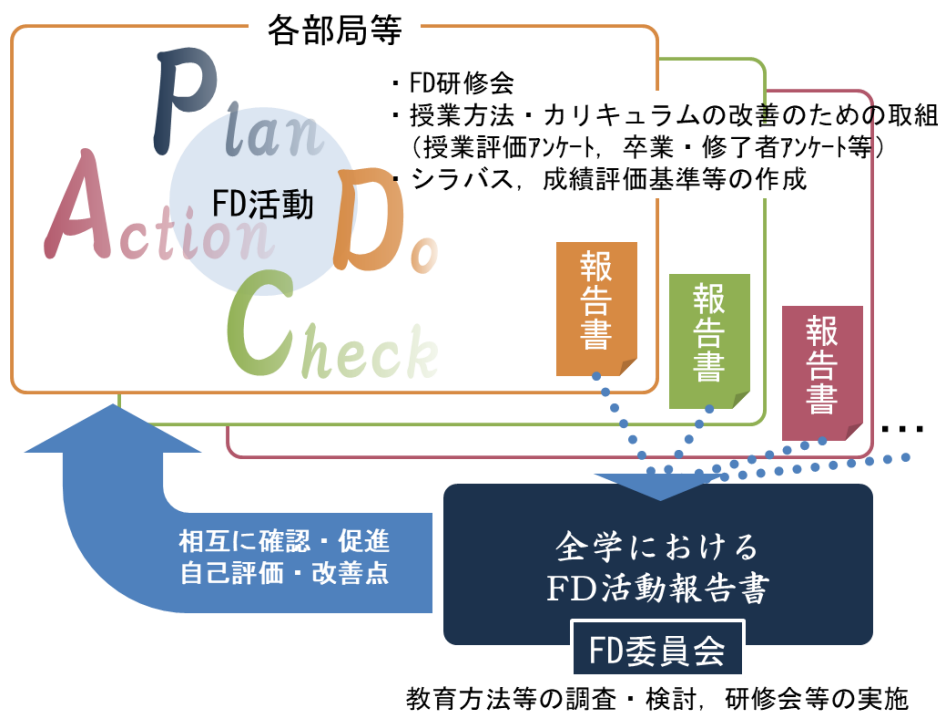


図1 金沢大学におけるFD活動

なお、同指針の特徴の1つとして、授業の内容や方法の改善に関することにとどまらず、学生の心身の保護とキャリア形成を促進する等、学生支援に関する活動をもFD活動の中を含めている点が挙げられる。この点に関連して、本学では教育企画会議学生生活委員会を中心に「学生支援・学修支援」に資する目的で『教職員必携 学生サポートガイドブック』を毎年度、見直しを行い、アカンサスポータルに掲載している（図2）。その内容は学生相談、留学生支援、キャリア支援、障がい学生支援等、多岐にわたっており、教職員は本冊子を有効に活用することにより、学生が抱えた問題を早期に解決し、すべての学生が「充実した学生生活」が送れるように、学生支援に努めている。

また、教員のFD活動支援や学生支援の分野で、職員の果たすべき役割はより一層大きくなりつつある。こうした現状に鑑み、職員のSD（スタッフ・ディベロップメント）及びBSD（バックアップ・スタッフ・ディベロップメント）活動についての指針を盛り込んでいることも同指針の特徴の1つである。

ところで、同指針では、教学マネジメントセンターがFD及びBSD活動に対して必要な支援を行うことを定めている（「金沢大学におけるFD活動指針」第8）。教学マネジメントセンターが令和6年度に行ったFD・BSD活動及び他部局等のFD・BSD活動に対して行った支援の内容については「1-5 教学マネジメントセンターの活動」において述べる。



図2 教職員必携 学生サポートガイドブック

1-2 各部局等からの回答をもとにした点検

本学は、学則第3条において、「教育研究水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価（以下「自己点検評価」という。）並びに授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を行う」と定めている。また、「金沢大学におけるFD活動指針」（以下、FD活動指針）においては、研修及び研究につけ加えて、「改善に向けての取組みを、計画・実践・評価・改善のサイクルの中に位置づけ、より組織的かつ継続的に行うことにより、実質的な改善へと繋げて」といっている。この指針を受けて、全学および各部局は、これら学則、「FD活動指針」等に基づきFD活動を推進している。

計画・実践・評価・改善のサイクルとは、学類、専攻ごとに、①学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を定め、卒業・修了時における到達目標を明確にする、②ディプロマ・ポリシーに沿ってカリキュラムを体系化し、各授業科目の役割をマップ及びツリーという形で可視化する、③各授業科目のカリキュラム上の位置付け、教育内容・方法・到達基準をシラバスで学生に伝達する、④授業科目および教育プログラムの達成状況を、成績分布・授業評価アンケート・学修ポートフォリオ・卒業・修了者アンケートで確認する、⑤それらの分析結果に基づいて、各授業科目の教育内容・方法の改善、教育プログラムの改善を行い、部局におけるカリキュラム（マップ及びツリー）を再検証するというものである。

令和5年度から、FD活動報告書の効率的かつ効果的に構成する観点に立ち、各部局への照会事項を厳選した。併せて、各部局等のFD活動の掲載について、照会事項単位での掲載を改め、各部局単位での「FD活動計画」➡「諸活動チェック」➡「自己評価」という改善向上サイクルを重視する観点から部局単位での掲載とした。令和6年度においても、様式の体裁を一部改善を図った。

各部局のFD活動を事実に基づき確認するため、「令和5年度FD活動報告書」に記載した当該年度の自己評価・総評及び令和6年度に向けた改善計画に沿いながら、「照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況」、「照会事項2 授業方法・カリキュラム改善のための取組み等の実施状況」、「照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況」、「照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)」、「照会事項5 令和6年度FD活動の自己点検及び総評」の5項目について照会した。以下に、それらについての回答を点検した結果について述べる。なお、項目によって回答母数が異なる場合もある。

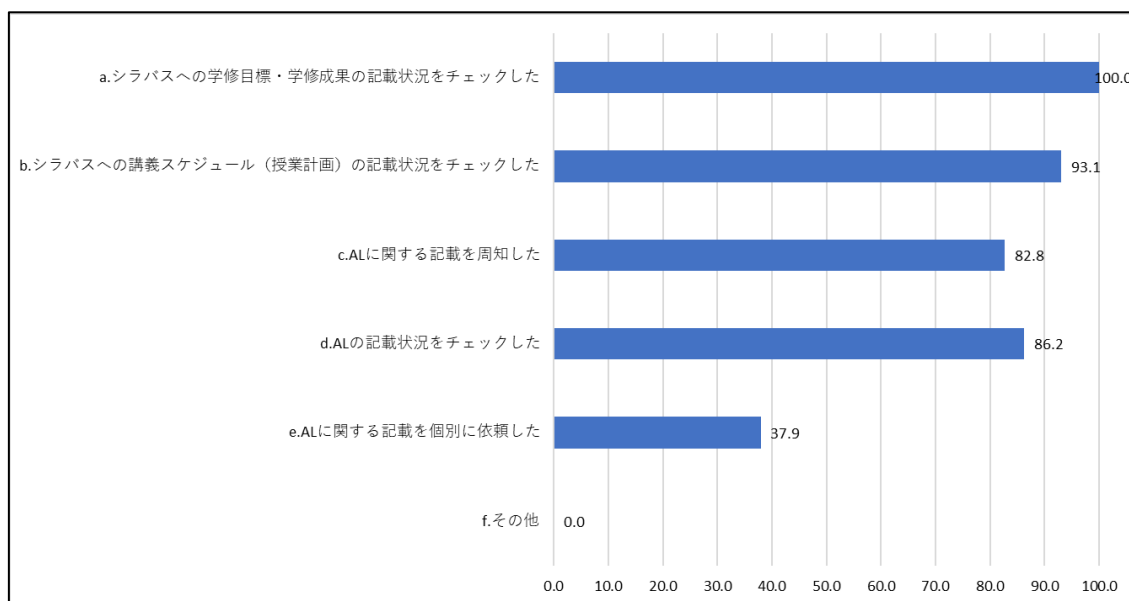
照会事項1 シラバス改善のための取組の実施状況

【検証事項1】令和6年度の実施状況

1) シラバスの基本的項目の点検

シラバスの点検については、基本的項目と英語化関連項目の2つに分けた設問を設定した。基本的項目としては、「シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした」、「シラバスへの講義スケジュール（授業計画）の記載状況をチェックした」、「AL（アクティブ・ラーニング）に関する記載を周知した」、「ALの記載状況をチェックした」、「ALに関する記載を個別に依頼した」、「その他」のチェック欄を設けた上で、その具体的な内容について記述する形としている。

各項目のチェック率は図表1-2-1のとおりであるが、シラバス作成における基本項目である「シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした」については、前年度より改善が見られ、全部局がチェックした。また、「シラバスへの講義スケジュール（授業計画）の記載状況をチェックした」については、前年度同様に、医薬保健学総合研究科、先進予防医学研究科がチェックしていない。シラバスのチェック体制は改善されつつあるが、引き続き、改善に努める必要がある。



図表1-2-1 各項目のチェック率（回答母数：29，単位：％）

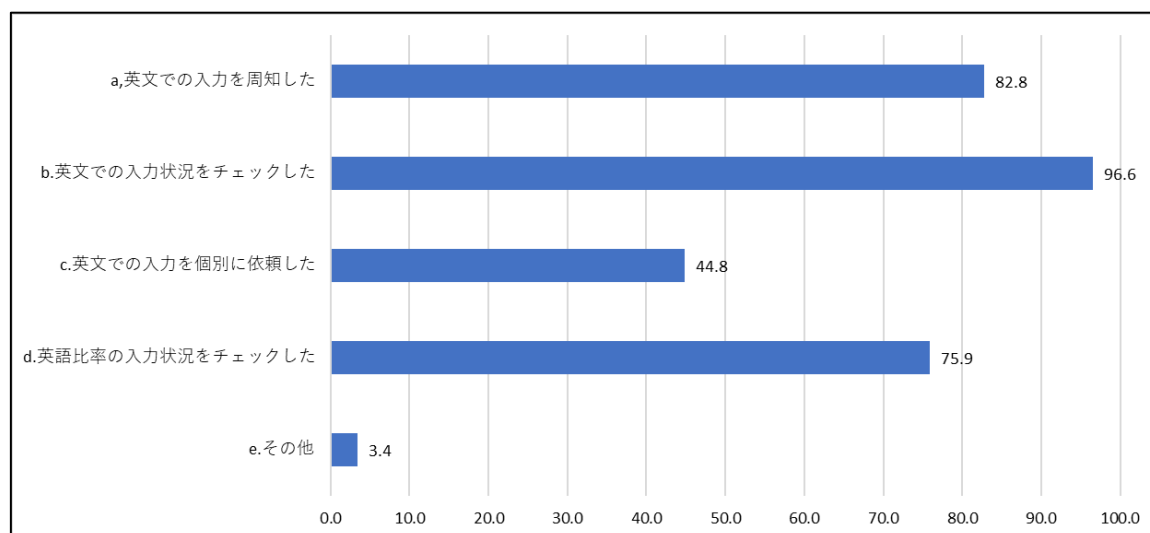
2) 授業科目の英語化の点検

次に、英語化関連の設問として、「英文での入力を周知した」、「英文での入力状況をチェックした」、「英文での入力を個別に依頼した」、「英語化率の入力状況をチェックした」、「その他」についてのチェック欄および具体的内容について回答する形としている。

各項目のチェック率は図表1-2-2のとおりであるが、「英文での入力を周知した」については地域創造学類、機械工学類・機械科学専攻、フロンティア工学類・フロンティア工学専攻、医薬保健学総合研究科、先進予防医学研究科、「英文での入力状況をチェックした」につい

1-2 各部局等からの回答をもとにした点検

ては国際基幹教育院（GS 教育部門）がチェックしておらず、引き続き、改善に努める必要がある。



図表 1-2-2 各項目のチェック率（回答母数：29，単位：％）

通常のシラバス点検および授業英語化シラバス点検については、毎年度の定期的な作業として定着する傾向にあるが、各種ヒアリング調査等を通して明らかとなる実態は、入力されているかどうかのチェックに留まっていて、シラバスの記載内容に踏み込んだチェックについては、依然として改善の余地が感じられる。また、多くの学類でシラバス点検について、学類会議、教務・学生委員会などを中心に組織的に確認している一方で、個人レベルでの点検実施や、誰がどこで点検したのかが明記されていないケースがいくつか見られたことは今後の課題であると考える。

照会事項 2 授業方法・カリキュラム改善のための取組み等の実施状況

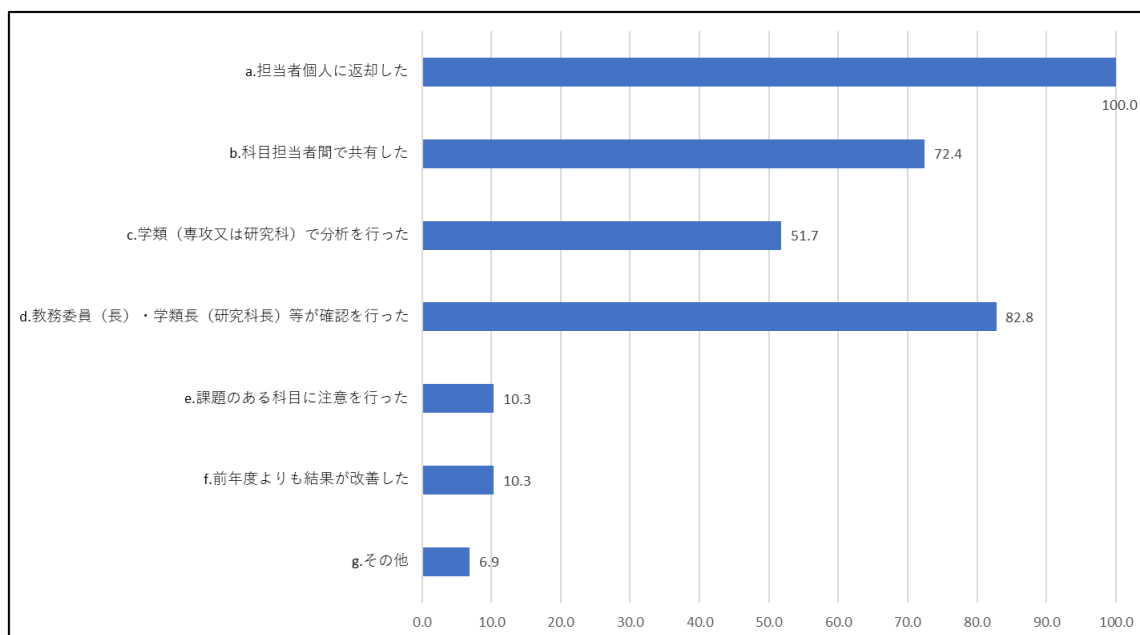
【検証事項 1】授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用したか。

1) 授業評価アンケート

授業評価アンケートの結果をどのように授業改善に活用したかでは、「担当者個人に返却した」、「科目担当者間で共有した」、「学類（専攻又は研究科）で分析を行った」、「教務委員（長）・学類長（研究科長）等が確認を行った」、「課題のある科目に注意を行った」、「前年度よりも結果が改善した」、「その他」について回答を求めた。

各項目のチェック率は図表 1-2-3 のとおりであるが、「担当者個人に返却した」が 100% となっているほか、多くの部局において「教務委員（長）、学類長（研究科長）等が確認を行った」にチェックが入っている。今後、さらに、授業評価アンケート結果の利活用を促していく必要がある。

1-2 各部局等からの回答をもとにした点検



図表 1-2-3 各項目のチェック率（回答母数：29，単位：%）

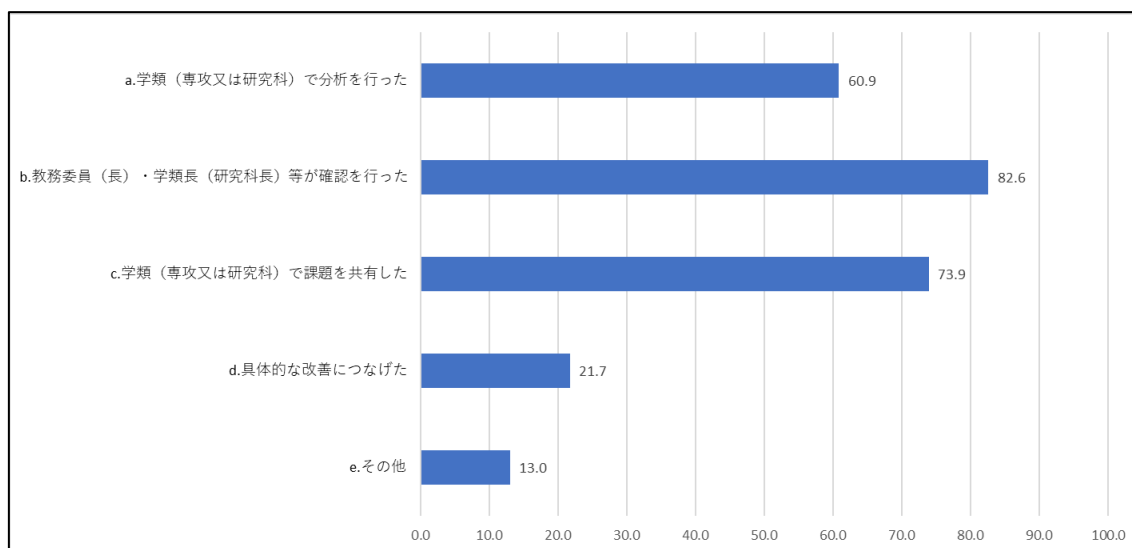
「学類（専攻又は研究科）で分析を行った」で半数前後，「課題のある科目に注意を行った」，「前年度よりも結果が改善した」においては，少数の教育担当部局でしか実施されておらず，さらなる改善を行う必要がある。

2) 卒業・修了者に対するアンケート

卒業・修了者に対するアンケートに関しては，「学類（専攻又は研究科）で分析を行った」，「教務委員（長）・学類長（研究科長）等が確認を行った」，「学類（専攻又は研究科）で課題を共有した」，「具体的な改善につなげた」，「その他」について回答を求めた。

各項目のチェック率は図表 1-2-4 のとおりであるが，人文学類，法学類，国際学類ですべての項目にチェックが入っているほか，多くの部局において「教務委員（長），学類長（研究科長）等が確認を行った」「学類（専攻又は研究科）で課題を共有した」にチェックが入っている。全般的に，前年度と同様に，卒業・修了者アンケート結果の利活用が促進されている。

1-2 各部局等からの回答をもとにした点検



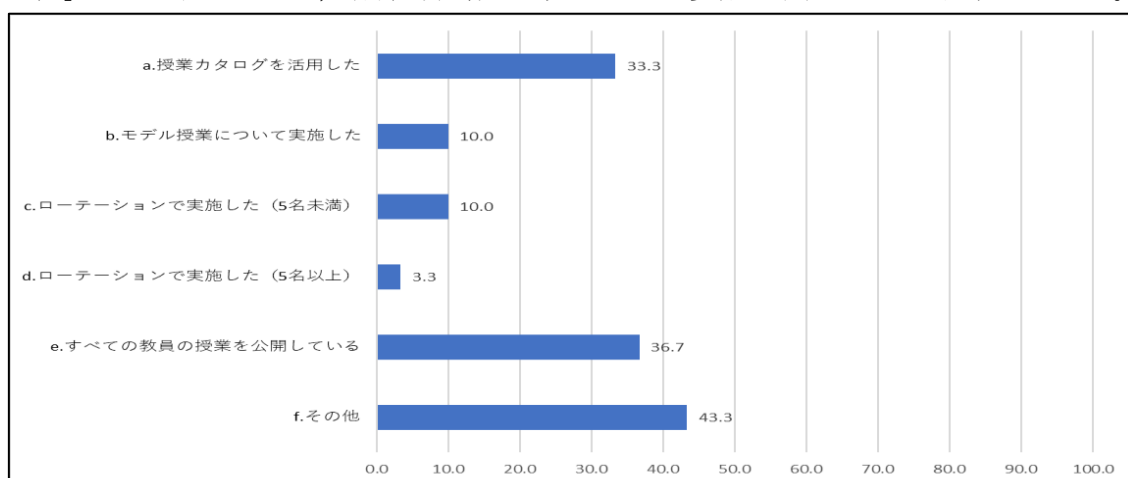
図表 1-2-4 各項目のチェック率（回答母数：23，単位：%）

卒業・修了者に対するアンケート結果の確認、共有は一定程度行われているが、具体的な分析や改善につなげるということについて課題を残している。

【検証事項2】教員相互の授業参観（遠隔授業の参観を含む）

遠隔授業の参観を含む教員相互の授業参観に関しては、「授業カタログを活用した」、「モデル授業について実施した」、「ローテーションで実施した（5名未満）」、「ローテーションで実施した（5名以上）」、「すべての教員の授業を公開している」、「その他」について回答を求めた。

「授業カタログを活用した」「モデル授業について実施した」「すべての教員の授業を公開している」について、一定程度の取組が見られるが、授業参観という形態でのFDには改善が必要である。一方で、ほかの設問への回答とは大きく異なり、4割の教育担当部局が「その他」にチェックをつけ、各部局特有の工夫を施した多様な取組について回答している。



図表 1-2-5 各項目のチェック率（回答母数：30，単位：%）

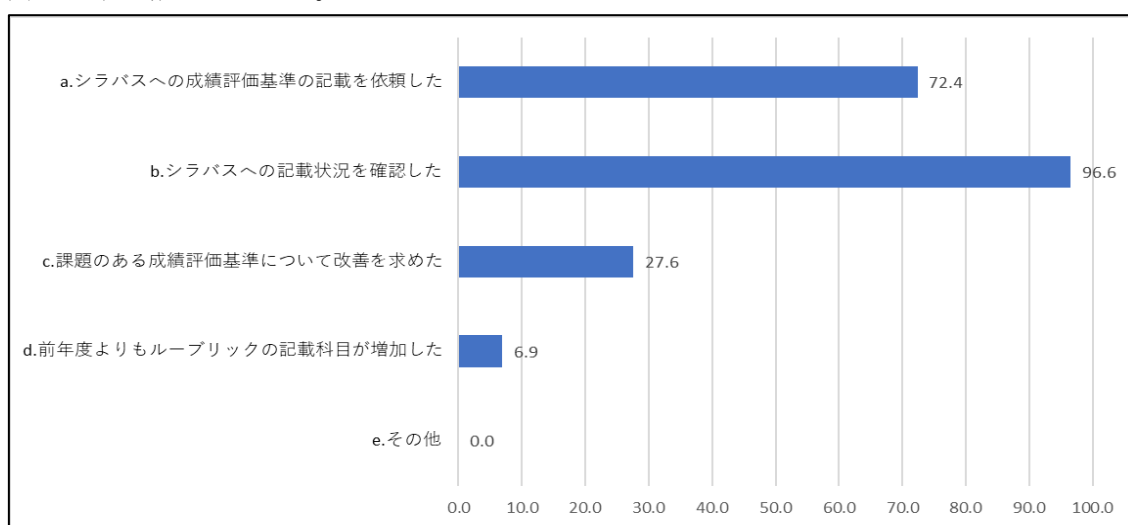
照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

【検証事項1】令和6年度の実施状況

1) 成績評価基準等の作成・検証

成績評価基準等の作成・検証では、「シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した」、「シラバスへの記載状況を確認した」、「課題のある成績評価基準について改善を求めた」、「前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した」、「その他」について回答を求めた。

各項目のチェック率は図表 1-2-6 のとおりであるが、人文学類、薬学類・創薬科学専攻・薬学専攻では、全ての項目にチェックがつけられており、成績評価基準に対する積極的な取り組みがうかがえる。前年度同様に、「シラバスへの記載状況を確認した」については、高い水準を維持している。



図表 1-2-6 各項目のチェック率（回答母数：29，単位：％）

「課題のある成績評価基準について改善を求めた」、「前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した」の数値が低い。ルーブリックについては科目特性の問題、既に多くの科目で記載されている可能性があるためある程度は仕方ないといえるが、課題のある成績評価基準については恒常的なシラバス点検体制の中で可及的速やかに改善されることが望ましく、FD として課題である。

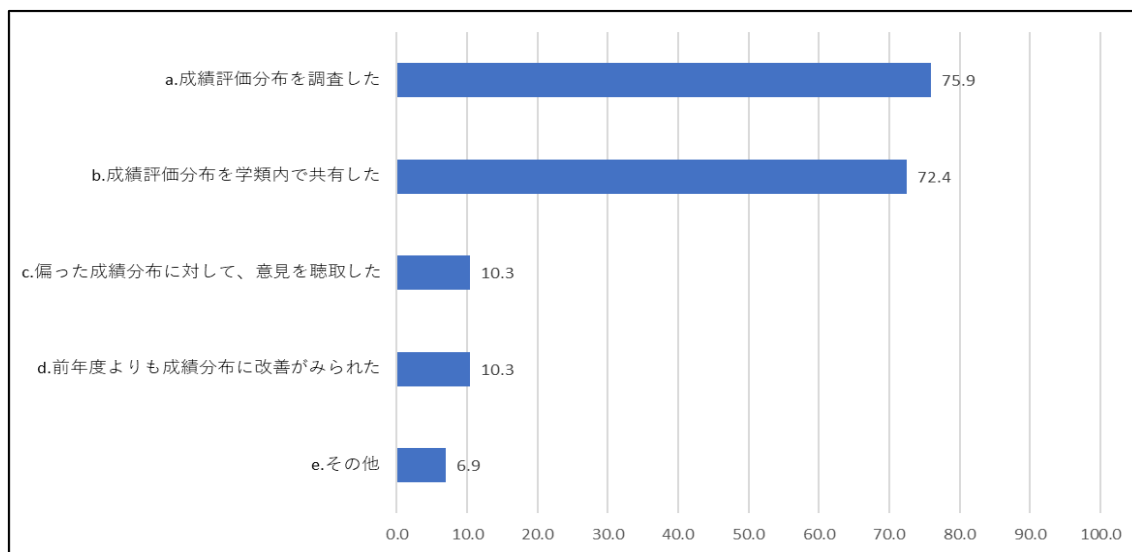
2) 成績評価方法の検証

成績評価方法の検証に関しては、「成績評価分布を調査した」、「成績評価分布を学類内で共有した」、「偏った成績分布に対して、意見を聴取した」、「前年度よりも成績分布に改善がみられた」、「その他」について回答を求めた。

各項目のチェック率は図表 1-2-7 のとおりであるが、国際学類、法学研究科（修士課程・専門職学位課程）では、全ての項目にチェックが入っており、成績分布への関心が高いことがうかがえる。一方、1つしかチェックのない教育担当部局も少数ではあるが存在していることは課題である。成績をつけるのは教員の専権事項ではあるが、あまりに偏りのある成績

1-2 各部局等からの回答をもとにした点検

分布は好ましくないという成績分布に関する認識共有を進める必要性が認められる。



図表 1-2-7 各項目のチェック率（回答母数：29，単位：％）

「成績評価分布を調査した」「成績評価分布を学類内で共有した」が高い数値を示しており情報共有は浸透していることがわかる。しかし、「偏った成績分布に対して、意見を聴取した」は1割程度、「前年度よりも成績分布に改善がみられた」は2割満たない程度と低い数値となっており、成績分布に関する組織的関与に課題を残している。「その他」では、回答選択肢とは異なるが成績分布への異なるアプローチの工夫が行われていると思われる。

照会事項4 FD研修会の実施状況（本学主催）

融合学域、医学類をはじめとして、部局独自のFD研修会について、近年、充実が見られる。この傾向は、分野ごとにおける教育・学生支援に関する新たなテーマや課題が多いことを表していると言えよう。組織改組やカリキュラム改善等を行った部局においては、直面する新しい課題について、FD研修会のテーマに掲げられている。対面及びオンラインを含めた教授法、学修支援ツールの使い方、研究指導、学生のこころのケア、留学生対応など、幅広いテーマが話題となっている。これらの部局主催FD研修会の中には、教育、研究に関して共有可能なテーマのFD研修会については全学に公開・広報されることが望まれることから、教学マネジメントセンターにおいて共催支援、学内広報支援を行うケースが徐々に増えてきている。

今後の課題

今回、教学マネジメントの観点から、シラバスにおける学修目標・学修成果の記載状況、講義スケジュール（授業計画）の記載状況を新たに点検することにしたこと、さらには、卒業・修了者アンケート結果等を活用しながら、授業改善だけではなく、学位プログラムレベ

1-2 各部局等からの回答をもとにした点検

ルのカリキュラム改善に着目するようにしたことから、照会事項の改善充実を図った。それらを踏まえて、照会事項1～5の回答を総括し課題について指摘したい。

シラバス改善のための取組みの実施状況に関して、学修目標・学修成果、講義スケジュール、AL 関連の記載および英文での入力状況については大半の教育担当部局で確認が行われていた。一方で、個人レベルでの点検実施や、誰がどこで点検したのかが明記されていないケースがいくつか見られた。令和6年度下半期より教務委員会を中心としたシラバス点検体制を整備し、一層の改善充実に努めている。

次に、授業方法・カリキュラム改善のための取組み等の実施状況では、授業評価アンケートおよび卒業・修了者アンケート結果を積極的に活用している教育担当部局があることが明らかになったが、授業評価アンケート結果で課題のある科目への対応が十分行われていないこと、卒業・修了者アンケート結果の分析、それを反映した改善活動が不十分であること、授業参観が不十分であること、課題のある成績基準改善が十分進んでいないこと、偏った成績分布への対応が不十分であること、など、今後の課題も見えてきた。

教員相互の授業参観については、Web上で確認できる授業カタログの活用は一定程度進んでいることが確認できたが、具体的な授業参観についてはまだまだ低調であることも判明した。ただし、授業参観以外の多様な形態での教員間での情報共有、情報公開は実施されていることが「その他」への回答から見て取れるため、今後の改善充実に活かしていきたい。

成績評価基準等の作成・検証状況に関しては、成績評価分布の部局内での共有は進んでいるが、偏った成績分布への対応が不十分な点が明らかになっている。このことは、成績評価に関する組織的な関与について、更なる改善充実を進める必要がある。

学修目標・学修成果を明確にしたシラバス作成、それに基づく授業実施および成績評価、授業評価アンケートおよび卒業・修了者アンケート結果による改善がよりよい授業を作る上でのPDCAサイクルであり、今後の改善が一層必要であることが、今回の照会事項への回答から明らかになった。

令和5年度に策定した「金沢大学における教育の内部質保証に関する指針」（後掲：4 資料編）に明記されているとおり、各部局からのFD活動報告は学位プログラムレベルや授業科目レベルのモニタリング機能として重要な位置付けとなっている。3つのポリシーを念頭においてカリキュラム改善、授業改善が一層進むよう、当該年度の自己評価及び総評、さらには、翌年度に向けた改善計画を通して、学生のためにより良い教育を提供できるように努めていく必要がある。毎年のように新たな課題が出てくるが、教育担当部局として学修者重視の姿勢の下、教員間での認識を共有し、課題、解決方法を組織として検討するという体制を構築・維持していくことが、自己評価4（大いに評価出来る）につながると考えられる。

1-3 FD委員会の活動

1-3 FD委員会の活動

令和6年度における活動		
令和6年4月4日	(木)	令和6年度第1回全学FD研修会「新任教員説明会＜教育・学生編＞」開催
令和6年7月4日	(木)	第2回全学FD研修会「文理融合・STEAM教育に関連した授業設計とは～教養教育、専門教育など多様な観点から考える～」開催
令和6年7月11日	(木)	第1回FD委員会開催
令和6年7月30日	(火)	第2回FD委員会開催（書面附議）
令和6年8月28日	(水)	知識集約型社会を支える人材育成事業（DP）採択校合同企画「未来思考型ワークショップ 2024（アイデアソン）～『知識集約型社会を支える人材育成事業（DP）』が創造する大学教育の未来～」開催 （「知識集約型社会を支える人材育成事業」幹事校企画）
令和6年9月27日	(金)	第3回全学FD研修会「イシューベースラーニングのすすめ～課題解決力や実践力を鍛えるための授業設計～」開催
令和6年10月11日	(金)	「大阪大学における初年次少人数セミナー型導入科目「学問への扉」の有効性と課題」開催 （国際基幹教育院FD委員会主催）
令和6年11月1日	(金)	第4回全学FD研修会「FD活動報告書成果発表会」一学類等における組織的FDの取組事例ー開催
令和6年12月9日	(月)	「知識集約型社会を支える人材育成事業（DP）」共通テーマ3 参加校合同主催・教学マネジメントセミナー2024『文理横断の学びを支援する組織・方法・担い手について考える～文理融合・STEAM教育の時代における新しい学修支援～』開催 （金沢大学、大正大学、新潟大学、早稲田大学主催）
令和6年12月25日	(水)	第3回FD委員会開催
令和7年3月6日	(木)	令和6年度文部科学省・知識集約型社会を支える人材育成事業（DP）総括シンポジウム「新しい時代の大学教育につながるメッセージ ～DP事業が目指し、創り上げてきた成果～」 （「知識集約型社会を支える人材育成事業」幹事校企画）

- 各委員会の協議・報告事項及び議事要旨については下記にて公開している。
「アカンサスポータル」→「業務」→「業務マニュアル等リンク集」→「会議」→「学内会議の議事要旨等」
<https://manual.w3.kanazawa-u.ac.jp/index.php/gakunaikaigi/>（学内限定）
- 各研修会（共催企画は除く。）の動画又は資料については本学ポータルサイト（アカンサスポータル）にて公開しているので、教職員は随時閲覧可能である。

1-3 FD 委員会の活動

● 【研修会】

令和6年度第1回全学FD研修会 「新任教員説明会＜教育・学生編＞」	
主 催	教育企画会議専門委員会 FD 委員会及び教学マネジメントセンター
日 時	令和6年4月4日（木） 10時00分～11時55分
会 場	総合教育講義棟2階 A1 講義室
対 象	前年度研修会（令和5年4月4日開催）以降に本学に採用された教員を主とし、関心のある教員や学務系職員の参加も可能
参 加 者	64名
概 要	新任の教員を主な対象とする全学の研修会は、平成20年度から毎年度開催している。従来は、「教養教育担当に関する初任者研修」（共通教育機構が実施、平成16～18年度）、「新任教員等研修会（兼共通教育担当に関する研修会（初任者対象））」（教育担当理事と共通教育機構長の連名で実施、平成19年度）として開催されてきた。 本学における授業支援体制と学生支援の取組を把握することで、教育体制全般に対する理解を深めることを目的とする。
プログラム	（1）アカンサスポータル及び教務システムの活用 （森 祥寛 学術メディア創成センター 助教） （2）学生指導と支援 （尾崎 紀之 学長補佐（入試・学生募集・高大院接続・学生支援担当）） （3）学生の心のケア及び学生相談（足立 由美 保健管理センター 教授） （4）FD 及びシラバス （林 透 教学マネジメントセンター 教授）
	
アンケート 結果 抜 粋	・企業から大学に移ってきたので大変参考になった。 ・配布資料は全て電子化して提供するのが良い。たとえば、教務システムや Webclass のような実際の運用のフェーズで色々と不明点が生じやすいトピックに関しては、実際にシステムを操作しながら作業できると、より身につくやすいかと思った。

第2回全学FD研修会 「文理融合・STEAM 教育に関連した授業設計とは～教養教育、専門教育など多様な観点から考える～」 （「知識集約型社会を支える人材育成事業」幹事校企画）	
主 催	「融合した専門知と鋭敏な飛躍知を持つ社会変革先導人材育成プログラム」運営委員会
共 催	教育企画会議専門委員会 FD 委員会、教務委員会
日 時	令和6年7月4日（木） 14時00分～16時00分
会 場	Zoom によるオンライン開催
参 加 者	101名
概 要	文理融合・STEAM教育に関連した授業実践事例を紹介し、大学教育分野における文理融合・STEAM 教育のあり方について参加者とともに考えた。

1-3 FD 委員会の活動

プログラム	・基調講演「大学教育分野における文理融合・STEAM 教育の可能性～高次 STEAM と新たな社会課題～」 (講師：永井 由佳里 北陸先端科学技術大学院大学 理事（研究振興、社会連携担当）・副学長） ・事例紹介 「理数系分野における文理融合・STEAM 教育の授業実践」 (南保 秀隆 金沢大学 融合研究域 融合科学系 教授) 「“泉鏡花×金沢アート” をコンセプトとした STEAM 教育の授業実践」 (林 透 金沢大学 教学マネジメントセンター 副センター長・教授) 「キャリアデザインを活かした文理融合・STEAM 教育の授業実践」 (山下 貴弘 金沢大学 教学マネジメントセンター 特任助教) ・意見交換・クロージング
アンケート 結果抜粋	・文理融合型教育を目指す上での種々の障壁について、どのように解決されているのか実践を通じて示していただき、勉強になった。

知識集約型社会を支える人材育成事業（DP）採択校合同企画「未来思考型ワークショップ 2024（アイデアソン）～『知識集約型社会を支える人材育成事業（DP）』が創造する大学教育の未来～」開催（「知識集約型社会を支える人材育成事業」幹事校企画）	
主 催	金沢大学（幹事校）、東京都市大学、新潟大学、信州大学、大正大学、麻布大学、千葉大学、早稲田大学、名古屋商科大学
日 時	令和 6 年 8 月 28 日（水） 13 時 00 分～17 時 15 分
会 場	東京都市大学世田谷キャンパス 7 号館 1 階 TCU ホール
参 加 者	85 名
概 要	新しい大学教育の未来イメージについて参加者とともに考えた。
プログラム	・オープニング：田口 亮 東京都市大学 副学長 ・趣旨説明：林 透 教学マネジメントセンター 副センター長/教授 ・未来思考型ワークショップ 2024（アイデアソン） (ファシリテーター：杉浦 正吾 東京都市大学 教育開発機構 教授， 山下 貴弘 金沢大学教学マネジメントセンター 特任助教) ・グループ発表・全体共有 ・クロージング ・情報交換会（名刺交換会）
	
アンケート 結果抜粋	・大学職員や学生などと、屈託ない意見交換ができた。なにより、教育機関の現場にいる方の生の意見を聞くことができたのが大きい。そして、そのような方々とともに同じビジョンを示せたことが嬉しかった。

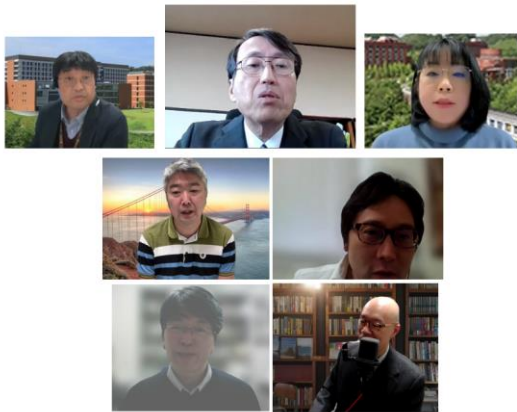
1-3 FD 委員会の活動

第 3 回全学 FD 研修会 「イシューベースラーニングのすすめ～課題解決力や実践力を鍛えるための授業設計～」開催	
主 催	「融合した専門知と鋭敏な飛躍知を持つ社会変革先導人材育成プログラム」運営委員会
共 催	金沢大学教育企画会議専門委員会 FD 委員会，教務委員会
日 時	令和 6 年 9 月 27 日（金） 14 時 00 分～16 時 00 分
会 場	バイオマス・グリーンイノベーションセンター（BGIC）1 階 ステップホールへの出席または Zoom によるオンライン参加
参 加 者	56 名
概 要	金沢大学で取り組む融合学域や先導 STEAM 人材育成プログラム（KU-STEAM）の実践事例を紹介しながら、イシューベースの学修の意義や価値について、参加者とともに考えた。
プログラム	・基調講演①「融合学域先導学類におけるプロジェクト演習」（尾島 恭子 金沢大学副学長（教育改革・企画評価担当）／教学マネジメントセンター長） ・基調講演②「先導 STEAM 人材育成プログラム（KU-STEAM）における課題解決学習」（大同工業株式会社 人事部人事課 坂下 直樹 氏，ミミミラボ コーディネーター 吉川 永祐 氏） ・意見交換・クロージング
	
アンケート 結果 抜 粋	・企業と大学との取り組みは重要な学びの場である。受け入れ先企業の意欲もよく伝わった。

「大阪大学における初年次少人数セミナー型導入科目『学問への扉』の有効性と課題」	
主 催	金沢大学国際基幹教育院 FD 委員会
共 催	全学 FD 委員会
日 時	令和 6 年 10 月 11 日（金） 16 時 00 分～17 時 20 分
会 場	総合教育講義棟 A1 講義室
参 加 者	29 名
概 要	現代の科学技術の急速な進展に伴い、社会は主体的に課題解決に立ち向かうことができる人材を求めている。この需要に応えるためには、大学教育において深い教養力の涵養と専門性のさらなる充実という一見相反する課題に取り組む必要がある。「学問への扉」は、大阪大学が 1 年次を対象に実施する少人数セミナー型の必修科目であり、全学全教員担当制で約 250 の多様なクラスが展開されている。学生は、異分野融合的な教養教育の出発

1-3 FD 委員会の活動

	点として主体的に授業を選択することができる。 この先進的な試みの工夫や直面する問題、今後の課題についての講演が行われ、実践的な知見を得る貴重な機会となり、活発な意見交換が行われた。
プログラム	「大阪大学における初年次少人数セミナー型導入科目『学問への扉』の有効性と課題」 (村上正行 大阪大学全学教育推進機構教育学習支援部 教授)

第4回全学FD研修会 「FD活動報告書成果発表会」ー学類等における組織的FDの取組事例ー	
主 催	教育企画会議専門委員会FD委員会、教学マネジメントセンター
日 時	令和6年11月1日(金) 10時00分～12時00分
会 場	Zoomによるオンライン開催
参 加 者	42名
概 要	金沢大学では、毎年度部局ごとの組織的なファカルティ・ディベロップメント(FD)活動について「金沢大学FD活動報告書」としてまとめ、公開することで活動の共有と振り返りを図っている。令和5年度FD活動報告書においては、学問分野の特性に応じた活発な取組を紹介しており、部局を越えて参考になる事例が多い。今回は、法学類、機械工学類、生命理工学類及び医薬科学類におけるFD活動を全学的に共有した。
	
プログラム	「FD活動報告書成果発表会」ー学類等における組織的FDの取組事例ー (ファシリテーター：林 透 教学マネジメントセンター 副センター長)
アンケート結果抜粋	・日頃は所属組織のFDのことしか考えていないが、全学的な観点からFD活動の目指す方向が分かってよかった。 ・各学類の事情に応じて工夫して取り組んでいることが分かり、大変勉強になった。

「知識集約型社会を支える人材育成事業(DP)」共通テーマ3 参加校合同主催・教学マネジメントセミナー2024「文理横断の学びを支援する組織・方法・担い手について考える」	
主 催	金沢大学、大正大学、新潟大学、早稲田大学
日 時	令和6年12月9日(月) 13時30分～17時00分
会 場	大正大学巣鴨キャンパス1号館2階大会議室への出席またはZoomによるオンライン参加
参 加 者	170名
概 要	DPでは、令和4年度から、当該メニューⅠ・Ⅱ・Ⅲを横断した共通テーマ

1-3 FD 委員会の活動

	を 4 つ設定し、採択校 9 大学が各メニューを越えて相互連携することにより、汎用性ある効果を蓄積・発信することを目指している。このうち、共通テーマ 3「多様な学びを支援する方法及びシステムのあり方を情報交換・検討」をテーマに開催された。
プログラム	・基調講演①「分野横断の学びを豊かにするアカデミック・アドバイジングとは」 (清水 栄子 日本アカデミック・アドバイジング協会 会長/愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室 准教授) ・基調講演②「文理融合・STEAM 教育におけるピア・サポートの効果と可能性」 (松下 健 日本ピア・サポート学会 理事, 上越教育大学 大学院学校教育研究科 教授) ・採択校からの成果報告 (林 透 金沢大学 教学マネジメントセンター 副センター長 教授) (長谷川 隼人 大正大学 学修支援センター 専任講師) (上畠 洋佑 新潟大学 教育基盤機構 教学マネジメント部門 准教授) (早田 幸 早稲田大学 社会科学部 教授) ・パネルディスカッション「文理横断・STEAM 教育の時代における新しい学修支援」 (長野 重音 金沢大学 人間社会学域国際学類 3 年次) (富岡 沙和 大正大学 文学部人文学科 3 年次) (佐々木 真理也 新潟大学 経済科学部 4 年次) (柳原 百花 早稲田大学 社会科学部 4 年次) (清水 栄子 愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室 准教授) (松下 健 上越教育大学 大学院学校教育研究科 教授) (ファシリテーター: 山下 貴弘 金沢大学 教学マネジメントセンター 特任助教)
	
アンケート 結果 抜 粋	・被支援者と支援者の間には責任者（教職員）が不可欠であるという話が印象的だった。学生が安心して支援できる環境をつくる責任を再認識した。 ・分野横断の学びを支えるアカデミック・アドバイジングにおいては、アドバイザーのみの尽力ではなく、全学的なサポートが必要なことが分かった。

1-3 FD 委員会の活動

令和 6 年度「知識集約型社会を支える人材育成事業 (DP)」成果発信シンポジウム「新しい時代の大学教育につなぐメッセージ〜DP 事業が目指し、創り上げてきた成果〜」(「知識集約型社会を支える人材育成事業」幹事校企画)	
主 催	金沢大学 (幹事校)・新潟大学・信州大学・大正大学・東京都市大学・麻布大学・千葉大学・早稲田大学・名古屋商科大学
日 時	令和 7 年 3 月 6 日 (木) 10 時 00 分〜17 時 20 分
会 場	早稲田大学早稲田キャンパス 14 号館への出席または Zoom によるオンライン参加
参 加 者	192 名
概 要	文部科学省「知識集約型社会を支える人材育成事業 (DP)」最終年度にあたり、総括シンポジウムを開催した。「教育が社会の価値観を変える力を持つ」ことを再確認し、今後の高等教育が果たすべき役割について意見を交わしたほか、参加者から寄せられた質問に沿って、「新しい時代の大学教育につなぐメッセージ」に関する意見交換を行った。本事業が目指し、創り上げてきた成果を社会に広く紹介し、新しい時代の大学教育につなぐメッセージを届けた。
プログラム	・基調講演「知識集約型社会を支える人材育成が目指すもの」 (村上 雅人 大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 監事／芝浦工業大学 前学長) ・分科会セッション ・総括パネルディスカッション (村上 雅人 大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 監事／芝浦工業大学 前学長) (大西 実 京セラ株式会社 東京事務所長／産学連携推進部 責任者) (ファシリテーター：松本 美奈 東京財団政策研究所 研究主幹／教育ジャーナリスト) (尾島 恭子 金沢大学 副学長 (教育改革・企画評価担当)／教学マネジメントセンター長) (麻布大学 大学教育推進機構 教学 IR センター長／教授 菊水 健史) (早田 幸 早稲田大学 社会科学部 教授) (青柳 匠馬 新潟大学法学部 3 年次) (東京都市大学 理工学部 4 年次 加藤 凜香) ・パネルディスカッション (ファシリテーター：山下 貴弘 金沢大学 教学マネジメントセンター 特任助教)
	
アンケート 結果 抜 粋	・教育の質保証の重要性、グローバルスタンダードの重要性について、とても共感した。 ・各採択校の特徴を掴むことができ、内容は似ていないが、目指す教育のゴールは同じと感じた。

1-4 <ピックアップ>特色あるFD活動

令和6年度における全学及び各部局等のFD活動は種々実施され、全学のFD研修会（前掲：1-3）及び各部局等のFD研修会（後掲：2 各部局等のFD活動）も多数実施された。その中で、特色あるFD活動を各々1つピックアップし、紹介する。

【学域等及び研究科単位】

学域（融合学域、人間社会学域、理工学域、医薬保健学域）、研究科（人間社会環境研究科、自然科学研究科、医薬保健学総合研究科）、国際基幹教育院で実施している特色あるFD活動は次のとおり。

部局名	FD活動
融合学域	融合学域3学類は、融合研究域融合科学系に所属する教員が主となり教育担当していることから、FD活動は3学類合同で実施し、相互の連携を図り、融合学域としての教育組織体制を構築している。 令和3年度に融合学域先導学類を設置し、観光デザイン学類、スマート創成科学類を順次設置し、3学類体制となった。既存の学域・学類からの異動、新規採用教員等、教員も年々増加している状況で、融合学域の理念である「文理医融合教育によりイノベーションを起こす人材の養成」に向け、FD活動を行っている。 融合学域FD研修会は定期的に企画し、令和4年度7回、令和5年度10回、令和6年度7回と3年間で24回開催した。 また、令和5年度からは教員の研究シーズ紹介を定期的に実施し、各教員の研究内容、進捗状況等の紹介を受け、自身の研究との融合、共同研究につなげる可能性を探っている。
人間社会学域	令和6年度は人間社会学域として1回のFD研修会を実施した。 令和6年12月17日に「学類・専攻における教学マネジメントの要点 ～授業科目レベルと学位プログラムレベルの往還～」と題し、教学マネジメントセンター副センター長の林透教授による研修会をハイブリッドで実施した（対面・オンライン出席者数：教員40名、事務職員1名）。
理工学域 自然科学研究科	理工学域・自然科学研究科では、3月25日14時30分からオンラインにて第16回理工FDシンポジウムを開催した。新型コロナウイルスの大流行以降、各教員は様々な授業形態のスキルを身に付けてきた。地震や警報時の緊急対応においてもオンデマンド・オンライン・ハイブリッド・ハイフレックスなどの授業形態で対応できるようになってきた。それらの講義形態の学修効果（学生の理解度）に関しては、よく分かっていないところが多いため各授業形態の学修効果を解析する試みが行われてきた。 様々な授業形態の中でどの方法を活用するかを判断するためには、各授業

1-4 <ピックアップ>特色あるFD活動

部局名	FD活動
	形態の学修効果（学生の理解度）を把握することが重要だと考えて、令和5年度までは授業形態と学修効果について考えるシンポジウムを開催してきた。令和5年度までのシンポジウム内容を基に、令和6年度の「特別講演」では、様々な授業形態の中でも「反転授業」にフォーカスしてシンポジウムを開催した。参加人数は75名であった。 反転授業に実績のある山梨大学大学院総合研究部工学域 教授、及び教育統括機構 全学共通教育センター長を兼任する森澤正之先生に、「理工系専門教育における反転授業の実践と効果」という題目で特別講演をいただき、反転授業を実施する際のポイントを解説していただいた。具体的な実践方法の解説もあり、反転授業が学生の学びの深化に効果的であることについて理解を深めることができた。また、生成AIの教育への利用の例を紹介いただいた。講演後は活発な質疑応答が行われ、授業改善に向けて様々な知見を得ることができた。
医薬保健学域 医薬保健学総合 研究科	医学類FD委員会が主体となり、令和6年度には学内外の講師をお招きして、計11回の医学系FD研修会を実施した。研修会の主な内容として、多職種連携教育、アクティブ・ラーニング、人工知能（AI）などを扱った。令和5年度と同様に医療人材教育研究センターと連携し、医学系のみならず、薬学系や保健学系教員も参加可能なFD研修会とした。さらに、令和6年度より金沢学術アカデミーとも協働し、金沢医科大学にもFD研修会を開けたものとした。医学系および附属病院所属の教員がFD研修会の内容をいつでも確認できるように、FD研修会の資料や録画した動画をLMS「医学FD」上で共有している。また、FD研修会に年2回未満の参加であった医学系および附属病院所属の教員に対しては、オンデマンド教材の視聴とレポート作成を課してFD研修会への参加を促すという取り組みを継続している。
人間社会環境研 究科	本研究科では、FD活動を通じて大学院担当教員に新たに求められる運営知識、問題や課題の意識向上を目指している。 近年はアンケートを活用したFD研修会を企画してきた。令和2年度は大学院における遠隔授業と研究指導について、令和3年度はコロナ禍における外国人留学生の経験と困難について、令和4年度は大学院進学に関する意識についてアンケートを実施し、令和5年度は企業・各種団体が大学院修了者に期待することなどについてアンケートを実施し、FD研修会ではその結果と分析をめぐって討論を行った。令和6年度は人間社会学域と共同で学士課程学生の大学院進学意識に関する調査を学内ならびに全国において1000人規模で行い、その調査結果を基に文系大学院進学者を増やすための方策について議論した。これら調査により、従来は理系大学院修了者への期待と需要が高いと目されてきた分野でも人文社会系大学院学生への潜在的需要が高いこ

1-4 <ピックアップ>特色あるFD活動

部局名	FD活動
	とが示され、それを現実化させるための方途について意見交換されたことは有意義であった。令和6年度のFD研修会（第2回）では、大学院進学率の高い他大学の事例報告をもとに、学士課程の学生への働きかけに関する今後の課題について認識を深めることができた。 また令和6年11月にはFD研修会（第1回）を兼ねて、本研究科で令和8年4月に予定している「データプライバシーエキスパート養成プログラム」開設に向けたシンポジウムを開催し、総務省統計研修研究官による講演と3研究域からの話題提供により、個人情報保護とデータサイエンスをめぐる潮流と諸課題に関する情報共有と意見交換を行うことができ、大変有益であった。
国際基幹教育院	国際基幹教育院では、外国語教育系とGS教育系が協力し、分野の多様性を活かした多彩なFD活動を展開している。令和6年度の活動で特筆すべきは、10月に外国語教育系とGS教育系が合同で行った「Open Class Week」である。教員間の授業参観については、外国語教育系では継続して行なっている一方、GS教育系では近年、実施していなかった。令和6年度は、異分野間の相互の学びの可能性を探るため、2系合同の試みとして、同じ期間（2週間）に参観日を設定し、29人の教員（外国語系は全教員参加）が合計55コマの授業を公開した。多くの教員が系を超えて複数の授業を参観した。後半には合同で懇親会を開催し、教授方法などについて活発な意見交換を行った。さらに終了後に簡易アンケート調査を実施した。この結果、相互の学びについて好意的な意見が多くみられた。特筆すべき点は、学問分野の垣根を越え、さまざまな授業の間に共通点があることが確認されたことである。つまり、教授法に関しては文理を超えて異分野間で共通する点が多く、これを深めることでSTEAM教育を推進することができる。これに加え、生成AIと教育についての研修会、英語授業の強化に向けた取り組みについても、共同で研修を行なっている。

【学類単位】

今回は、経済学類、学校教育学類、数物科学類、電子情報通信学類及び医学類で実施している特色あるFD活動を紹介する。

○経済学類

取組名称	外部講師招聘講演「教育や研究における生成AIの活用」並びに勉強会
開催日	令和6年12月19日13:00～16:00（内勉強会は、15:00～16:00）
参加人数 （概数）	講演会：経済学類 11名、他学類 3名 合計 14名参加 勉強会：経済学類 4名参加

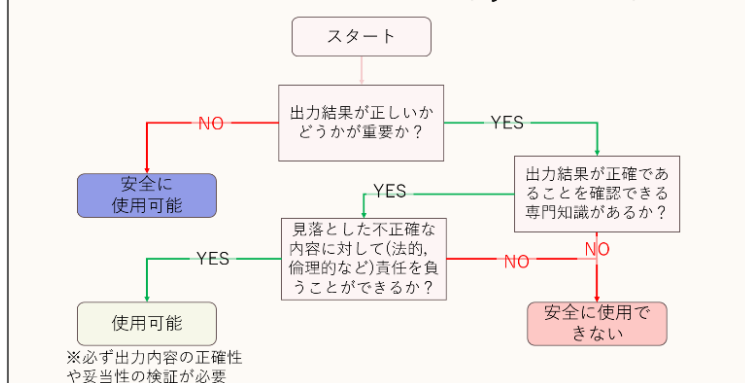
ニッセイ基礎研究所主任研究員の佐久間 誠氏を外部講師として招聘し、「教育や研究における生成AIの活用」の講演会と勉強会をFD研修と位置付けておこなった。

講演会では、生成AIに関する歴史を振り返り、生成AIの進歩が著しく、企業での導入は進んでいることから、教育や研究における生成AIの活用事例に基づき、教育現場や研究活動において生成AIをどう活用していくかについて聴講した。具体的には、生成AIの活用に先立ち、学生に自分の立ち位置を認識させるチェックフロー（図）の活用や他大学の学生の生成AI利用についての指針（表）などについて確認した。

勉強会では、講演会の話をもとに、レポートでの生成AIの使用の可否などについて具体的に議論した。

このFD研修後に、生成AIの使い方に関するパワーポイントを作成し、講義「アカデミックスキル」の教材として、経済学類全体で共有した。

生成AIを安全に使用できるのは？ (by UNESCO)



出所：UNESCO (2023), "ChatGPT and artificial intelligence in higher education: quick start guide"

図：生成AIの使用にあたってのチェックフロー

- 教育効果の重視
 - 思考能力向上のため、**知識生成・洗練化のプロセスが重要**。
 - AI生成物をそのまま利用することで、貴重な訓練機会を失う可能性。
- 不正行為
 - レポートや論文では、出典を明記し、**自分の考えを記載することが基本**。
 - AI生成物をそのまま利用することは不適切。
- 誤謬の可能性
 - AI生成物には誤りやバイアスが含まれる可能性。
 - 鵜呑みにせず、**自ら吟味・修正し活用する必要がある**。
- 法的リスク
 - AI生成物には**著作権や意匠権上の問題が生じる可能性**あり。
 - AIツールの利用時には、どのツールを使用したかの明記が求められる場合がある。
- 情報セキュリティ
 - 機密情報、**個人情報、未発表研究成果の入力は情報漏洩リスクがあるため厳禁**。

出所：<https://utelecon.adm.u-tokyo.ac.jp/docs/ai-tools-in-classes-students/>

表：「東京大学の学生の皆さんへ：AI ツールの授業における利用について (ver. 1.0)」の一部要約

○学校教育学類

取組名称	共同教育課程における金沢大学・富山大学合同FD研修会
開催日	第1回：令和6年9月26日10:00～12:00 第2回：令和7年1月16日10:00～11:00
参加人数 (概数)	第1回：金沢大学15名，富山大学20名 第2回：金沢大学25名，富山大学15名

本学類では，令和4年度より富山大学と共同教員養成課程を開始した。この課程では，1人の授業者が両大学に同時に授業を行う「斉一科目」の必修授業が設けられている。また，両大学の学生交流を促進するため，授業外活動として「エクスカーショ」も取り入れられている。本学類の特色あるFD活動の一環として，「斉一科目」（第1回研修会）と「エクスカーショ」（第2回研修会）をテーマに，遠隔システムを利用した両大学合同のFD研修会について報告する。

第1回の研修会では，「斉一科目における遠隔授業」をテーマに実施した。斉一科目とは，例えば金沢大学の授業担当者が，金沢大学の学生には対面で授業を行いながら，富山大学の学生にも遠隔で同時に授業を行う形式である。斉一科目に関するアンケート調査では，特に遠隔履修の学生から否定的な意見が多く寄せられた。これを受け，FD研修会では，能動的な学修方法に関して活発な意見交換が行われた。

第2回の研修会では，「エクスカーショ」をテーマに実施した。エクスカーショは，富山大学の学生が金沢大学の学生に富山を案内し，金沢大学の学生は富山大学の学生を石川に案内する小旅行型の交流活動である。学生アンケートでは，日程調整の難しさや経済的負担に関する懸念が寄せられた。そこで，研修会では実態の共有を行い，今後の課題について協議を進めた。



第1回合同FD研修会の様子



第2回合同FD研修会の様子

○数物科学類

取組名称	「情報・計算科学基礎」担当者談話会
開催日	令和6年9月27日
参加人数 (概数)	5名

FD活動として、令和6年9月にデータサイエンス応用系学域GS科目講義「情報・計算科学基礎」担当者で意見交換会を行った。この講義は主として数物科学類対象の講義であったが、学域GS科目になったことで内容の刷新を行うことになり、その打ち合わせをおこなった。

この講義は計算機プログラムの講義・演習を通じて計算科学の入門を行うものである。従来はUNIX環境をノートコンピュータに実装して、Fortran・C・C++などのコンパイラやEmacsエディターやグラフ作成ソフトGNUPLLOTなどの開発実行環境を構築し、基本的な数値計算を学習する「伝統的な」ものであった。しかし、数物科学類以外の学生も履修することになり、PythonとVS Codeを中心とした「現代的」な講義にしてはどうかという意見が出てきた。そこで、FD活動として担当者などが集まり談話会を開いた。

「数値計算言語としてPythonは適切か?」「VS Codeという、「枯れて」いないソフトウェアを教育に使うって大丈夫か?」「Pythonプログラム作成課題ではChatGPTによるカンニングがあるのではないか?」などの問題が提起され、それらについて議論を行った。



○電子情報通信学類

取組名称	理工3学類合同FD研修会
開催日	令和7年3月26日（水）
参加人数 （概数）	44名

電子情報通信学類は、フロンティア工学類および機械工学類と合同で、毎年、FD研修会を実施している。

令和6年度は、学生実験における学生の能動的取り組みに関して、以下のタイトルの講演をオンラインで実施した。

タイトル：学生実験における「学生間ピアレビュー」の活用（講演者：電子情報通信学類・川江 健）

R6・理工3学類合同FD研修会

学生実験における 「学生間ピアレビュー」 の活用

電気電子工学実験第2（および実験第3）の実施例から
（電子情報通信学類 3年1Q2Q）

科目担当 松本 翼先生よりご提供

電子情報通信学系 R6・FD委員 川江 健

学生間ピアレビューとは？

Webclassマニュアルより引用



Webclassにある機能の一つで、**学生同士でレポート評価が行える。**
レポートのダウンロードや、点数およびコメントの入力ができる。

学生実験のレポート作成時に取り入れている「学生間ピアレビュー」に関して、実施形態およびメリット・デメリットを交えながら紹介した。さらに、電子情報通信学類内の他実験科目での実施例に加え、近年のコロナ禍を経て入学した学生の一部に見受けられる孤立の回避を指向した活用法などの利点と注意点についても紹介した。

講演後の質疑応答においては、本取り組みの実施に対するデメリットや履修者の利用率（当該制度の利用は学生の自由選択）に関する詳細について説明を行った。

○医学類

取組名称	多職種連携教育（IPE）の実践例と今後に向けて
開催日	令和6年7月22日
参加人数 (概数)	38名

本研修会は、医学類FD委員会と医療人材教育研究センターの協働により実施し、医学系および附属病院教員、薬学系教員、保健学系教員を対象とした。研修内容は、まず多職種連携教育（IPE）とは何かについての基礎的な説明から始まり、医学類における基礎系および臨床系科目で実践されている授業の事例を、3名の教員が紹介した。続いて、今後IPEとしての展開が期待される既存の医学類の授業について、具体的な提案が行われた。研修会を通じて、IPEのさらなる推進に向け、参加者間で共通の課題について活発な議論と意見交換が行われ、認識の共有を図ることができた。

PPE着脱体験の実際



危険体験採取を体験（2022年）
安全キャビネット内の実験操作を体験（2023年）
医学と検査の学生が同時に体験
医学と看護の学生が同時に体験

小グループワーク
1グループ5～6名×36グループ



2日目 退院支援計画書の発表
ジグソー法

4日目 プロダクトの発表



【1日目】

- 自己紹介
- 映画の感想の共有
- 文化人類学的視点からの事例検討

【2日目】

- 退院支援計画書の作成

【3・4日目】

- 心不全患者への質問を考える
- 映画について深めたいテーマを決めてプロダクト作成

地域アセスメントとIPE 今後の展望

本学では
4年生11月⇒5年生10月に地域医療実習を実施している。
地域アセスメント技術演習はこの中間にあたる4～5月に実施している。

地域医療実習のテーマは
「行動科学・社会科学」であり、患者さんの生活者としての姿にフォーカスしている。

その患者さんが現在抱えるプロブレムに至るまでの背景や、そのプロブレムを抱えながら今後の人生とどう向き合っていくかを、生活史、思考、価値観、家族構成、生活環境などを考慮しながら、多職種の意見も踏まえて考察することを主課題としている。



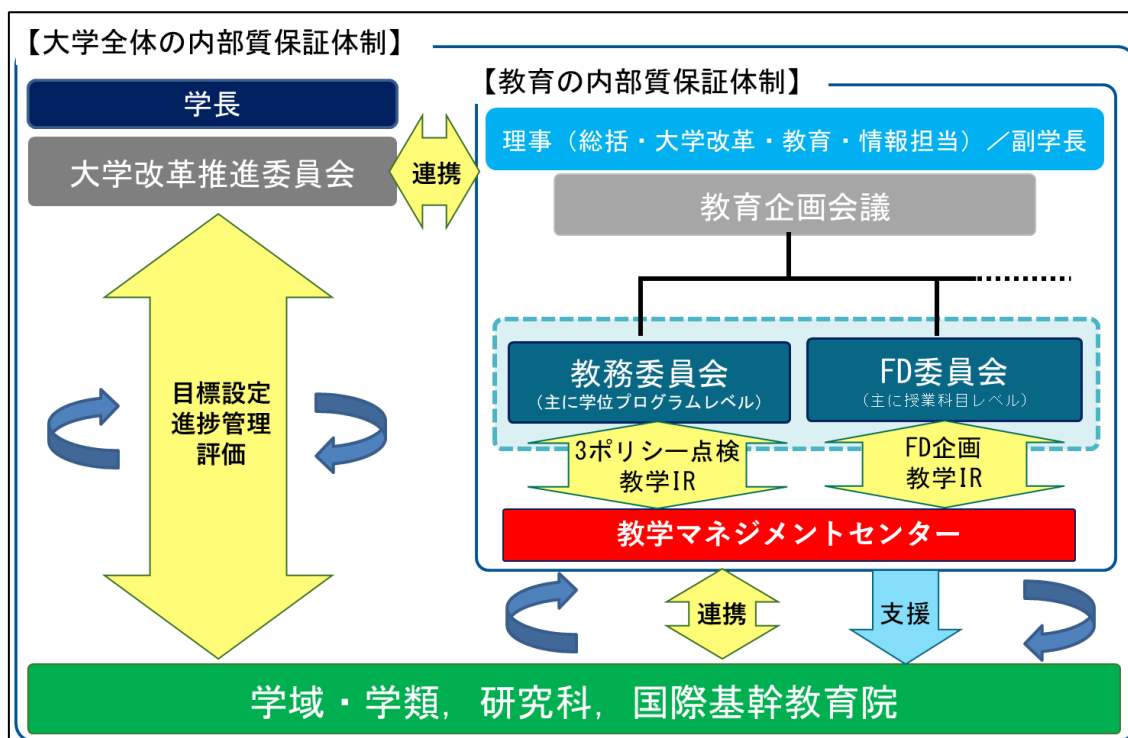
1-5 教学マネジメントセンターの活動

1-5-1 教学マネジメントセンターの業務概要

学長のリーダーシップの下、本学のFD支援、教学マネジメントを担ってきた国際基幹教育院高等教育開発・支援系及びICT教育支援を担ってきた総合メディア基盤センターを発展的に解消し、新たに令和3年4月に教学マネジメントセンター及び学術メディア創成センターを設置し、両センター連携によりFD、教学IR、教育DXを一体として推進する体制を構築した。学内のマネジメント体制強化のため、教育担当理事の下に置く組織として位置付け、学内の連絡・調整を円滑にするため、全学の教務委員長・FD委員長を務める学長補佐をセンター長に据え、センターの業務を掌理する体制とした。教学マネジメントセンター設置以降、教育の内部質保証体制の明確化の観点から、各種検討や学内調整を重ねつつ、現在は、図表1に示す組織体制において、日々の活動を行っている。

教学マネジメントセンターの具体的な所掌業務は、以下のとおりである。

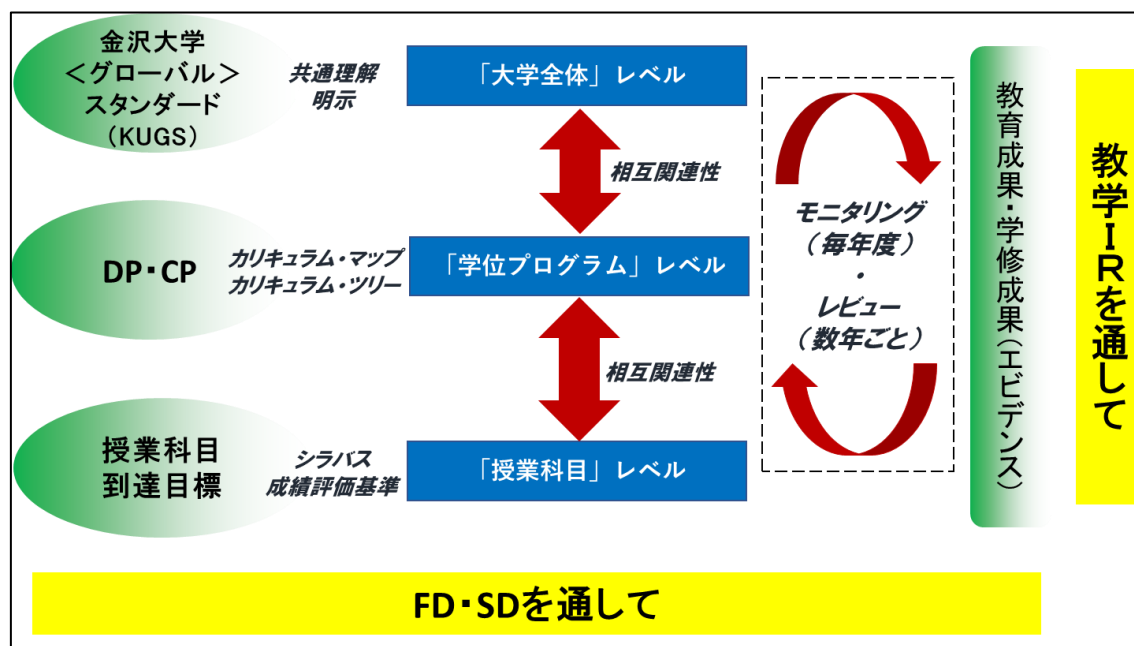
- ① 全学の教学マネジメントの確立、学位プログラム等における教育の質保証及び質向上に関すること。
- ② 教育方法、教育システム及び教育支援等に関する研究開発並びに教育に係る質保証システムの研究開発に関すること。
- ③ 全学的に取り組む教育事業及び分野横断的学位プログラムの企画立案、運営及び評価に関すること。
- ④ 教育スキルの向上に資する支援に関すること。
- ⑤ 全学のFD・SDの企画・実施及び学域・研究科等のFD・SD活動の支援に関すること。



図表1 教学マネジメントセンターの設置及び関係組織との連携体制

1-5 教学マネジメントセンターの活動

教学マネジメントセンターの諸活動を始めるにあたり、『教学マネジメント指針』（中央教育審議会大学分科会 2020）に示された「大学全体」「学位プログラム」「授業科目」レベルに応じた教学マネジメントの枠組を図表 2, 3 のとおり体系づけながら、各レベルに応じた FD・SD, 教学 IR の環境整備と具体的取組を進めている。



図表 2 教学マネジメントセンターが支援する教学マネジメントの枠組の概要図

項 目 レベル	教育・学修目標	改善充実のための機会 (FD・SD)	アセスメントツール (教学IR)
大学全体レベル (マクロ)	金沢大学 <グローバル>スタンダード (KUGS)	全学FD 新任教員説明会	学生生活実態調査 卒業・修了後アンケート
学位プログラムレベル (ミドル)	(各学類、専攻で定めた) ディプロマ・ポリシー (DP)	全学FD 学域・学類、研究科FD	卒業・修了者アンケート DP達成度自己評価
授業科目レベル (ミクロ)	(シラバスに明記された) 学修目標	全学FD 学域・学類、研究科FD 新任教員説明会 CLA研修	授業評価アンケート 成績評価分布

図表 3 アセスメントプランの枠組の概要図

1-5-2 FD・SD 活動の枠組と実績

令和3年度の教学マネジメントセンター設置以降、教育担当理事及び学長補佐（教育改革・学修支援担当）の指示のもと、全学的視点に立ったFD・SD活動を行いながら、部局FDとの協働・連携・支援を行っていく必要があるため、「全学FD・SD」と「部局FD」の関係性について事項整理しながら、「全学FD・SD」で担うべきこと、「部局FD」で担うべきことを明確化している。

【「全学FD・SD」の役割と基本メニュー】

①「全学FD・SD」の役割

- ◆大学の理念や基本方針の理解と共有
- ◆教職員として知っておくべき事項、遵守すべき事項の理解と共有
- ◆各年度における教学関連の全学的課題の理解と共有
- ◆教職協働、教職学協働のための場づくり

②「全学FD・SD」の年間メニュー（基本セット）

図表4 全学FD・SDの年間メニュー（基本セット）

時期	内容
4月	新任教員説明会
4月	CLA（クラス・ラーニング・アドバイザー）研修会，高度TA研修会
9月	全学FD研修会
10月	FD活動報告書成果発表会
12月	教学マネジメントセミナー（全学FD・SD）
2月	CLA（クラス・ラーニング・アドバイザー）実施報告会
2月または3月	教員向け英語研修会
3月	全学FD研修会（当該年度成果報告会）

【「部局FD」の役割と基本メニュー】

①「部局FD」の役割

- ◆各部局における主要事項の理解と共有
- ◆各部局における各年度での諸課題の理解と共有
- ◆各部局における授業・カリキュラム，学修状況・成果の把握・検証
- ◆各部局における全学的課題の理解と共有

②「部局FD」の基本メニュー

各部局に応じた組織単位での実施を尊重しつつ、部局主催でのFD活動について、以下の二つの区分に整理した。

ア) 個別テーマ型FD・・・部局における主要事項の理解と共有，部局における各年度での諸課題の理解と共有を目的として，当該部局が独自のテーマ設定により実施するFD

イ) 統一テーマ型FD・・・全学的課題の理解と共有などを目的とし，教学マネジメント

1-5 教学マネジメントセンターの活動

センター等が連携・支援しながら実施するFD
(授業評価アンケートや卒業・修了者アンケート等の結果報告、
機関別認証評価で求められる学位プログラム単位のDP・CP、
カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリーに関する点検・
見直しなど)

令和6年度全体のFD・SD実績は図表5のとおりである。FD委員会及び教学マネジメントセンターが企画実施する定例的な全学FD研修会に加え、先導STEAM人材育成プログラム(KU-STEAM)の周知を主な目的とした、教職学協働型のKU-STEAMランチョンセミナーを昨年度に続き企画実施した。また、高大接続コア・センターと共同主催した「探究・STEAMフェスタ」についても昨年度に続き企画実施し、高校生・高校教員と大学生・大学院学生・大学教員が集う対話の場づくりを設けることができた。

また、教学マネジメントセンターでは、時機に応じたテーマを話題に、短い時間で気軽に参加・意見交換できることをコンセプトとした新たなFD・SDイベントとして、「FD・SDラウンジ」を2回企画開催し、いずれも好評であった。この新企画は、近年、高等教育を取り巻く環境の変化は目まぐるしく、高等教育機関としてカバーしなければならないテーマや領域が多様化し広がっていることから、新しく対応すべきテーマを中心に、最新の情報や今後の方向性を情報収集・意見交換することを狙いとしたものである。

本学では、各種セミナー・シンポジウム等を「知識集約型社会を支える人材育成事業」幹事校企画として学外に広く公開するとともに、録画データ及び配布資料を学内ポータルサイトに公開・配信している。

図表5 令和6年度FD・SD実績の概要

内 容	開催月日	参加者数
新任教員説明会	4月4日(火) 午前の部 4月4日(火) 午後の部	64名 101名
KU-STEAMランチョンセミナー	4月下旬～11月上旬 計8回開催	325名
全学FD研修会 「文理融合・STEAM教育に関連した授業設計とは ～教養教育、専門教育など多様な観点から考える～」	7月4日(木)	101名 (学外公開)
知識集約型社会を支える人材育成事業(DP)採択校9大学合同企画 「未来志向型ワークショップ2024(アイデアソン) ～『知識集約型社会を支える人材育成事業(DP)』が創造する大学教育の未来～」	8月28日(水)	85名
第1回FD・SDラウンジ 「国立大学における探究型入試の今後の方向性」	9月9日(月)	21名
全学FD研修会及びKU-DPアドバイザーボード 「イシューベースラーニングのすすめ ～課題解決力や実践力を鍛えるための授業設計～」	9月27日(金)	56名 (学外公開)
全学FD研修会 FD活動報告書成果発表会	11月1日(金)	43名
第2回FD・SDラウンジ 「DX・IRに関する取組紹介と今後の可能性 ～身近なソフトウェア活用からMicrosoft365や生成AIの活用事例まで～」	11月29日(金)	51名 (学外公開)
知識集約型社会を支える人材育成事業(DP)共通テーマ3参加校合同主催 教学マネジメントセミナー2024 「分野横断の学びを支援する組織・方法・担い手について考える ～文理融合・STEAM教育の時代における新しい学修支援～」	12月9日(月)	170名 (学外公開)
高大接続ラウンドテーブル特別企画 「探究・STEAMフェスタ2024 ～高校生の探究心に火を灯す～」	12月15日(日)	104名 (学外公開)
知識集約型社会を支える人材育成事業(DP)採択校9大学合同主催 総括シンポジウム 「新しい時代の大学教育につなぐメッセージ ～DP事業が目指し、創り上げてきた成果～」	3月6日(木)	192名 (学外公開)

1-5 教学マネジメントセンターの活動

1-5-3 学士課程・大学院課程の質保証に関連する環境整備

教学マネジメントセンターでは、令和3年度の創設以降、令和4年度に3つのポリシーの一貫性のある見直し、令和5年度にカリキュラム・マップ及びカリキュラム・ツリーの体系的再整備を行いつつ、授業評価アンケート等の学修成果把握のための教学IR環境の整備を進め、その総決算として、「教育の内部質保証に関する指針」を令和5年度末に策定するまでに至った。

令和5年度までに、学位プログラムレベル、授業科目レベルを中心とした教学マネジメントに関する基本的な環境整備が完了したため、令和6年度においては、大学院教育の質保証にも着目し、従来から継続検討していた大学院課程<グローバル>スタンダードの改訂、各研究科の専攻長ヒアリングの実施を行った。令和7年度以降は、学士課程・大学院課程に関する一連の教育改革に寄与できるような組織基盤を整えた。

1-5-3-1 大学院課程<グローバル>スタンダードの改訂

未来創成教育環GS教育企画部「学士・大学院一貫教養教育ワーキング・グループ」における教学マネジメントセンターからの「大学院課程<グローバル>スタンダード」改訂提案を踏まえながら協議を重ね、令和6年7月の教育研究評議会において承認された。

基本的には、現行の内容を踏襲しつつ、一部の内容変更を行いながら、「1. グローバルマインドと明確な倫理的思考」「2. 交渉力・統率力・実践力」の2項目に加え、下記の中教審大学分科会審議まとめ内容などを参考にして、新たに「3. 多様な「知」を融合し、新たな価値を創出する総合知」「4. トランスファラブルスキル」を加えることとした。具体的な改訂内容は以下のとおりである。

図表6 大学院課程<グローバル>スタンダード改正前・改正後

(改正前)

1. 強固なグローバルマインドと明確な倫理的思考	2. 創造性・交渉力・統率力・実践力
今後、人類が直面するグローバルな課題に果敢に挑戦し、常に一個の人間として、確たる倫理的普遍性をもった見識と判断の下に責務を遂行する能力	解決困難な課題にも、革新的なアイデアと粘り強い交渉力を発揮し、強い統率力と確かな実践力をもって局面を開拓する能力

(改正後)

1. グローバルマインドと明確な倫理的思考	2. 交渉力・統率力・実践力	3. 多様な「知」を融合し、新たな価値を創出する総合知	4. トランスファラブルスキル
人類が直面するグローバルな課題に果敢に挑戦し、常に一個の人間として、確たる倫理的普遍性をもった見識と判断の下に責務を遂行する能力 《キーワード》 グローバル 文化・歴史理解 アイデンティティ ELSI (倫理的・法的・社会的課題)	解決困難な課題に粘り強い交渉力を発揮し、強い統率力と確かな実践力をもって局面を開拓する能力 《キーワード》 エンゲージメント リーダーシップ マネジメント レジリエンス	高度な専門性をもって多様な分野を統合し社会を先導できる能力 《キーワード》 高度な専門性 未来知 創造性 アントレプレナーシップ	生涯を通じて、高度な社会課題に関する問題発見・問題解決の場面に適用できるトランスファラブルな能力 《キーワード》 トランスファラブル データサイエンス DXリテラシー AIリテラシー

1-5 教学マネジメントセンターの活動

「大学院課程＜グローバル＞スタンダード」の改訂に伴い、令和4年度から開講している大学院GS基盤科目及び大学院GS発展科目との関係性を明確化したカリキュラム・マップを以下のとおり整えた。

図表7 大学院GS基盤科目及び大学院GS発展科目カリキュラム・マップ

修士・博士前期課程/大学院GS基盤科目に関するカリキュラム・マップ

授業科目名	単位	必修・選択の別	大学院課程＜グローバル＞スタンダードにおける学修目標			
			1. グローバルマインドと明確な倫理的思考：人類が直面するグローバルな課題に果敢に挑戦し、常に一個人の人間として、確たる倫理的普遍性をもった見識と判断の下に貢献を遂行する能力	2. 交渉力・読解力・実践力：解決困難な課題に粘り強い交渉力を発揮し、強い読解力と確かな実践力をもって局面を打開する能力	3. 多様な「知」を融合し、新たな価値を創出する総合知：高度な専門性をもって多様な分野を統合し社会を先導できる能力	4. トランスファラブルスキル：生涯を通じて、高度な社会課題に関する問題発見・問題解決の場面に適用できるトランスファラブルな能力
異分野研究実習Ⅰ Laboratory Rotation Ⅰ	0.5	必修			○	○
異分野研究実習Ⅱ Laboratory Rotation Ⅱ	0.5	必修			○	○
研究者倫理 Research Ethics	1	必修	○			
知識基約型社会とデータサイエンス Data Science in Society 5.0	1	選択必修 1単位			○	○
次世代の先端科学技術 Advanced Science and Technology in the Next Generation	1		○	○	○	
スマート創成科学 Smart Science and Technology for Innovation	1				○	○
イノベーション方法論 Innovation Methodology	1			○	○	
数理・データサイエンス・AI基礎 Mathematical, Data Science, and AI Basic	1				○	○
人間と社会の課題 Human and Social Challenges	1	選択必修 1単位	○	○		○
ビジネス・技術マネジメント戦略論 Strategy for Business and Technology Management	1		○	○	○	○
ヘルスケア・イノベーション Innovation in Healthcare	1			○	○	○
破壊的イノベーションに向けた技術経営論 MOT es for Disruptive Innovation	1		○	○	○	○

博士・博士後期課程/大学院GS発展科目に関するカリキュラム・マップ

授業科目名	単位	必修・選択の別	大学院課程＜グローバル＞スタンダードにおける学修目標			
			1. グローバルマインドと明確な倫理的思考：人類が直面するグローバルな課題に果敢に挑戦し、常に一個人の人間として、確たる倫理的普遍性をもった見識と判断の下に貢献を遂行する能力	2. 交渉力・読解力・実践力：解決困難な課題に粘り強い交渉力を発揮し、強い読解力と確かな実践力をもって局面を打開する能力	3. 多様な「知」を融合し、新たな価値を創出する総合知：高度な専門性をもって多様な分野を統合し社会を先導できる能力	4. トランスファラブルスキル：生涯を通じて、高度な社会課題に関する問題発見・問題解決の場面に適用できるトランスファラブルな能力
次世代研究者倫理 Research Ethics for Ph.D. Researchers	1	必修	○			
次世代エッセンシャル実践 Transferable Skills for Ph.D. Researchers	1	必修		○		○
次世代イノベーション開拓 Unleashing the Potential of Innovation for Future	1	選択必修 1単位	○		○	
数理・データサイエンス・AI発展 Mathematical, Data Science, and AI Advanced	1				○	○
国際研究実践 International Collaborative Research for Innovation	1	必修	○	○	○	○
ジョブ型研究インターンシップ Cooperative Education through Research Internships	2	選択	○	○	○	○

さらに、当該スタンダードに関する学修成果の可視化について、大学院学生版学生生活実態調査などの方法で今後対応していく予定である。

1-5 教学マネジメントセンターの活動

1-5-3-2 (研究科) 専攻長ヒアリング (対話型 FD) の実施

令和5年度において、学類長を対象としたヒアリング (対話型 FD) を行うことを通して、各学類における教学マネジメントの実態や文理融合・分野横断に関連した教育活動の工夫等に関する多くの知見を得ることができた。

令和6年度においては、各研究科・専攻における教学マネジメントの実態を把握することを目的とした専攻長ヒアリング (対話型 FD) を企画することとした。本学において重視している大学院教育の質保証のため、近年、導入した QE (Qualifying Exam) 制度、大学院 GS 基盤科目・大学院 GS 発展科目、ラボ・ローテーション制度を含め、コースワークや研究室教育を通じたカリキュラム・マネジメントや学修成果の把握の観点から、ヒアリング調査を実施した。

【調査対象・実施時期】

調査対象：全研究科 (修士課程、博士前期課程・博士後期課程、博士課程、専門職学位課程) の 23 学類

対応者：専攻長及び教務担当教員

実施時期：令和6年5月27日 (月) ～7月12日 (金) 各1時間半程度

【ヒアリング項目】

以下の項目を事前に送付し、半構造化インタビュー形式で行った。なお、以下の項目以外に、「研究科・専攻における教学関係会議」「全学委員会から依頼事項に対する研究科・専攻内での作業系統」「アドバイザー教員、指導教員等を通じた学生支援」のほか、「授業評価アンケート結果、卒業・修了者アンケート結果の活用度合」を聴取した。

- ① (研究科) 専攻における DP・CP の認知度、大学院学生への説明機会について
- ② (研究科) 専攻におけるカリキュラム点検、シラバス点検について
- ③ (研究科) 専攻における専門教育の特徴、強み、課題について
- ④ (研究科) 専攻における研究室教育について
- ⑤ 大学院学生の学修行動、学修成果 (専門性と汎用性) の把握について
- ⑥ 修士研究・博士研究の審査基準、審査体制について
- ⑦ QE 制度等を含めた学士課程と修士課程・博士前期課程の接続、修士課程・博士前期課程と博士課程・博士後期課程の接続について
- ⑧ ラボ・ローテーションの運営について
- ⑨ 大学院学生に対する学生支援、キャリア支援について
- ⑩ (研究科) 専攻における FD 活動について

【ヒアリング調査結果概要】

<教学マネジメント関係>

- ① (研究科) 専攻における DP・CP の認知度、大学院学生への説明機会について
- ② (研究科) 専攻におけるカリキュラム点検、シラバス点検について

大半の研究科では、履修案内 (学生の手引き) において、ディプロマ・ポリシー (DP)、カリキュラム・ポリシー (CP) を掲載している。なお、自然科学研究科のみ、QR コードでの掲載に留まっている。形式的ではあるが、大学院課程における DP・CP の浸透度合いは高ま

っている。大半の研究科において、修士課程・博士前期課程を中心に、入学時のオリエンテーションにおいて、DP・CPに関連した説明を行っている。

また、カリキュラム点検、シラバス点検についても日常的に行われているが、卒業・修了者アンケート結果の共有について、昨年度の学類長ヒアリングと同様に、不十分な専攻が一部見られた。

<大学院専門教育の特徴、強み、課題>

③（研究科）専攻における専門教育の特徴、強み、課題について

④（研究科）専攻における研究室教育について

人間社会環境研究科、法学研究科、教職実践研究科においては、専攻としての専門教育の特徴や強みが明確化しており、かつ、履修案内等で履修モデルを明示するなど、きめ細かい配慮がなされている。

自然科学研究科については、企業就職の前提として博士前期課程に進学する学生が多く、博士後期課程進学者の確保に苦慮しているケースが見られるが、機械科学を始め、専門分野として博士人材の不足・必要性を訴えるケースが見られた。

医学・薬学・保健学の各専攻においては、非医学系の学生を受け入れる専攻が存在するなど、多様な学生を受け入れるための専門教育プログラムの魅力発信や広報戦略を着実に進めている印象を受けた。専攻としての専門教育の特徴や強みに関する言語化も非常にスムーズであった。なお、薬学専攻における博士課程入学者増の傾向が見られる一方、創薬科学専攻における医薬科学類との接続を通じた進学者のあり方に課題が感じられた。

新学術創成研究科については、異分野融合や最先端のナノ研究分野など、工夫を凝らしたカリキュラム構成や研究指導体制が組まれているが、博士前期課程入学者や博士後期課程進学者の確保に課題を残している。入学者を学内リソースに依存することなく、異分野融合等の魅力発信を通して、学外からの入学者獲得戦略が期待される。

<大学院専門教育における学修成果の把握>

⑤大学院学生の学修行動、学修成果（専門性と汎用性）の把握について

⑥修士研究・博士研究の審査基準、審査体制について

人間社会環境研究科が積極的に取り組む「研究カンファレンス」を中心に、修士研究や博士研究の進捗や学修成果を把握する機会設定がなされている。

自然科学研究科フロンティア工学専攻では、当該専攻の分野横断の特徴を活かして、研究室やコースの垣根を越えた形での大学院生発表会が行われている。

新学術創成研究融合科学共同専攻では、金沢大学・北陸先端科学技術大学院大学の教員が複数指導体制に参画し、幅の広い指導を受けることができる環境となっている。

先進予防医学共同研究科においても、金沢大学・千葉大学・長崎大学の教員が主指導・副指導教員に参画する体制を構築している。

修士研究・博士研究における審査基準、審査体制、さらには、学位審査に至るスケジュールについては、大半の研究科において履修案内またはホームページ等で明示されている。前回の機関別認証評価での指摘に伴う対応は適切に行われていることを確認した。

＜近年の大学院教育改革に伴う対応の現状＞

⑦QE 制度等を含めた学士課程と修士課程・博士前期課程の接続、修士課程・博士前期課程と博士課程・博士後期課程の接続について

⑧ラボ・ローテーションの運営について

QE 制度については、博士前期課程においては、原則として QE で修了することとしているが、修士論文をまとめあげることの重要性を訴える専攻が多く見られた。

ラボ・ローテーションについては、大学院 GS 基盤科目「異分野研究探査Ⅰ・Ⅱ」そのものの趣旨目的の共通理解の徹底や教員の負担感の解消が課題であると感じられた。例えば、全学の研究科を越えた研究交流会のような会にしてはどうかという提案（＝教員の負担を減らし、学生の研究時間の確保しつつ異分野との交流の機会を確保する）があった。

＜大学院における学生支援やFD＞

⑨大学院学生に対する学生支援、キャリア支援について

⑩（研究科）専攻におけるFD活動について

学生支援については、どの研究科においても研究連携協力教員制度が浸透している。

キャリア支援については、主に、自然科学研究科博士前期課程の学生向けに、専攻単位で企業説明会等を行うケースが一部見られる。

FD 活動については、学類と合同で行うケースが多く、大学院教育に特化して実施している事例は、法学研究科法務専攻、教職実践研究科といった専門職学位課程である。この2部局については、専門分野別認証評価等の外部評価が厳格であり、授業評価アンケートの分析、各種FD研修会が相当の頻度で実施されている。

＜その他＞

★大学院教育におけるオンライン授業やオンデマンド教材の有効活用

先進予防医学共同研究科では、コロナ禍を通して、多くの授業をVOD（オンデマンド）化と双方向オンラインで行っているが、オンデマンド率が高いため、最新の研究内容をいかに盛り込むかを議論している。その一方で、社会人大学院生が多い保健学専攻などでは、夜間や臨床業務が増えると両立が難しいという声が多い。また、遠方の学生にはなるべく双方向性のオンラインで対応しているほか、ラボ・ローテーションや大学院GS科目でも対面の科目が多く、社会人大学院生を受け入れる対応を検討する必要がある。医科学専攻・医学専攻は合同のオンライン説明会を行ったところ、例年を大きく上回り、海外からの参加も見られた（＝社会人大学院生の受け入れに向けた広報と制度設計）。

★博士進学増の課題

本学の大学院教育のボリュームゾーンは自然科学研究科であるが、企業就職目的に博士前期課程に進学してくる学生が大半を占めている。学類の2・3年次に博士進学を動機づける機会設定が必要である。例えば、薬学類では、1年次における博士進学者による講話に留まらず、2・3年次におけるキャリア形成科目を学士課程教育のカリキュラムに組み込んでいる。このような事例を参照すべきである。

1-5 教学マネジメントセンターの活動

1-5-3-3 各学域・研究科における教学マネジメント・FD 活動の連携支援

令和 5 年度の学類長ヒアリング及び令和 6 年度の専攻長ヒアリングを通して、各部局における教学マネジメントの実態を把握することができたことに伴い、教学マネジメントセンター側からの連携支援を行いやすい環境を整えることができた。このような環境整備の下、教学マネジメントセンターが中心となって企画実施している全学 FD 研修会について、令和 6 年度までは、知識集約型社会を支える人材育成事業 (DP) に関連したテーマで企画実施するケースが多かった。令和 6 年度で同事業が終了することから、令和 7 年度以降の全学 FD・SD 企画等の事項整理を行った。

【具体的な方向性】

- センター運営経費を財源として、全学 FD・SD 企画等を行うことを基本とするが、各学域主催の FD 研修会等との連携を強化していくこととする。既に、各学域・学類等と連携した FD 研修会等の実績があり、これらの実績を基礎に各学域・学類等での FD 活動を支えることに軸足を置いた取組を進める。

(これまでの各部局との関係性・実績)

融合学域では、教学マネジメントセンター教員が講師となった FD 研修会、ベネッセ i-キャリア職員が講師となった FD 研修会の実施実績があり、同様の連携を継続する。

人間社会学域では、本年 12 月開催の学域主催 FD 研修会にて、教学マネジメントセンター教員が講師を務めたことを契機に、同学域・学類とのチャンネルを強化する。

理工学域では、令和 4 年度より、理工・自然研 FD シンポジウムの企画に教学マネジメントセンターが携わり、令和 5 年度より、本センターが共催して実施している。令和 6 年度も同様に実施予定で連絡調整中であり、今後も同様の関係性を維持する。

医薬保健学域では、令和 5 年度より、医学教育研究センターとの連携を図りカリキュラム委員会に参画するほか、令和 6 年度より、医学類フォーカスグループインタビュー支援などに取り組み、医学教育の質保証の関わりを強めており、今後も、医学類を中心に、同学域・学類との連携を維持する。

- 全学 FD・SD 企画等において、時機に応じた設定テーマに沿って、各学域・学類に 出向き、20～30 分程度のコンパクトな話題提供や意見交換を行う FD 機会の確保に努める。
- 現在、委嘱しているセンターアドバイザーについては、センターにおける FD・SD 企画等において必要な人材であり、来年度以降も継続委嘱することとし、本学の全学 FD・SD 企画等における支援を受ける体制を維持する。
- 数年に 1 回の頻度で、学類長や専攻長を対象としたヒアリングを行い、学位プログラムレベルの教学マネジメントに関するレビューすることで、教育の内部質保証に役立てる。
- 大学コンソーシアム石川教職員研修専門部会に提案する本学主催の FD・SD 企画について、大学コンソーシアム石川加盟機関にとって効果的なテーマを提供できるように努める。

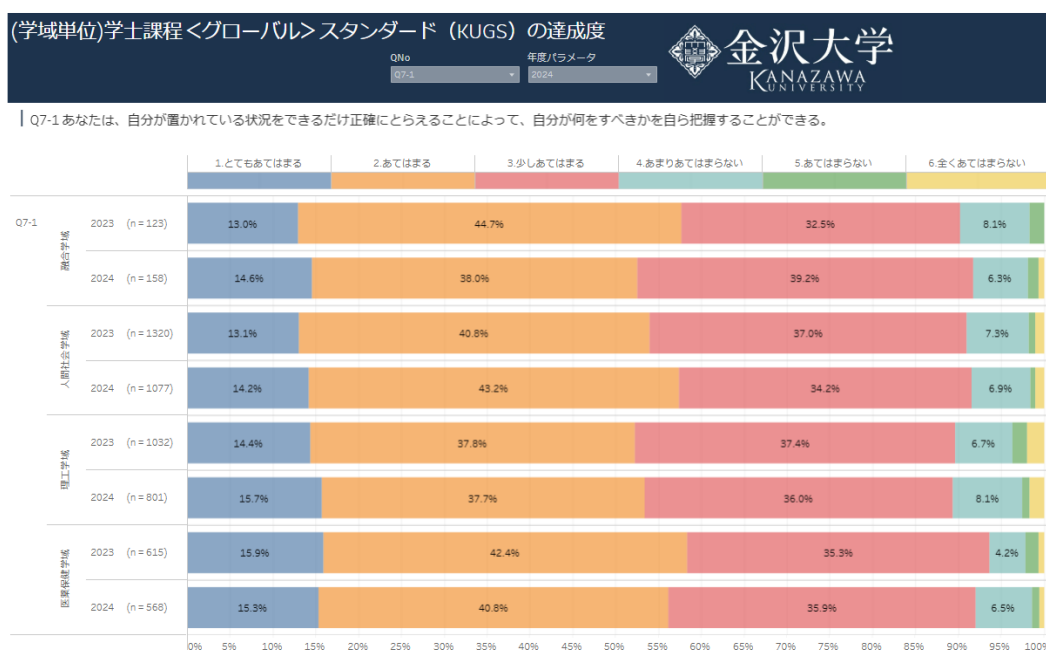
1-5 教学マネジメントセンターの活動

1-5-4 教学 IR 環境整備

令和3年度に、教学マネジメントセンターが中心となり、授業評価アンケートにおける共通設問化、卒業・修了者アンケートにおける学生生活満足度の設問の統一化を行うとともに、当該結果の集計を教学マネジメントセンターで行う環境を整備した。

令和4年度から令和5年度にかけて、FD委員会を通して、当該集計結果を各部局にフィードバックする環境を整えるとともに、FD活動報告書における当該集計結果概要を掲載、さらには、教学マネジメントFACTBOOKの刊行にまで至った。

BIツールのTableauを活用し、授業評価アンケート及び卒業・修了者アンケート集計結果のダッシュボードを整備し、教学マネジメントセンター「教学IRダッシュボード」と称して、学内外に公表している。令和6年度には、新たに、学士課程<グローバル>スタンダード達成度の可視化を追加整備した。以上により、授業科目・学位プログラム・大学全体レベルに関する代表的な学修成果指標のダッシュボード化を完了することができた。



図表 8 学士課程<グローバル>スタンダード達成度可視化ダッシュボード（一部）

1-5-5 全学教育・国際共修機構の創設

全学の教育改革・教学マネジメントの確立を実現し、その中心軸を「学修者本位の教育」へと転換させるべく、令和4年4月に学長の下に「未来創成教育環（以下「教育環」という。）」を設置した。教育環は、本学教育改革の抜本的飛躍を担う組織として、未来創成を牽引する金沢大学ブランド人材の育成・輩出に向けた取組を推進している。

さらに令和7年度には、新たな全学横断型の教育組織として「全学教育・国際共修機構」を設置予定であり、教学マネジメントセンターは同機構の中に位置付けられることになる。同機構は、教育環が掲げる「自ら学び、自ら育む」教育環境の構築を継承し、グローバルイノベーションキャンパスの実現に向け、学士課程から大学院課程に至る一貫したリベラルアーツ教育を充実させるとともに、本学の更なる国際化を見据えた国際共修を強化・推進していく。

教学マネジメントセンターについては、新しい組織体制の下、引き続き、学士課程・大学院課程に関する一連の教育改革を支え、FD・SD 活動、教学関係に関する学生調査の実施・分析、3つのポリシーに基づく教育の内部質保証の充実、認証評価対応に取り組む。

2 各部局等のFD活動

令和6年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 先導学類

参考資料:「令和5年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和6年度に向けた改善計画		
自己評価	令和5年度の自己評価	総評
令和5年度FD活動の自己評価及び総評	3	融合学域3学類合同でFD活動に取り組み、主な活動等は以下のとおりである。 ・融合学域FD研修会を10回実施し、教育方法改善等について意見交換を行った。 ・教務・学生生活委員会委員が、シラバス点検及び改善指導を行い、シラバス内容の充実・評価基準の明確化に取り組んだ。 ・教務・学生生活委員会及び融合学域FD研修会で、授業評価アンケートデータ及び授業公開について協議、意見交換し、授業評価アンケートデータをアカンサスポータルLMSに置き、融合学域教職員限定で閲覧できることとした。また授業公開について、すべての教員の授業を公開することとした。 ・学年進行に合わせ、確立科目の実施方針等について、確立科目WGで継続的に審議した。 ・教育研究会議開催に合わせ融合研究域教員3名が研究シーズ紹介を行い、教員の相互理解を深めた。 今後も学年進行とともに授業内容、方法を振り返り、改善を続けていく。
授業評価アンケート及び令和5年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和6年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和6年度に向けた改善計画 令和5年度に引き続き、FD研修会、教員の研究シーズ紹介等を実施し、教育方法の改善、融合研究の推進に努める。 融合学域3学類学年進行に合わせ、相互の連携を図り、融合学域としての教育組織体制を整備していく。 先導学類は、令和6年度が完成年度となることから、教育方法・教育課程の検証を行い、教育課程の改正等について検討する。 先導学類一学期が卒業となることから、令和6年度末に卒業生アンケートを実施する。

【令和5年度の自己評価】 4: 大いに評価できる, 3: 概ね評価できる, 2: あまり評価できない, 1: ほとんど評価できない

以下、令和6年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☒ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()

2-2 下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☒ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☒ すべての教員の授業を公開している。 ☐ その他()

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもループブリックの記載科目が増加した。 ☒ その他(全科目ループブリック掲載)
②成績評価方法の検証	☒ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他()

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和6年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
第18回融合学域FD研修会	令和6年5月30日	「確立科目/融合研究・演習・試験[卒研相当]について」	28名	融合学域で実施
第19回融合学域FD研修会	令和6年6月27日	「確立科目/融合研究・演習・試験[卒研相当]について その2」	20名	融合学域で実施
第20回融合学域FD研修会	令和6年7月25日	「GPS-Academic(問題解決力測定テスト)の概要・前年度結果・今年度実施予定等」	18名	融合学域で実施
第21回融合学域FD研修会	令和6年11月28日	「文理医融合教育」	19名	融合学域で実施
第22回融合学域FD研修会	令和6年12月26日	「融合学域ふりかえり」	24名	融合学域で実施
第23回融合学域FD研修会	令和7年2月27日	「確立科目その他」	23名	融合学域で実施
第24回融合学域FD研修会	令和7年3月27日	「新年度の課題」	28名	融合学域で実施
研究シーズ紹介	令和6年6月13日	融合研究域教員の研究紹介	40名	融合学域で実施
研究シーズ紹介	令和6年7月11日	融合研究域教員の研究紹介	40名	融合学域で実施
研究シーズ紹介	令和6年10月10日	融合研究域教員の研究紹介	43名	融合学域で実施
研究シーズ紹介	令和6年11月14日	融合研究域教員の研究紹介	42名	融合学域で実施
研究シーズ紹介	令和6年12月12日	融合研究域教員の研究紹介	43名	融合学域で実施
研究シーズ紹介	令和7年1月9日	融合研究域教員の研究紹介	44名	融合学域で実施
先導学類ワークショップ	令和6年10月4日	令和7年度以降カリキュラム ほか	25名	
先導学類ワークショップ	令和6年12月26日	令和7年度以降カリキュラム ほか	24名	
先導学類ワークショップ	令和7年1月17日	令和7年度以降カリキュラム ほか	27名	

○照会事項5 令和6年度FD活動の自己評価及び総評

5—1 貴部局等での令和6年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和6年度の自己評価	総評
3 概ね評価できる	融合学域3学類合同でFD活動に取り組み、主な活動等は以下のとおりである。 ・融合学域FD研修会を7回実施し、教育方法改善等について意見交換を行った。 ・教務・学生生活委員会委員が、シラバス点検及び改善指導を行い、シラバス内容の充実・評価基準の明確化に取り組んだ。 ・授業評価アンケートデータをアカンサスポータルLMSに置き、融合学域教職員限定で閲覧可能とした。 ・先導学類一期生が4年生となり、確立科目(融合研究・融合演習・卒業研究科目)の発表会の運営等について意見交換を行った。 ・融合学域設置から4年目を迎え、初年度の先導学類から、観光デザイン学類、スマート創成科学類を順次設置し、新たに融合科学系の教員となった教員も多くなってきたこともあり、文理医融合教育及びこれまでの融合学域の教育をふりかえり、今後の教育方針等について意見交換を行った。 ・融合系教育研究会議開催に合わせ融合科学系教員6名が研究シーズ紹介を行い、教員研究について相互理解を深めた。 ・先導学類のカリキュラムを検証し、教育課程について意見交換を行った。 ・一期生の卒業に合わせ、令和6年度末に卒業生アンケートを実施した。 今後も学年進行とともに授業内容、方法を振り返り、改善を続けていく。

【令和6年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

5—2 授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

令和6年度に引き続き、FD研修会、教員の研究シーズ紹介等を実施し、教育方法の改善、融合研究の推進に努める。
融合学域3学類学年進行に合わせ、相互の連携を図り、融合学域としての教育組織体制を整備していく。

令和6年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 観光デザイン学類

参考資料:「令和5年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和6年度に向けた改善計画		
自己評価	令和5年度の自己評価	総評
令和5年度FD活動の自己評価及び総評	3	融合学域3学類合同でFD活動に取り組み、主な活動等は以下のとおりである。 ・融合学域FD研修会を10回実施し、教育方法改善等について意見交換を行った。 ・教務・学生生活委員会委員が、シラバス点検及び改善指導を行い、シラバス内容の充実・評価基準の明確化に取り組んだ。 ・教務・学生生活委員会及び融合学域FD研修会で、授業評価アンケートデータ及び授業公開について協議、意見交換し、授業評価アンケートデータをアカンサスポータルLMSに置き、融合学域教職員限定で閲覧できることとした。また授業公開について、すべての教員の授業を公開することとした。 ・学年進行に合わせ、確立科目の実施方針等について、確立科目WGで継続的に審議した。 ・教育研究会議開催に合わせ融合研究域教員3名が研究シーズ紹介を行い、教員の相互理解を深めた。 今後も学年進行とともに授業内容、方法を振り返り、改善を続けていく。
授業評価アンケート及び令和5年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和6年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和6年度に向けた改善計画 令和5年度に引き続き、FD研修会、教員の研究シーズ紹介等を実施し、教育方法の改善、融合研究の推進に努める。 融合学域3学類学年進行に合わせ、相互の連携を図り、融合学域としての教育組織体制を整備していく。

【令和5年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

以下、令和6年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 シラバス改善のための取組の実施状況

下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☒ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()

2-2 下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☒ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☒ すべての教員の授業を公開している。 ☐ その他()

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもループブリックの記載科目が増加した。 ☒ その他(全科目ループブリックを掲載)
②成績評価方法の検証	☒ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他()

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和6年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
第18回融合学域FD研修会	令和6年5月30日	「確立科目/融合研究・演習・試験[卒研相当]について」	28名	融合学域で実施
第19回融合学域FD研修会	令和6年6月27日	「確立科目/融合研究・演習・試験[卒研相当]について その2」	20名	融合学域で実施
第20回融合学域FD研修会	令和6年7月25日	「GPS-Academic(問題解決力測定テスト)の概要・前年度結果・今年度実施予定等」	18名	融合学域で実施
第21回融合学域FD研修会	令和6年11月28日	「文理医融合教育」	19名	融合学域で実施
第22回融合学域FD研修会	令和6年12月26日	「融合学域ふりかえり」	24名	融合学域で実施
第23回融合学域FD研修会	令和7年2月27日	「確立科目その他」	23名	融合学域で実施
第24回融合学域FD研修会	令和7年3月27日	「新年度の課題」	28名	融合学域で実施
研究シーズ紹介	令和6年6月13日	融合研究域教員の研究紹介	40名	融合学域で実施
研究シーズ紹介	令和6年7月11日	融合研究域教員の研究紹介	40名	融合学域で実施
研究シーズ紹介	令和6年10月10日	融合研究域教員の研究紹介	43名	融合学域で実施
研究シーズ紹介	令和6年11月14日	融合研究域教員の研究紹介	42名	融合学域で実施
研究シーズ紹介	令和6年12月12日	融合研究域教員の研究紹介	43名	融合学域で実施
研究シーズ紹介	令和7年1月9日	融合研究域教員の研究紹介	44名	融合学域で実施
観光デザイン学類ワークショップ	令和6年10月15日	復興・産業創生に向けての地域連携推進ほか	23名	
観光デザイン学類ワークショップ	令和6年12月3日	令和7年度授業担当教員 ほか	22名	

○照会事項5 令和6年度FD活動の自己評価及び総評

5—1 貴部局等での令和6年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和6年度の自己評価	総評
3 概ね評価できる	融合学域3学類合同でFD活動に取り組み、主な活動等は以下のとおりである。 ・融合学域FD研修会を7回実施し、教育方法改善等について意見交換を行った。 ・教務・学生生活委員会委員が、シラバス点検及び改善指導を行い、シラバス内容の充実・評価基準の明確化に取り組んだ。 ・授業評価アンケートデータをアカンサスポータルLMSに置き、融合学域教職員限定で閲覧可能とした。 ・先導学類一期生が4年次となり、確立科目(融合研究・融合演習・卒業研究科目)の発表会の運営等について意見交換を行った。 ・融合学域設置から4年目を迎え、初年度の先導学類から、観光デザイン学類、スマート創成科学類を順次設置し、新たに融合科学系の教員となった教員も多くなってきたこともあり、文理医融合教育及びこれまでの融合学域の教育を振り返り、今後の教育方針等について意見交換を行った。 ・融合系教育研究会議開催に合わせ融合科学系教員6名が研究シーズ紹介を行い、教員研究について相互理解を深めた。 今後も学年進行とともに授業内容、方法を振り返り、改善を続けていく。

【令和6年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

5—2 授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

令和6年度に引き続き、FD研修会、教員の研究シーズ紹介等を実施し、教育方法の改善、融合研究の推進に努める。 融合学域3学類学年進行に合わせ、相互の連携を図り、融合学域としての教育組織体制を整備していく。 観光デザイン学類は、令和7年度が完成年度となることから、教育方法・教育課程の検証を行い、教育課程の改正等について検討する。 観光デザイン学類一期生が卒業となることから、令和7年度末に卒業者アンケートを実施する。

令和6年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 スマート創成科学類

参考資料:「令和5年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和6年度に向けた改善計画		
自己評価	令和5年度の自己評価	総評
令和5年度FD活動の自己評価及び総評	3	融合学域3学類合同でFD活動に取り組み、主な活動等は以下のとおりである。 ・融合学域FD研修会を10回実施し、教育方法改善等について意見交換を行った。 ・教務・学生生活委員会委員が、シラバス点検及び改善指導を行い、シラバス内容の充実・評価基準の明確化に取り組んだ。 ・教務・学生生活委員会及び融合学域FD研修会で、授業評価アンケートデータ及び授業公開について協議、意見交換し、授業評価アンケートデータをアカンサスポータルLMSに置き、融合学域教職員限定で閲覧できることとした。また授業公開について、すべての教員の授業を公開することとした。 ・学年進行に合わせ、確立科目の実施方針等について、確立科目WGで継続的に審議した。 ・教育研究会議開催に合わせ融合研究域教員3名が研究シーズ紹介を行い、教員の相互理解を深めた。 今後も学年進行とともに授業内容、方法を振り返り、改善を続けていく。
授業評価アンケート及び令和5年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和6年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和6年度に向けた改善計画 令和5年度に引き続き、FD研修会、教員の研究シーズ紹介等を実施し、教育方法の改善、融合研究の推進に努める。 融合学域3学類学年進行に合わせ、相互の連携を図り、融合学域としての教育組織体制を整備していく。

【令和5年度の自己評価】 4: 大いに評価できる, 3: 概ね評価できる, 2: あまり評価できない, 1: ほとんど評価できない

以下、令和6年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 シラバス改善のための取組の実施状況

下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☒ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()

2-2 下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☒ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☒ すべての教員の授業を公開している。 ☐ その他()

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☒ その他(全科目ルーブリックを掲載)
②成績評価方法の検証	☒ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他()

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和6年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
第18回融合学域FD研修会	令和6年5月30日	「確立科目/融合研究・演習・試験[卒研相当]について」	28名	融合学域で実施
第19回融合学域FD研修会	令和6年6月27日	「確立科目/融合研究・演習・試験[卒研相当]について その2」	20名	融合学域で実施
第20回融合学域FD研修会	令和6年7月25日	「GPS-Academic(問題解決力測定テスト)の概要・前年度結果・今年度実施予定等」	18名	融合学域で実施
第21回融合学域FD研修会	令和6年11月28日	「文理医融合教育」	19名	融合学域で実施
第22回融合学域FD研修会	令和6年12月26日	「融合学域ふりかえり」	24名	融合学域で実施
第23回融合学域FD研修会	令和7年2月27日	「確立科目その他」	23名	融合学域で実施
第24回融合学域FD研修会	令和7年3月27日	「新年度の課題」	28名	融合学域で実施
研究シーズ紹介	令和6年6月13日	融合研究域教員の研究紹介	40名	融合学域で実施
研究シーズ紹介	令和6年7月11日	融合研究域教員の研究紹介	40名	融合学域で実施
研究シーズ紹介	令和6年10月10日	融合研究域教員の研究紹介	43名	融合学域で実施
研究シーズ紹介	令和6年11月14日	融合研究域教員の研究紹介	42名	融合学域で実施
研究シーズ紹介	令和6年12月12日	融合研究域教員の研究紹介	43名	融合学域で実施
研究シーズ紹介	令和7年1月9日	融合研究域教員の研究紹介	44名	融合学域で実施
スマート創成科学類ワークショップ	令和6年10月24日	令和7年度授業担当教員 ほか	26名	

○照会事項5 令和6年度FD活動の自己評価及び総評

5—1 貴部局等での令和6年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和6年度の自己評価	総評
3 概ね評価できる	融合学域3学類合同でFD活動に取り組み、主な活動等は以下のとおりである。 ・融合学域FD研修会を7回実施し、教育方法改善等について意見交換を行った。 ・教務・学生生活委員会委員が、シラバス点検及び改善指導を行い、シラバス内容の充実・評価基準の明確化に取り組んだ。 ・授業評価アンケートデータをアカンサスポータルLMSに置き、融合学域教職員限定で閲覧可能とした。 ・先導学類一期生が年次となり、確立科目(融合研究・融合演習・卒業研究科目)の発表会の運営等について意見交換を行った。 ・融合学域設置から4年目を迎え、初年度の先導学類から、観光デザイン学類、スマート創成科学類を順次設置し、新たに融合科学系の教員となった教員も多くなってきたこともあり、文理医融合教育及びこれまでの融合学域の教育を振り返り、今後の教育方針等について意見交換を行った。 ・融合系教育研究会議開催に合わせ融合科学系教員6名が研究シーズ紹介を行い、教員研究について相互理解を深めた。 今後も学年進行とともに授業内容、方法を振り返り、改善を続けていく。

【令和6年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

5—2 授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

令和6年度に引き続き、FD研修会、教員の研究シーズ紹介等を実施し、教育方法の改善、融合研究の推進に努める。 融合学域3学類学年進行に合わせ、相互の連携を図り、融合学域としての教育組織体制を整備していく。
--

令和6年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 人文学類

参考資料:「令和5年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和6年度に向けた改善計画		
自己評価	令和5年度の自己評価	総評
令和5年度FD活動の自己評価及び総評	3	教員相互の授業参観・授業評価、成績評価基準等の作成・検証、FD研修会等については、ほぼ当初計画通りに着実に実施することができた。授業参観については、対面型で実施した。また、FD研修会では、異文化体験的COIL型授業について一層の理解を深めることができた。
授業評価アンケート及び令和5年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和6年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和6年度に向けた改善計画 令和5年度の授業評価アンケート結果を見る限り、本学類の教育は総じて学生から高く評価されていることが分かる。今年度は、基本的にはこれまでの取り組みを踏襲し、学類のFD研修会や公開授業の実施などを通じて、学類教員の教育能力向上を図ることにいっそう意を注ぐ予定である。これに加えて、更に多くの学生が授業の満足度を高め、達成感が得られるよう、各方面からの意見や助言を得ながら委員会として積極的に対応策を検討していきたい。

【令和5年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

以下、令和6年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☐ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☒ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☒ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()

2-2 下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☐ 授業カタログを活用した。 ☒ モデル授業について実施した。 ☒ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☐ その他()

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☒ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☒ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☒ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他()

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和6年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
人文学類FD研修会	令和6年11月1日	仲 真紀子 先生(国立研究開発法人理化学研究所・理事) 「ダイバーシティがあるとよい理由」	学類長, FD 委員 ほか。計約24名	オンライン、人間社会学域公開

○照会事項5 令和6年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和6年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和6年度の自己評価	総評
3	教員相互の授業参観・授業評価、成績評価基準等の作成・検証、FD研修会等については、ほぼ当初計画通りに着実に実施することができた。授業参観については、対面型と授業録画のオンデマンド配信の2タイプで実施した。特に、FD 研修会では、ダイバーシティについて留意した教育実践の重要性の一層の理解を深めることができた。

【令和6年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

令和6年度の授業評価アンケートおよび卒業生アンケートの結果を見ると、本学類の教育は総じて学生からかなり高く評価され続けていることが分かる。令和7年度も、基本的にはこれまでの取り組みを踏襲し、学類のFD研修会や公開授業の実施などを通じて、学類教員の教育能力向上を図ることにさらに意を注ぐ予定である。これに加えて、更に多くの学生が授業の満足度を高め、達成感が得られるよう、各方面からの意見や助言を得ながら委員会として積極的に対応策を検討していきたい。

令和6年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 法学類

参考資料:「令和5年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和6年度に向けた改善計画		
自己評価	令和5年度の自己評価	総評
令和5年度FD活動の自己評価及び総評	3	各教員に対する各種の負担が増えるなか、学生に対するアドバイスをいかに効率的に行うか、数回にわたって学類会議で議論し、問題意識を共有してきた。連絡が取りにくい学生にどうアプローチするかについて、教員同士で機会あるごとに情報交換している。FD研修会では、法学・政治学を学ぶ学類生にとって有用な英語力の向上を目指して創設された、English for Legal Studiesで、実際担当している教員から学生の授業態度や、生の英会話、聴き取りにあまり慣れていない学生に、どのようにして興味を持ってもらうか議論し、問題意識を共有した。
授業評価アンケート及び令和5年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和6年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和6年度に向けた改善計画

【令和5年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和6年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☒ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☒ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他(自由記述欄での指摘について学類会議で情報共有し、学類運営委員会で、改善策を検討した)

2-2 下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☐ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☒ すべての教員の授業を公開している。 ☐ その他()

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☒ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他()

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和6年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
人間社会学域FD研修会	令和6年12月17日	教学マネジメントセンターの林透教授を講師に迎え、全学の教育体制の変化に伴って各教員が意識的に取り組むべき課題を提示して頂き、それに基づいて意見交換した。	40名	法学類・法務専攻主体のFD研修会を人間社会学域全体に開放したもの
初学者科目担当者FD研修会	令和7年2月12日	アカデミックスキルなどの一年次教育に関する意見交換	8名	

○照会事項5 令和6年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和6年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和6年度の自己評価	総評
3	FD研修会、卒業生アンケートや教務委員会、学生生活委員会の報告で指摘された様々な問題点に焦点を当てながら、学類会議等、全教員が集まる場で問題意識を共有し、学域再編やキャンパス再整備が進んでいくなかで、学生の学修環境をどのように維持・改善していくべきか、どのように進路指導すべきか議論を重ねている。また、特に司法試験・法曹養成と関連する授業科目について、どのように成績評価するかについて学類会議等で意見交換している。

【令和6年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

各教員とも学生に対し、授業の時間外で自発的に学んでおくべきことを指示し、参考文献も適宜指示しているが、アンケート結果などを見る限り、どのようにすれば効果的に学修できるのか、そもそもどこから手を付けたいのかコツが掴めないため、予習・復習が疎かになっている学生も少ないように思われる。学類としては、学生が自発的に学修するグループを形成しやすいよう、学生が集まる機会を提供するなど工夫しているが、友人が少ないことなどから、そうしたグループに参加するのに気後れする学生もいると思われる。令和7年度は、グループあるいは個人での法学・政治学の学修プロセスのモデルを構築し、それを授業の中でどのように伝えていくか検討することを課題とした。

令和6年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 経済学類

参考資料:「令和5年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和6年度に向けた改善計画		
自己評価	令和5年度の自己評価	総評
令和5年度FD活動の自己評価及び総評	4	2回のFD研修会のほかに、以下のFD活動を実施した。 ・経済学類ゼミナール大会 企画・運営 ・教員と学生懇談会 企画・運営 ゼミナール大会については、ゼミ運営のメルクマールとしての役割やプレゼンテーション能力の向上にも寄与して学生もその意義を認識していることから、「4:大いに評価できる」とした。
授業評価アンケート及び令和5年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和6年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和6年度に向けた改善計画 学域 GS 言語科目を中心とする教員ローテーション科目について、学生への効果の観点で授業運用や評価方法などを毎年見直すなど試行錯誤している。この点で、有意義な運用などをFD研修会などで共有するとともに問題点を洗い出し、卒業要件であるTOEICスコア到達に向けて検討していく。

【令和5年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和6年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☒ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☐ 科目担当者間で共有した。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()

2-2 下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☒ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☒ その他(ローテーション科目での取り扱い内容について報告・共有した。)

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☒ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☒ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他()

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和6年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数(概数)	備 考
外部講師(コインチェック株式会社代表取締役 会長執行役員 蓮尾聡氏)講演会	令和6年6月12日	仮想通貨に関する知識の整理や今後の展開について説明し、学生からの質問に対応	学生135名 教員6名	
学域GS言語に関する研修会	令和6年8月1日	「学域GS言語」のシステム利用方法並びに実践報告	FD委員 他 9名	
外部講師(ニッセイ基礎研究所 主任研究員 佐久間誠氏)講演会	令和6年12月19日	「教育や研究における生成AIの活用」と題して生成AIの現状と使用方法、活用にあたっての注意点や法律違反等に関する事例等を講演	経済学類11名 他学類3名 合計14名	
武田公子教授 最終講義	令和7年3月7日	ボランティア学に関する歴史並びにカリキュラムの成立や現状に関して報告	経済学経営学系10名 他9名・合計19名	

○照会事項5 令和6年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和6年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和6年度の自己評価	総評
4	上記4回のFD研修会の他に、以下のFD活動を実施した。 ・経済学類ゼミナール大会の企画・運営 ・教員と学生懇談会の企画・運営 ゼミナール大会については、ゼミ運営のメルクマールとしての役割やプレゼンテーション能力の向上にも寄与している。学生もその意義を認識していることから、「4:大いに評価できる」とした。また、12月のFD研修後に、生成AIの使い方に関するパワーポイントを作成し、アカデミックスキルの教材として、学類全体で共有した。

【令和6年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

学域 GS 言語科目を中心とする教員ローテーション科目について、学生への効果の観点で授業運用や評価方法などを毎年見直すなど試行錯誤している。この点で、有意義な運用などを FD 研修会などで共有すると共に、問題点を洗い出し、卒業要件であるTOEICスコア到達に向けて検討していく。
--

令和6年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 学校教育学類

参考資料:「令和5年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和6年度に向けた改善計画		
自己評価	令和5年度の自己評価	総評
令和5年度FD活動の自己評価及び総評	4	令和5年度は、FD活動の多くを通常の状態に戻して実施することができた。今年度は金沢大学と富山大学が共同教員養成課程をスタートさせてから2年目となった。多くの専門的科目が開始され、それらのうち「斉一授業」で行われるものも多い。斉一授業の多くは両大学の教室を専用の回線で結び、いずれかの大学の担当教員が授業を同時に行う形になるが、年次進行によりその形式の授業が多くなった結果、いくつかの改善すべき課題も明らかになった。FD研修会や情報の共有を通してそれらの改善に向けての意識を強く持つように働きかける試みが行われた。 令和5年度の学校教育学類FD・カリキュラム委員会は、学類の教育力を向上させるためのFD研修会を計3回実施した。そのうち特筆すべきものは、令和5年9月28日に金沢大学と富山大学を結んで実施した「第1回金沢大学・富山大学合同FD研修会(第2回金沢大学学校教育学類FD研修会)」の実施であった。これは、上述の「斉一授業」において同時開催授業を担当した両大学の教員がその経験を基に、授業に向け準備すべきこと、進め方における注意点、実際に発生した困難やその解決に向けての工夫などを提起し、両大学からの質疑応答を行うものであった。昨年度は金沢大学開催の研修会を富山大学にも同時送信し、質疑応答には両大学の教員が参加し話し合いを行うことができたが、今年度は企画から実施のすべてを両大学の協力によって行うことができたことにおいて大変意義深い研修会となった。今回の研修会合同実施により、授業評価などの共通フォーマット化を進めるなど、この課程の授業を充実させるために両大学がこれからより一層緊密な関係を構築するための環境醸成が進んだ。 また大学が行う「授業評価アンケート」に加えて、学校教育学類FD・カリキュラム委員会は学類全学生を対象として学類学生が将来教職に就く意志をどのように形成されていくかを継続的に調査する学類独自のアンケート(「教職に就く意志についての意識調査」)を5月と10月に計2回実施した。この調査は今後も継続し、できる限り多くの学生の声にきめ細やかに耳を傾け、学類教育全体の質の向上へと繋げてゆく。 今年度2回実施する予定であった学類の研究授業だが、実施は一度となった。その研究授業は初めて富山大学共同教員養成課程との「斉一授業」を題材としたもので、この実施と授業討論会を通して授業の成果と課題を明らかにすることができた。予定されていたもうひとつの研究授業は能登半島地震の影響により次年度に延期せざるを得なかったが、すでに令和6年度の実施日程も決定され準備が進んでいる。 以上、令和5年度のFD活動全体を通して考察すると、更なる取り組みが必要とされる点があるものの、富山大学との合同研修会や、斉一授業を題材とする研究授業の実施といった初めての取り組みを含み、可能な活動に積極的に取り組んだことから、「4:大いに評価できる」と自己評価する。
授業評価アンケート及び令和5年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和6年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和6年度に向けた改善計画
		学校教育学類は所属学生全員に対して、「教職に就く意志についての意識調査」を令和5年度も二度実施した。この調査は学生たちの教職に対する現時点での意識や、変化を教員が理解し、通常の授業やその他の学生指導に活用することが目的として含まれる。同意意識調査では授業や学生生活における意見などが寄せられるが、個人情報処理後に学類教員が共有する。これらは授業やその他の指導における改善点について、学生からの貴重な声を聞くための不可欠な資料となっている。学生たちがこの調査を将来への意思を確認する機会として利用していることから、学類の学生と教員がともに学修やその他の活動をより充実したものとしていくための重要な活動となっている。 また、3月に実施された「卒業生アンケート」においては高い回答率が見られ、信頼性のある結果が得られたと考える。学修の達成度を問うそれぞれの項目について「十分に達成している」の数値と「ある程度達成している」をあわせるとほぼすべての項目で90%以上の達成度となった。学校教育学類での学びについて「満足・あるいはやや満足」と解答している学生が98%以上に達することは特筆すべきことと考える。 「令和5年度授業評価アンケート」に関して、学類所属教員には学類会議等で調査実施への協力、また結果の確認とその後の活用に係る依頼と提言を行った。従来課程の学校教育学類、および新課程である共同教員養成課程の両方において回答率は最も高いものとなっている。授業内容の適切性、授業理解度、学修目標達成度、授業満足度のいずれについても高い数値を示しており、学類が提供する授業に対する学生からの高い評価はおおむね明らかだと思われる。授業時間外の学習時間について、従来の課程に所属する学生の勉強時間が多いものとなっている。このことは日々の課題に取り組むことを通じ、将来の目標に向い努力している様子が強く窺われる。だがその一方で、令和5年度においては1,2年次が所属する共同教員養成課程の学生については不十分な様子が見られる。各授業に個別に寄せられた学生の真摯な思いを受け止めて各教員が授業の一層の充実に向けて努力するのはもとより、学類教員間でこの全体の状況を共有し、より熟慮を重ねて学生指導にあたる必要がある。令和6年度にも実施される同アンケートについて、調査対象授業科目を担当する教員には学類会議等を通して実施協力依頼がすでになされているが、アンケート結果の一層の活用についても学類会議などにおいてFD・カリキュラム委員会が継続的に関心を喚起し、さまざまな提言を行う。

【令和5年度の自己評価】 4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

以下、令和6年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☐ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☐ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☒ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()

2-2 下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☐ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☒ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☒ その他(FD研究授業を実施、アンケートで高評価の授業者の授業テクニックを研修会で共有)

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☒ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他()

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和6年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
学校教育学類FD研修会	令和6年8月26日	「探究の学び」をより深化・発展させる学類、研究科、附属学校園の研究連携を目指して	学類から40名参加	
第1回 金沢大学・富山大学共同教員養成課程合同FD研修会	令和6年9月25日	共同教員養成課程における遠隔授業の課題と対応	学類から15名参加	富山大学とはリモートで実施
第2回 金沢大学・富山大学共同教員課程合同FD研修会	令和7年1月16日	共同教員養成課程におけるユニット活動について	学類から25名参加	富山大学とはリモートで実施

○照会事項5 令和6年度FD活動の自己評価及び総評

5—1 貴部局等での令和6年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和6年度の自己評価	総評
3	令和4年度に始まった富山大学との共同教員養成課程は、令和6年度で3年目を迎えた。専門科目の授業が増える中で、例年行っているFD研修会、授業アンケート、教職に関するアンケートに加え、令和6年度は富山大学との合同FD研修会を2回実施した。総評として、富山大学との合同研修会を中心に述べる。 第1回は、令和5年度から課題となっている「斉一授業」をテーマに行った。研修会では両大学で共通したアンケートの結果に基づき、課題を明確にするとともに、評価が高かった授業担当者の授業方法や工夫を共有した。特に、斉一授業における遠隔で受講する学生に対し、どのような能動的な学習支援を提供できるかについて、活発な意見が交わされた。 さらに、第2回の合同研修会では両大学間の学生交流を促進する小旅行型のエクスカッション活動について議論し、課題を整理した。令和7年度が本課程の完成年度にあたることを踏まえ、エクスカッションの改善点を具体化した。今後はより効果的な実施方法の検討が必要である。

【令和6年度の自己評価】 4: 大いに評価できる、3: 概ね評価できる、2: あまり評価できない、1: ほとんど評価できない

5—2 授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

全学的に実施されている授業評価アンケートに加え、学類独自の「教職に関する意識調査」も実施している。1, 2年次対象は5月のみ実施し、3, 4年次対象は5月に加え教育実習後の10月にも実施している。 この調査の目的の一つは、学生の4年間にわたる教職への意欲の推移を明らかにすることである。そして、もう一つの目的は、3, 4年次を対象にした調査において、大学の授業と教育実習との関連を学生の視点から検討することである。学生が実習を経験することで、実習前にどのような学びが必要だったのか、また実習後にはどのような学びを求めているのかを明らかにし、カリキュラムや授業改善に役立てることを目的としている。 一つ目の目的に関しては、教職に対する意欲は1年から4年まで概ね維持され、特に実習以降に意欲が上がったという意見が多くみられた。一方で、入学時から教職に対する意欲が低い学生がある程度存在し、令和7年度はその学生への具体的なサポートが求められる。 二つ目の目的に関しては、5-1で述べたとおり、斉一科目における遠隔授業とエクスカッションの課題が明確になった。前者では、FD研修会で議論したような能動的な学習支援の具体的な手法を、遠隔授業の担当者に活用してもらうことで改善を行っていく。そして、後者ではエクスカッションを実施する推奨期間を設定することが令和7年度の具体的改善策の一つとして挙げられる。さらには、エクスカッションの設定理念は大変重要なものであるが、学生はカリキュラム外活動であるエクスカッションに対して消極的である。本活動に積極的な参加を促進させる具体策を検討する必要があり、富山大学と連携して検討していく計画ができています。 次年度は本課程の完成年度にあたるため、引き続きこれまで実施してきたFD活動の充実を図るとともに、富山大学との合同FD研修会を通じて、カリキュラムの強化、深化および効果的な授業実践を支援していきたい。
--

令和6年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 地域創造学類

参考資料:「令和5年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和6年度に向けた改善計画		
自己評価	令和5年度の自己評価	総評
令和5年度FD活動の自己評価及び総評	3	全教員の授業公開および授業参観、卒業生アンケート・授業評価アンケートの公表、成績評価分布の共有などのFD活動について滞りなく実施した。シラバス点検については、昨年度、教務・学生生活委員会とFD委員会の合同で全教員分を対象に実施したため、今年度はFD委員長による抽出点検を行い、必要項目の記載はほぼ徹底されていることを確認した。昨年度来、毎月1名の教員によるFD研修会(教育・研究実践報告)を実施しており、教育研究内容の相互理解や教育研究の質の向上を図っている。この研修会の動画は学生にも公開し、専門分野への興味・関心の醸成に役立っている。一方、昨年度は卒業生アンケートの回収率が低いことが課題であったが、今年度はアンケート開始時期の前倒しや複数回の呼びかけにより回収率が格段に向上した(約30%→約60%)。授業評価アンケートの活用に工夫の余地があるが、概ね評価できるFD活動であったと言える。
授業評価アンケート及び令和5年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和6年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和6年度に向けた改善計画
		今年度の卒業生アンケート(回収率約6割)の結果を分析したところ、学類のDPに関する能力はほとんどの項目で「高められた」「まあ高められた」、また学類教育の満足度もほとんどの項目で「満足している」「やや満足している」との高い評価を得ていた。このことから、当学類の学生教育は概ね適切であると言え、今後も同様に丁寧に取り組んでいくことが望まれる。その一方で、授業評価アンケートについては活用しきれていない。令和5年度からシラバスに予習・復習のための教材や学修時間を記載したことを踏まえ、予習・復習時間の変化に伴う授業の理解度についての検証等を行う必要があると思われる。さらにその検証結果を踏まえ、教育方法の改善についても検討を行いたい。

【令和5年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

以下、令和6年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 シラバス改善のための取組の実施状況

下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☐ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☐ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☐ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☐ 科目担当者間で共有した。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☒ その他(各教員が活用した)
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☒ その他(FD委員会で分析した結果を共有した)

2-2 下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☐ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☒ その他(1回実施した)

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☐ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☐ 成績評価分布を調査した。 ☐ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☒ その他(各教員で検証した)

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和6年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
地域創造学類FD研修会	令和6年4月18日	藤谷教員の実践報告	8名	
地域創造学類FD研修会	令和6年5月16日	森山教員の実践報告	8名	
地域創造学類FD研修会	令和6年6月20日	坂本教員の実践報告	8名	
地域創造学類FD研修会	令和6年7月25日	丹羽教員の実践報告	8名	

○照会事項5 令和6年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和6年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和6年度の自己評価	総評
3	授業参観、卒業者アンケート・授業評価アンケート、カリキュラムマップ・ツリー更新などのFD活動を実施した。シラバス点検については、令和5年と同様に今年度もFD委員長による抽出点検を行い、必要項目の記載はほぼ徹底されていることを確認した。令和4年度から教員によるFD研修会(教育・研究実践報告)を実施しており、教育研究内容の相互理解や教育研究の質の向上を図っている。この研修会の動画は学生にも公開し、専門分野への興味・関心の醸成に役立てている。卒業者アンケートの回収率を改善するため、令和5年度と同様にアンケート開始時期の前倒しや複数回のアナウンスを行った。授業参観の増加や授業評価アンケート活用工夫の余地があるが、概ね評価できるFD活動であった。

【令和6年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

令和6年度の卒業者アンケート(回収率約5割)の結果を分析したところ、学類のDPIに関する能力はほとんどの項目で「高められた」「まあ高められた」、また、学類教育の満足度もほとんどの項目で「満足している」「やや満足している」との高い評価を得ていた。このことから、当学類の学生教育は概ね適切であると言えるが、地域創造学をより体系的に学修するための教科書を学類全体で作成することを計画している。この執筆作業において授業評価アンケートの活用を計画している。また、FD委員による授業参観の回数を増加させて、教育方法の改善および地域創造学の教科書における執筆内容の検討を行いたい。

令和6年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 国際学類

参考資料:「令和5年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和6年度に向けた改善計画		
自己評価	令和5年度の自己評価	総評
令和5年度FD活動の自己評価及び総評	3	本学類のFD活動に基づく授業の質向上は、卒業生の授業アンケートの結果(授業に対する満足度に関し文系学類においてトップ)等からみても、概して満足すべき水準にあると思われる。中野涼子教授の指導によるシンガポール国立大とのコイル授業の展開など、国際学類ならではの特色ある思考も次第に成熟しつつある。今後の課題としては学生への聞き取り調査等に基づく、従来認知されてこなかったような改善点の洗い出しがあげられるが、年度末に生じた担当者(石黒)の不慮の事故による療養のため、この課題に十分に取り組みなかったことが残念である。本年度の取り組み事項としたい。
授業評価アンケート及び令和5年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和6年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和6年度に向けた改善計画

【令和5年度の自己評価】4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和6年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☐ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☒ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 課題のある科目に注意を行った。 ☒ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☒ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他(コース制からプログラム制へ移行中だが参考にした)

2-2 下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☐ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☐ その他()

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☒ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☒ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☒ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☒ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他()

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和6年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
教職課程に関する研修会	令和6年5月28日	教職課程についての理解を整理し対応の共有を図る研修会	10名	
生成AI利用に関する研修会	令和6年10月29日	アカデミックスキルにおける生成AIの取り入れについての研修会	10名	
アカデミックスキル・プレゼンディベート論研修会	令和7年3月7日	アカデミックスキル・プレゼンディベート論担当教員の実践報告及び改善案検討会	10名	

○照会事項5 令和6年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和6年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和6年度の自己評価	総評
3	過去1～2年で急速に発展・普及している生成AIのアカデミックスキルでの取り扱いについて理解と認識を共有することが出来たことは評価できる。また、教職課程について教員側の理解を整理し希望する学生に対するアドバイス面談に対する備えを確立させたことも重要である。卒業生の授業アンケート結果を見ても満足度は全体にかなり高い状態を維持しており概して評価できる水準を保っていると考えられるが、国際学類の教員構成上一部カバーしきれない地域に対する学生の関心にどのように対応すべきかといった課題が残っていることも事実であり、今後の検討と改善が必要と考えられる。

【令和6年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

令和7年度には教員相互の授業参観を定着させる予定である。FD研修会「歴史総合を考える」を開催予定。これによって、学生は高校で何を学んでくるのか、ということを確認し、授業の向上を図る。

令和6年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 数物科学類・数物科学専攻

参考資料:「令和5年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和6年度に向けた改善計画		
自己評価	令和5年度の自己評価	総評
令和5年度FD活動の自己評価及び総評	3	今年度もQ4を中心にオンライン授業を行わざるを得ない状況が頻発した。また、予習・復習の教材を準備することが要請され、遠隔教材を指定されることも多くなった。遠隔と対面および自習用に共用できる教材開発が行われ、教材の改善にFDが貢献したと考えられる。研修会は実施できなかったが、R6に談話会を行う予定。
授業評価アンケート及び令和5年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和6年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和6年度に向けた改善計画
		R5年度はアンケート実施数を改善できたが、回答内容の質に問題がある。回答時間の確保や学生への協力依頼等を行うことで、より良いデータを用いてカリキュラムの改善につなげていく。

【令和5年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和6年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☒ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☐ 科目担当者間で共有した。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()

2-2 下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☒ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☐ その他()

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☒ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他()

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和6年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
実施なし				

○照会事項5 令和6年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和6年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和6年度の自己評価	総評
3	授業は適切におこなわれるようになり、また、予習・復習の教材も考慮した教材の開発が行われた。遠隔、対面および自習用に共用できる教材の改善にFDが貢献したと考えられる。研修会は実施できなかったが、研修会の企画を検討する。

【令和6年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

令和6年度は事務的なトラブルもあり、アンケート実施数を改善できなかった。回答内容の質に問題があるので、回答時間の確保や学生への協力依頼等を行うことで、より良いデータを用いてカリキュラムの改善につなげていく。

令和6年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 物質化学類・物質化学専攻

参考資料:「令和5年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和6年度に向けた改善計画		
自己評価	令和5年度の自己評価	総評
令和5年度FD活動の自己評価及び総評	3	物質化学類ではFD研修会において、教員による自身の授業への取組みの紹介を継続的に行っている。講義形態に対し意見交換の機会を積極的に作ることで、状況に応じた教育方法改善に向けて十分な努力を行うことができた。月例会議でも授業評価方法や改善策に関する話し合いを継続し、FD活動への意識の共有化や改善に取り組んだ。
授業評価アンケート及び令和5年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和6年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和6年度に向けた改善計画 昨年度よりも教員と学生間の自己評価が向上した。一方、「課題・背景の説明」や「課題遂行への助言」で減少していた。学生回答と見比べると、実験活動の指導に注力した結果と考えられる。実験指導中の課題の1つになると予想される。発表指導などは過去最高であり、効果的な指導につながった。これらの結果を踏まえ、ディスカッション時間の定期的な確保を通したさらに効果的な指導方法を組むこととした。

【令和5年度の自己評価】4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和6年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☒ 英文での入力を個別に依頼した。 ☐ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()

2-2 下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☐ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☐ その他()

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☐ 成績評価分布を調査した。 ☐ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☒ その他(教務委員と連携し評価基準の明確化、および適正な評価の付与を周知している。)

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和6年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
第23回FD研修会	令和6年10月8日	有機化学、応用化学演習を行っている教員の 実践報告	18名	応用化学コアプログラム
令和6年度第1回教育改善委員会	令和6年7月9日	卒業研究自己診断アンケート集計結果の分 析、今後のFD活動の方針と計画についての議 論	6名	応用化学コアプログラム

○照会事項5 令和6年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和6年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和6年度の自己評価	総評
3	令和6年度は月例会議後において授業評価方法や改善策に関する話し合いを継続し、FD活動への意識の共有化や改善に取り組んだ。FD研修会を実施し、卒業生のアンケートと指導教員のアンケート結果から、授業の改善・教育効果の向上を図った。

【令和6年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

教育改善委員会およびFD研修会において、アンケート結果をもとに教員間でディスカッションを行い、教育活動における課題や改善点を明らかにする。特に、不十分であった点や学生の期待とのズレ(ミスマッチ)を把握し、今後の教育方針の策定に活かすこととする。

令和6年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 機械工学類・機械科学専攻

参考資料:「令和5年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和6年度に向けた改善計画		
自己評価	令和5年度の自己評価	総評
令和5年度FD活動の自己評価及び総評	3	昨年度の授業アンケートや卒業生・修了者に対するアンケートの集計結果が公開され、教員間で共有されたが、今後のアンケートでマイナスの評価がつかないように各教員へ改善の働きかけることは行えなかった。シラバスの基本項目や英語化、成績評価基準の点検、FD研修会の実施等、FD活動の主幹となる項目が概ね実施された。
授業評価アンケート及び令和5年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和6年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和6年度に向けた改善計画 授業アンケートのマイナスの評価内容について、機械工学類の教員間で共有し、今後のアンケートでマイナスの評価がつかないように各教員へ授業の改善を働きかける。

【令和5年度の自己評価】4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和6年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☐ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☐ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☒ その他(英文入力はすべての科目でなされており、シラバス入力のみ周知した。)

○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☐ 科目担当者間で共有した。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()

2-2 下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☐ 授業カテゴリーを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☒ ローテーションで実施した(5名未満)。(科目名:機械工学設計製図) ☒ ローテーションで実施した(5名以上)。(科目名:先端テクノロジー概論A 機械工学類担当回) ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☒ その他(1名の教員が夢ナビ講義Videoを公開した。)

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☐ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☒ 成績評価分布を調査した。 ☐ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他()

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和6年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
理工3学類 合同FD研修会	令和7年3月26日	学生実験における「学生間ピアレビュー」の活用	40名	電子情報通信学類、 フロンティア工学類と合同開催

○照会事項5 令和6年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和6年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和6年度の自己評価	総評
3	シラバスの基本項目の英文入力に関しては、すべての科目で実施されており、問題無い。成績評価基準やActive Learningに関する記載に関してはまだ改善の余地があるため、機械工学類の教員間で共有し、令和7年度以降にこれらの英文表記も含め改善を働きかける。教員相互の授業参観に関して、先端テクノロジー概論Aでの機械工学類担当の2回を利用し、1回の講義で6名の教員が学生の興味・関心を惹く機械工学分野の魅力ある内容を吟味し、教員も相互参観しながら講義を実施している。またこの講義を受講した学生からの感想等を機械工学類の全教員と共有し、学生の現状での興味・関心を把握し、機械工学類での教育研究活動に活かしている。FD研修会の実施等、FD活動の主幹となる項目は例年通り概ね実施された。

【令和6年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

卒業・修了者に対するアンケートの集計結果に関して、令和5年度、令和6年度ともに回答率70-80%となり、機械工学類・機械科学専攻のDP達成度自己評価の傾向が見えてきた。授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートの集計結果を機械工学類会議で教員に周知・共有し、分析結果等を各教員やカリキュラム検討委員会での教育方法やカリキュラム改善のための参考資料として供し、より良い授業への改善を働きかける。また令和7年度においては、卒業・修了者に対するアンケートの回答率のさらなる向上をはかる。

令和6年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 フロンティア工学類・フロンティア工学専攻

参考資料:「令和5年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和6年度に向けた改善計画		
自己評価	令和5年度の自己評価	総評
令和5年度FD活動の自己評価及び総評	4	安定した教育環境を整えられるように、シラバスやアンケートの確認を行っている。これまでに明らかとなった問題点を踏まえて、カリキュラムの修正への検討も開始しており、よりよい学類を目指したFD活動を継続的に行なっている。教育に活用できるソフトウェアに関するFD研修会を行い、プログラミングやグラフィックツールの教育での活用や、人工知能を利用したソフトウェアの利用法と注意点について紹介した。また、コロキウムと呼ばれる学生向けの講演会を行い学類選択やコア選択のための教育内容について紹介している。
授業評価アンケート及び令和5年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和6年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和6年度に向けた改善計画 アンケートの結果を踏まえて、カリキュラムの見直しを行っていく。社会を先導する人材を育成するために異分野の融合を進め、各科目について見直しを進めている。

【令和5年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

以下、令和6年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☐ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☐ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☐ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☐ 科目担当者間で共有した。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☒ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()

2-2 下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☒ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☒ すべての教員の授業を公開している。 ☐ その他()

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☐ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☒ 成績評価分布を調査した。 ☐ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他()

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和6年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
3学類合同FD研修会	令和7年3月26日	「学生実験における「学生間ピアレビュー」の活用」を行っている教員の実践報告	30名	フロンティア工学類 機械工学類 電子情報通信学類合同開催

○照会事項5 令和6年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和6年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和6年度の自己評価	総評
4	安定した教育環境を整えられるように、シラバスやアンケートの確認を行った。これまでに明らかとなった問題点を踏まえてカリキュラムの修正を行い、令和7年度入学者から新カリキュラムとして適用するための準備を整えるなど、よりよい学類を目指したFD活動を継続的に行った。学生実験における「学生間ピアレビュー」の活用に関するFD研修会を行い、学生間ピアレビューが実験レポートのクオリティや自学効果の向上に対して与える効果、本取り組みの持つメリット・デメリットを交えた特徴について紹介した。また、学類コロキウムにおいて学生向けの講演会、ポスター発表及び展示による研究室紹介を行い、学類選択やコア選択のための教育内容について紹介した。

【令和6年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

令和7年度新入者より学類のカリキュラムが変更されるため、カリキュラム変更に伴う教育効果等について検証する。また、大学院についても令和6年度のアンケート結果を踏まえて、引き続きカリキュラムの見直しを行っていく。特に社会を先導する人材を育成するために、各授業科目の内容を見直し、異分野融合を着実に進める。
--

令和6年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 電子情報通信学類・電子情報通信学専攻

参考資料:「令和5年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和6年度に向けた改善計画		
自己評価	令和5年度の自己評価	総評
令和5年度FD活動の自己評価及び総評	3	シラバスの基本的項目について点検し、問題ないことを確認し、学類で共有した。授業科目の英語化について点検した。教員相互の授業参観としてモデル授業について実施した。成績評価基準の記載を点検し、成績分布を調査し、問題ないことを確認し、学類で共有した。理工3学類合同のFD研修会を実施した。教育方法の改善に組織的に取り組み、推進できた。よって本年度のFD活動は概ね評価できる。
授業評価アンケート及び令和5年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和6年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和6年度に向けた改善計画
		独自に作成したFD活動のためのLMSコースを活用し、各教員が授業評価アンケートの結果を評価し、次の目標を設定し、授業改善を行った。この取り組みを来年度も継続する。

【令和5年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和6年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 シラバス改善のための取組の実施状況

下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()

2-2 下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☐ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☐ その他()

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☒ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他()

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和6年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
理工3学類FD研修会	令和7年3月26日	学生実験における「学生間ピアレビュー」の活用	3学類の学類長、FD委員、ほか、合計44名	機械工学類、フロンティア工学類と合同開催

○照会事項5 令和6年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和6年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和6年度の自己評価	総評
3	・シラバスの基本的項目について点検し、問題ないことを確認し、学類で共有した。 ・授業科目の英語化について点検した。 ・教員相互の授業参観としてモデル授業について実施した。 ・成績評価基準の記載を点検し、成績分布を調査し、問題ないことを確認し、学類で共有した。 ・理工3学類合同のFD研修会を実施した。 ・教育方法の改善に組織的に取り組み、推進できた。 以上より、令和6年度のFD活動は概ね評価できる。

【令和6年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

独自に作成したFD活動のためのLMSコースを活用し、各教員が授業評価アンケートの結果の評価および次の目標を設定することにより、授業改善を行った。
この取り組みを令和7年度も継続する。

令和6年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 地球社会基盤学類・地球社会基盤学専攻

参考資料:「令和5年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和6年度に向けた改善計画		
自己評価	令和5年度の自己評価	総評
令和5年度FD活動の自己評価及び総評	3	次年度のJABEE審査に備えて、各教員における受審への意識を高めるために、JABEE審査員の経験がある民間のOBを招いて、「JABEE審査の経験を通して」と題した講演をして頂いた。また、本学類で独自に行っている卒業生によるアンケートから選出された優秀教員による授業方法について話題提供および意見交換を行い、それぞれの教員の授業改善につながる活動を行った。 以上の活動から、「概ね評価できる」FD活動であったと評価した。
授業評価アンケート及び令和5年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和6年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和6年度に向けた改善計画 DPIに対する達成度アンケートから、土木防災、環境都市コースでは、すべての項目に対して、「十分に達成している」「ある程度達成している」と回答した学生が8割を超えていたことから、十分な教育が行われていたと考えられる。また、学類内独自に行った卒業アンケートでは、卒業研究の研究室配属の方法について、不満が見られ、今後の改善方法を検討しなければならないと感じた。さらに、それぞれの科目ごとに行われた授業評価アンケートに対しては、各教員でリフレクションペーパーを記載することで次年度の授業改善に活かすように周知した。R6年度はJABEE受審があるため、すべての科目について過去2年分のリフレクションペーパーを準備することになっている。本学類では学類FDシンポジウムを毎年開催して各教員の教育能力の底上げを行う活動をしているため、今後も継続していきたい。

【令和5年度の自己評価】4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和6年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☐ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☐ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☐ 科目担当者間で共有した。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()

2-2 下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☐ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☒ すべての教員の授業を公開している。 ☐ その他()

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☐ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☒ 成績評価分布を調査した。 ☐ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他()

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和6年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
地球社会基盤学類 FDシンポジウム	令和6年11月1日	(講演)AIリテラシーの教育実践紹介を行っている教員の実践報告 学類内の優秀教員による講演 JABEE関連の情報共有	学類長、専攻長、FD委員ほか17名	

○照会事項5 令和6年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和6年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和6年度の自己評価	総評
3	FDシンポジウムでは、教育研究の場においてAIの活用が進む中、AIリテラシーを高める教育実践について、実例を交えつつ、国際基幹教育院外国語教育系の山村公恵講師に、講演いただいた。また、本学類で独自に行っている卒業生によるアンケートから選出された優秀教員による授業方法について、話題提供および意見交換を行い、それぞれの教員の授業改善につながる活動を行った。 以上の活動から、「概ね評価できる」FD活動であったと評価した。

【令和6年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

卒業生、修了者への達成度アンケートから、地球社会基盤学類の全3コースともに、DP達成度は、全ての項目に対して、「十分に達成している」「ある程度達成している」と回答した学生が8割を超えており、カリキュラムが掲げる教育目標を達成できていると考えられる。また、学類内独自に行った卒業アンケートでは、卒業研究における研究室配属の方法について、改善を求める声も一部に確認された。すべての学生が納得する方法は困難であると認識しつつも、更なる改善の必要性を感じた。令和6年度は、土木防災コースおよび環境都市コースにおいてはJABEE受審があるため、すべての科目について、過去2年分のリフレクションペーパーも含む科目ごとの教育内容を総括することになる。また、本学類では学類FDシンポジウムを毎年開催し、各教員の教育能力の底上げを行う活動をしており、今後も継続していく。
--

令和6年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 生命理工学類・生命理工学専攻

参考資料:「令和5年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和6年度に向けた改善計画		
自己評価	令和5年度の自己評価	総評
令和5年度FD活動の自己評価及び総評	3	授業評価アンケートの回答率がやはり低い傾向にあったので学生への周知を徹底する必要があると考えられた。各教員にはシラバスの内容の確認、授業評価アンケートについて回答率と評価の点検を求めた。改善案についても意見を求めた。さらに成績評価についても評価基準や成績分布の確認を求めた。またレポートの作成法や学生実習の実施方法について独自の取り組みを行った。
授業評価アンケート及び令和5年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和6年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和6年度に向けた改善計画
		授業評価アンケートについては、各教員に各アンケート結果の確認を周知、それに基づいた授業内容の改善を求めた。卒業・修了者アンケートについては学類会議にて大まかな結果報告を行い、意見徴収も行った。また授業アンケートと同様に回答率低い傾向にあったので通知の方法に改善が必要であると考えられた。

【令和5年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和6年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 シラバス改善のための取組の実施状況

下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()

2-2 下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☐ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☐ その他()

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☒ 成績評価分布を調査した。 ☐ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他()

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和6年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
実施なし				

○照会事項5 令和6年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和6年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和6年度の自己評価	総評
3	授業評価アンケート及び卒業・修了者アンケートについて、回答率を上げるため、それぞれの教員から学生への働きかけを学類会議で周知した。また、授業評価アンケートについて学類会議で意見交換を行い、授業内容及び指導法の改善を通じて学生に積極的な学習姿勢を涵養する機会にもできる、という改善案が出た。実験実習科目から専門的知識の定着を図る学類であるため、レポートの作成法や学生実習の実施方法について取り組みを継続している。

【令和6年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

授業評価アンケート及び卒業・修了者アンケートの内容について、学類独自に精査できているわけではない。具体的な課題の発見や新たな授業方法の立案につなげる改善が必要であると考えられた。

令和6年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 医学類

参考資料:「令和5年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和6年度に向けた改善計画		
自己評価	令和5年度の自己評価	総評
令和5年度FD活動の自己評価及び総評	4	・医学教育分野評価基準の1年毎の自己点検の作業を行い、日本医学教育評価機構(JACME)にその結果を報告し、本学医学類HP上でも令和5年度年次報告書を公開している。 ・令和5年度には医学系FD研修会を計10回実施した。今年度より医学類FD委員会は医療人材教育研究センターと連携することで、FD研修会の内容の充実に繋がった。新型コロナウイルス感染症が5類に移行したため、オンラインだけでなく、対面でもFD研修会を開催した。医学系FD研修会の対象の教員(医学系および附属病院所属の教員)がFD研修会の内容をいつでも閲覧できるように、FD研修会の資料や録画した動画をLMS「医学FD」上で共有している。また、年2回未満の教員に対しては、オンデマンド教材の視聴とレポート作成を例年通り課した。 ・チュートリアル教育のチューター研修会を毎年開催することにより、教員のチュートリアル教育に対する理解が深まった。 ・OSCEステーション責任者会議は、責任者に対する説明・打合せを行った後、各責任者がそれぞれのステーションの担当教員へ説明を行う方式を取っており、多人数の担当教員への説明が効果的に行われた。 ・カリキュラム評価委員会を定期的に開催し、科目別評価及び教員への評価のフィードバック、また評価に対する意見聴取等を行った。医学類1～6年の各学年の代表者が同委員会に参画した。
授業評価アンケート及び令和5年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和6年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和6年度に向けた改善計画 カリキュラム委員会及び教育委員会を中心として、「医学教育モデル・コア・カリキュラム令和4年度改訂版」を踏まえたカリキュラム改革を年度内に進める。医学類FD委員会と医療人材教育研究センターが連携して、FD研修会のさらなる充実を図っていく。

【令和5年度の自己評価】4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和6年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()

2-2 下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☐ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☒ その他(1年次「早期医療体験」の実習のまとめにおいて、実習担当者に授業参観していただく機会を設けた。)

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☒ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☒ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他()

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和6年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
第1回医学系FD研修会	令和6年4月	金沢大学医学類の教育理念・3つのポリシー	51名	
第2回医学系FD研修会	令和6年5月13日	学びを促す授業設計に向けて 目標・活動・評価の整合性をはかるには	49名	
第3回医学系FD研修会	令和6年6月17日	プロフェッショナルリズム	36名	
第4回医学系FD研修会	令和6年7月22日	多職種連携教育(IPE)の実践例と今後に向けて	38名	
第5回医学系FD研修会	令和6年10月31日	マルチモビリティをバランスよく見るための 妄想力を鍛えるカンファレンス(通称:マルモカンファレンス)をやってみよう!	35名	
第6回医学系FD研修会	令和6年11月12日	どうする?多職種連携教育～物理的距離を超えよう～	27名	
第7回医学系FD研修会	令和6年12月9日	臨床タイアップセッション ～臨床ナースの力を 借りて事例をもとに状況判断能力を養う	44名	
第8回医学系FD研修会	令和7年1月20日	学生の学びを促すアクティブラーニングの技法	42名	
第9回医学系FD研修会	令和7年2月10日	入学から卒業までのシームレスな学生支援に 向けて～医学生をプロフェッショナルな医師へと 育成するために教員ができること～	45名	
第10回医学系FD研修会	令和7年2月18日	人工知能(AI)と教育—AIが人を教育する未来	32名	
第11回医学系FD研修会	令和7年3月7日	アクティブラーニングと心理的安全性	57名	

○照会事項5 令和6年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和6年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和6年度の自己評価	総評
4:大いに評価できる	・医学教育分野評価基準の1年毎の自己点検の作業を行い、日本医学教育評価機構(JACME)にその結果を報告し、本学医学類HP上でも令和6年度年次報告書を公開している。 ・令和6年度には医学系FD研修会を計11回実施した。医学類FD委員会は医療人材教育研究センターと金沢学術

	アカデミーと連携することで、FD研修会の内容の充実に繋がった。医学系FD研修会の対象の教員(医学系および附属病院所属の教員)がFD研修会の内容をいつでも閲覧できるように、FD研修会の資料や録画した動画をLMS「医学FD」上で共有している。また、年2回未満の教員に対しては、オンデマンド教材の視聴とレポート作成を例年通り課した。 ・チュートリアル教育のチューター研修会を毎年開催することにより、教員のチュートリアル教育に対する理解が深まった。 ・OSCEステーション責任者会議は、責任者に対する説明・打合せを行った後、各責任者がそれぞれのステーションの担当教員へ説明を行う方式を取っており、多人数の担当教員への説明が効果的に行われた。 ・カリキュラム評価委員会を定期的に開催し、科目別評価及び教員への評価のフィードバック、また評価に対する意見聴取等を行った。医学類1～6年次の各学年の代表者が同委員会に参画した。 ・カリキュラム委員会及び教育委員会を中心として、「医学教育モデル・コア・カリキュラム令和4年度改訂版」を踏まえたカリキュラム改革を行った。
--	---

【令和6年度の自己評価】 4: 大いに評価できる, 3: 概ね評価できる, 2: あまり評価できない, 1: ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

医学教育IR室、カリキュラム評価委員会、カリキュラム委員会及び教育委員会を中心として、教育カリキュラムの改善に引き続き取り組む。
医学類FD委員会は、医療人材教育研究センターや金沢学術アカデミーと連携して、FD研修会のさらなる充実を図っていく。

令和6年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 薬学類(創薬科学類)・創薬科学専攻・薬学専攻

参考資料:「令和5年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和6年度に向けた改善計画		
自己評価	令和5年度の自己評価	総評
令和5年度FD活動の自己評価及び総評	3	金沢大学の方針に従ったFD活動を今年度も実施した。毎年、薬学系独自のFD研修会と、新任教員を対象とした研修会を開催している。今回も公務欠席者を除けば100%の出席率であった。薬学系FD研修会では「薬学類のキャリア教育を考える」をテーマに、薬学高度専門人材の養成に向けて「キャリア形成科目群」導入の背景と趣旨、科目の内容紹介、受講生の反応等について、説明を行った。教員間の情報共有、薬学教育の在り方等考える機会となった。これらの活動を通して教育の改善・充実、教員の能力及び資質向上に繋がっている。
授業評価アンケート及び令和5年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和6年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和6年度に向けた改善計画 学類長・専攻長、学類・大学院の教務・学生生活委員長、就職担当教員、FD委員会委員長が卒業・修了者に対するアンケート結果を確認した。アンケートの結果から、学修等の良好な達成度、「金沢大学で学んだことに満足している」の設問の回答が100%という結果も得られた。現行の授業内容・方法が学生にとって概ね適切であると分析している。令和6年度もFD研修会を継続実施し、授業評価アンケート結果を踏まえた教員の教育能力向上に向けた取り組みを行う。

【令和5年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

以下、令和6年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☒ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()

2-2 下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☒ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☐ その他()

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☒ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☒ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☐ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他()

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和6年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
令和6年度薬学系新任教員 教務関連研修会	令和6年12月11日	教務全般の説明(カリキュラム、履修、成績判定、アカンサスポータルの運用、授業アンケート、アドバイザー制度)	薬学学類長、 FD委員長、 他4名	国際基幹教育院の協力を得た。
令和6年度薬学系(学類・大学院研究教育)FD研修会	令和7年3月18日	「Using ChatGPT and AI to Accelerate and Transform your Learning and Research」 ChatGPTをはじめとする AI 技術を、薬学教育・研究に取り入れる事例の紹介	薬学教員 26名	年度を繰り上げて令和6年度FD研修会として開催

○照会事項5 令和6年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和6年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和6年度の自己評価	総評
3	金沢大学の方針に従ったFD活動を令和6年度も実施した。毎年、薬学系独自のFD研修会と、新任教員を対象とした研修会を開催している。薬学系FD研修会では「Using ChatGPT and AI to Accelerate and Transform your Learning and Research」と題し、金沢大学薬学Gary Ross先生よりChatGPTについて講演を行った。ChatGPTをはじめとする AI 技術を、薬学教育・研究に取り入れる参考事例が紹介された。教育分野においては、生成AIを適切に利活用することで、学修効果が上がり、また教職員の業務効率化を図ることができるなどの効果が期待される等、薬学教育の在り方等を考える機会となった。これらの活動を通して教育の改善・充実、教員の能力及び資質向上に繋がっている。

【令和6年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

学類長・専攻長、学類・大学院の教務・学生生活委員長、就職担当教員、FD委員会委員長が卒業・修了者に対するアンケート結果を確認した。アンケートの結果から、学修等の良好な達成度、「金沢大学で学んだことに満足している」の設問の回答が100%という結果も得られた。現行の授業内容・方法が学生にとって概ね適切であると分析している。令和7年度もFD研修会を継続実施し、授業評価アンケート結果を踏まえた教員の教育能力向上に向けた取り組みを行う。

令和6年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 医薬科学類

参考資料:「令和5年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和6年度に向けた改善計画		
自己評価	令和5年度の自己評価	総評
令和5年度FD活動の自己評価及び総評	3	教育に関するFD(授業評価アンケートの結果を学類会議で共有する、シラバスの確認)については概ね実施できていた。また、2月にFD研修会を開催し、「医薬科学類独自の成績基準について」と題して、合同開講科目における成績評価のありかたについて意見交換を行った。
授業評価アンケート及び令和5年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和6年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和6年度に向けた改善計画 前年度に引き続き、講義に関する提案(自由記載含む)が授業評価アンケート内容に含まれている場合、その内容について学類会議で共有し、必要に応じてその内容を担当教員に照会し、説得力のある提案については改善を検討するなど、今後、講義のあり方に実際に反映されるよう取り組みを行う。

【令和5年度の自己評価】4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和6年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()

2-2 下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☐ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☒ その他(複数の教員が担当する科目において、オンライン講義を相互に視聴できるようにした。)

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☐ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☒ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他()

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和6年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
令和6年度第1回医薬科学類FD研修会	令和7年2月27日	医薬科学類独自の成績基準について	医薬科学類長、ほか約14名	全教員が参加した。
各教員が所属する系で開催されたFD研修会に参加した。 学類長ほか6名は医学系の研修会(13回のうち2回以上)へ、副学類長ほか6名は薬学系の研修会(1回)へ参加した。				

○照会事項5 令和6年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和6年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和6年度の自己評価	総評
3	教育に関するFD(授業評価アンケートの結果を学類会議で共有する、シラバスの確認)については概ね実施できていた。また、2月にFD研修会を開催し、「医薬科学類独自の成績基準について」と題して、合同開講科目における成績評価のありかたについて意見交換を行った。

【令和6年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

令和6年度に引き続き、講義に関する提案(自由記載含む)が授業評価アンケート内容に含まれている場合、その内容について学類会議で共有し、必要に応じてその内容を担当教員に照会し、説得力のある提案については改善を検討するなど、今後、講義のあり方に実際に反映されるよう取り組みを行う。

令和6年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 保健学類・保健学専攻

参考資料:「令和5年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和6年度に向けた改善計画		
自己評価	令和5年度の自己評価	総評
令和5年度FD活動の自己評価及び総評	4	今年度は保健学系独自に企画したFD研修会を計5回開催し、「こころの健康づくり」「論文の評価」「研究力分析ツールの活用」「ハラスメント防止」「HPVワクチン」に関わる内容を取り上げた。多くの教職員が参加し、事後に実施したアンケートの結果も良好であった。ハラスメント防止に関する内容は毎年取り上げているが、今年度はアサーションに着目した研修会を開催し、コミュニケーションがうまくいかないときや人間関係が難しいときの具体的な対処法について学ぶ機会を設けた。医学系FD研修会および医療人材教育研究センターFD研修会についても毎回案内を行い、参加を促すことによって、医療人材教育に関するさまざまなトピックを学ぶ機会を提供した。また、教育活動および研究活動の更なる充実を目的に、学類生の投票結果に基づく優秀教育教員の選出、および優れた業績を残した教員や大型公的研究費を獲得した教員を対象とした優秀研究教員の選出を行うとともに、これらの選出基準や選出方法についても見直しを行った。これらの活動を含め、当初予定していた活動を全て実施することができたため、大いに評価できると判断した。
授業評価アンケート及び令和5年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和6年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和6年度に向けた改善計画 授業評価アンケートや卒業・修了者に対するアンケートの結果は、令和6年度も引き続き授業担当教員へのフィードバックを行い、必要に応じて改善に向けた働きかけや取り組みを進めていきたい。また、優秀教育教員に選出された教員が行っている優れた取り組みの共有、アクティブラーニングの導入推進、DXの推進などを通して、教員の教育能力の向上のための取り組みを進めていきたい。

【令和5年度の自己評価】4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和6年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 シラバス改善のための取組の実施状況

下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☒ 英文での入力を個別に依頼した。 ☐ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☒ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()

2-2 下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☒ 授業カテゴリーを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☐ その他()

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☒ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☒ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他()

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和6年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数(概数)	備 考
令和6年度第1回保健学系FD研修会	令和6年8月7日 (水)	セルフタッチング ストレスをコントロールしよう!	保健学類長、FD委員長、ほか57名	
令和6年度第2回保健学系FD研修会	令和6年11月6日 (水)	発達障害について—学生の苦しさを知る	保健学類長、FD委員長、ほか45名	
令和6年度第3回保健学系FD研修会	令和7年1月8日 (水)	高大接続の足がかり～高校現場の視点から	保健学類長、FD委員長、ほか 42名	

○照会事項5 令和6年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和6年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和6年度の自己評価	総評
4	令和6年度は保健学系独自に企画したFD研修会を、「セルフタッチング ストレスをコントロールしよう!」「発達障害について—学生の苦しさを知る」「高大接続の足がかり～高校現場の視点から」を演題として、合計3回実施した。 第1回「セルフタッチング ストレスをコントロールしよう!」では、令和6年1月1日に発生した能登半島地震の影響が残る中、ストレスとどう対峙するか解決の糸口となった。第2回「発達障害について—学生の苦しさを知る」では、学生の心の苦しさへの理解を深める機会となった。第3回「高大接続の足がかり～高校現場の視点から」では、現役の公立高等学校の先生方をお招きし、高大接続の現状や将来についてディスカッションを行った。 以上のように、これまでにない企画であり、多くの教職員が参加した。医学系FD研修会および医療人材教育研究センターFD研修会についても毎回案内を行い、参加を促すことで、医療人材教育に関するさまざまなトピックを学ぶ機会を提供した。 また、教育活動および研究活動のさらなる充実を目的に、学類生の投票結果に基づく優秀教育教員の選出、および優れた業績を残した教員や大型公的研究費を獲得した教員を対象とした優秀研究教員の選出を行った。これらの活動は大いに評価できると判断した。

【令和6年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

授業評価アンケートや卒業・修了者に対するアンケートの結果は、令和6年度も引き続き授業担当教員へのフィードバックを行い、必要に応じて改善に向けた働きかけや取り組みを進めていきたい。また、優秀教育教員に選出された教員が行っている優れた取り組みの共有、アクティブラーニングの導入推進、DXの推進などを通して、教員の教育能力の向上のための取り組みを進めていきたい。

令和6年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 人間社会環境研究科

参考資料:「令和5年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和6年度に向けた改善計画		
自己評価	令和5年度の自己評価	総評
令和5年度FD活動の自己評価及び総評	4	令和5年度は、文系大学院の進路をテーマにFD研修会を実施した。「文系大学院と企業・団体との連携」というこれまで十分に検討されてこなかったテーマで、独自に工夫されたアンケートを実施し、集団的に分析を加えた。とくに、理系大学院学生に対する期待が高く需要も大きいと考えられてきた分野においても、人文社会系院生への期待が高く、潜在的需要も大きいことが確認されたことは、貴重な成果であった。研修会での討論により、アンケートをさらに充実させる方向性が共有されたので、今後も定期的にこの分野でのアンケートを実施するとともに、潜在的需要をどのようにして実際の進路選択・就職につなげていくかの集団的検討が必要であることが確認されたことも成果である。
授業評価アンケート及び令和5年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和6年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和6年度に向けた改善計画 各種アンケートを実施しその結果について情報共有して、改善方策について検討するとともに、これらを参考にして授業の内容や実施方法の検討を行う。また、院生研究室の形態などを順次変更していく途上にあるが、その際に卒業・修了者に対するアンケートや意見交換会などで示される学生からの意見も参考としていく。

【令和5年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

以下、令和6年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☐ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()

2-2 下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☐ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☒ その他(実施していない。)

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☐ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☐ 成績評価分布を調査した。 ☐ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☒ その他(大学院授科目は5名以下の科目が多く、分布の偏りについて検証できるだけのデータを得られていないことから現状では成績評価分布について調査を計画していない。)

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和6年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
令和6年度第1回人間社会環境研究科FD研修会	令和6年11月29日	令和8年4月に予定する人間社会環境研究科「データプライバシーエキスパート養成プログラム」開始に向け、総務省統計研修研究官による講演と3研究域からの話題提供により、個人情報保護とデータサイエンスをめぐる潮流と諸課題に関する情報共有と意見交換を行った。	70名	人間社会研究域・理工研究域・医薬保健研究域共催で開催した第1回未来知融合シンポジウム『未来知で護るデータプライバシー』を、本研究科のFD研修会として兼ねたもの。
令和6年度第2回人間社会環境研究科FD研修会	令和7年3月27日	「大学院進学者を増やすために」と題する研修会で、留学生を中心として国内外の大学院へ多数の進学者を送り出している北陸大学の教員による講演と、人間社会環境研究科長による他大学の事例紹介をもとに、意見交換を行った。	18名	法学研究科との合同開催。

○照会事項5 令和6年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和6年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和6年度の自己評価	総評
3	令和6年度は2回のFD研修会を実施した。1回目はデータプライバシーをテーマとし、データ活用とプライバシー保護をめぐる世界的な潮流と各分野での状況について情報共有をすることができ、令和8年4月に予定している「データプライバシーエキスパート養成プログラム」の開始に向けた準備として有益であった。2回目は大学院進学者を増やす方策をテーマとし、大学院進学率の高い大学の事例報告から、学士課程の学生の大学院進学に関する意識を変え、早い段階から進学へのモチベーションを持たせることが重要であること等を学び、今後の研究科での取り組みのヒントを得ることができた。

【令和6年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

令和6年度の授業評価アンケートと卒業・修了者アンケートの集計結果は概ね良好といえるが、学生の評価のやや低い項目については情報共有の上、改善方策について検討するとともに、これらを参考にして授業の内容や実施方法の検討を行う。また、院生研究室の形態などを順次変更していく途上にあるが、その際に卒業・修了者に対するアンケートや大学院学生との懇談会などで示される学生からの意見も参考としていく。
--

令和6年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 医薬保健学総合研究科(修士課程・医学博士課程)

参考資料:「令和5年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和6年度に向けた改善計画		
自己評価	令和5年度の自己評価	総評
令和5年度FD活動の自己評価及び総評	3	新型コロナウイルス感染症の5類への移行に伴い、FD研修会(医学系)を対面で開催することができた。今年度より医学類FD委員会は医療人材教育研究センターと連携することで、医学系だけでなく、薬学系や保健学系の教員も参加可能なFD研修会の実現を目指した。授業評価アンケートについては、Webによる効率的な実施とすることができた。
授業評価アンケート及び令和5年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和6年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和6年度に向けた改善計画 修了者アンケートの結果から、医学博士課程、修士課程ともに概ね学修等に満足している結果が得られた。 医学博士課程における2点の継続課題について、①複数指導体制について、令和5年度においても、3分の2の学生が十分に認識していない結果であった。今後は本人に周知するなど、指導体制を充実させることを検討する。②単位の修得方法、時期を分かりやすく手引きに明示することにより、分かりにくいという学生の意見に減少傾向が見られるが、継続して実施する。 修士課程においては、新型コロナウイルス感染症の5類への移行により、対面授業、交流を促進することが可能となったため、令和6年度も継続する。

【令和5年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

以下、令和6年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☐ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☐ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☐ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()

2-2 下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☐ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☒ その他()

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☐ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☐ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他()

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和6年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
医学系FD研修会	毎月1回第2月曜日 (8月、1月を除く)	アクティブ・ラーニング(特に授業のオンライン化に伴う手法)、カリキュラムとポリシー、シラバス、学生支援(メンタルヘルス、多職種連携教育、留学生対応)等	20名～50名	

○照会事項5 令和6年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和6年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和6年度の自己評価	総評
3	FD研修会(医学系)を毎月対面開催することができた。令和5年度より医学類FD委員会と医療人材教育研究センターと連携し、医学系だけでなく、薬学系や保健学系の教員も参加可能なFD研修会の実現を目指した。授業評価アンケートについては、全学的な方針に基づき、Webにより効率的な実施とすることができた。

【令和6年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

修了者アンケートの結果から、医学博士課程、修士課程ともに学修等に満足している結果が得られた。医学博士課程における2点の継続課題について、①複数指導体制について、令和6年度においても、6割の学生が十分に認識していない結果であった。しかし令和6年度から学生面談を実施したことにより、複数指導体制が学生本人に認識されるようになると考えられる。②単位の修得方法、時期を分かりやすく手引きに明示することにより、分かりにくいという学生の意見に減少傾向が見られるが、継続して実施する。修士課程においては、対面授業が可能となり、アンケートでは、Q2において90%以上が学びたいと考えていたことが学べたもしくはどちらかといえば学べたという回答結果だった。またQ14では90%以上が本専攻で学んだことに満足しているもしくはやや満足しているとの回答結果であった。概ね良好だと考えられるが、令和7年度はさらに改善すべき点を検討する。

令和6年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 先進予防医学研究科

参考資料:「令和5年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和6年度に向けた改善計画		
自己評価	令和5年度の自己評価	総評
令和5年度FD活動の自己評価及び総評	3	シラバスの点検を行い、記載内容の確認を行った。千葉大学・金沢大学・長崎大学先進予防医学共同専攻合同FD講演会において、大学院教育におけるコーチング活用に関する情報を共有し、教育方法の改善へつなげることができた。授業評価アンケート結果は、授業担当者間で共有するとともに、今年度より公開した。
授業評価アンケート及び令和5年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和6年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和6年度に向けた改善計画
		授業評価アンケートおよび修了者に対するアンケートに講義・実習授業に対する提案が含まれている場合は、その内容について研究科内で共有し、検討を行うなどにより教育活動の改善に取り組む。効果的なオンラインコンテンツ(講義ならびに実習)を増やし、有効に活用するために、3大学合同FD講習会を継続して実施し、シラバス記載内容ならびに教育方法の改善に取り組む。

【令和5年度の自己評価】4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和6年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☐ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☐ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☐ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()

2-2 下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☐ 授業カタログを活用した。 ☒ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☒ その他(複数教員が担当する科目において、オンライン講義を相互視聴できるようにした。)

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☐ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☐ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他()

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和6年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
金沢大学・千葉大学・長崎大学 合同先進予防医学共同専攻 FD講演会	令和6年 12月10日	共同専攻合同のFD講演会を長崎大学主催で実施した。「1細胞・1塩基レベルでのトランスクリプトームとゲノム構造変異の同時計測法」のテーマでWebにより開催した。	3大学の担当教員、学生の計81名	

○照会事項5 令和6年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和6年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和6年度の自己評価	総評
3	シラバスの点検を行い、記載内容の確認を行った。千葉大学・金沢大学・長崎大学先進予防医学共同専攻合同FD講演会において、最先端のオミクス解析技術とその応用に関する情報を共有し、今後の教育・研究活動に資する新たな視点や連携の可能性を得ることができた。授業評価アンケート結果はすべてWebで公開し、担当教員が確認できるように適切に整備した。

【令和6年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

授業評価アンケートおよび修了者に対するアンケートに講義・実習授業や教育計画、カリキュラムに対する提案が含まれている場合は、その内容について研究科内で共有し、検討を行うなどにより教育活動の改善に取り組む。効果的なオンラインコンテンツ(講義及び実習)を増やし、有効に活用するために、3大学合同FD講習会を継続して実施し、シラバス記載内容及び教育方法の改善に取り組む。

令和6年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 新学術創成研究科

参考資料:「令和5年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和6年度に向けた改善計画		
自己評価	令和5年度の自己評価	総評
令和5年度FD活動の自己評価及び総評	3	各専攻における課題について、教員間で積極的に検討を行う機会を設けることができた。特に留学生の受入れに関しては、複数の具体的な事例を題材に、ワークショップ形式で考えることにより、理解を深めることができた。
授業評価アンケート及び令和5年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和6年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和6年度に向けた改善計画 今年度も引き続き、教員間で研究内容についての相互理解を深めるとともに各専攻における課題に着目した研修会を計画し実施する。また、アンケート結果も踏まえ、異分野融合を促進させる指導方法等について検討する。

【令和5年度の自己評価】4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和6年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☐ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☐ 科目担当者間で共有した。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☒ その他(授業評価対象授業の担当教員にアンケート結果の公開について通知)
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()

2-2 下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☐ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☒ その他(融合科学共同専攻では、異分野「超」体験セッションⅠ(博士前期課程)、Ⅱ(博士後期課程)の授業を、専任教員に遠隔配信にて公開した。)

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☐ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☒ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他()

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和6年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
融合科学共同専攻FD研修会	令和7年3月10日	JAISTと合同実施の授業における課題や改善及び学生募集についての検討・意見交換	12名※他、JAIST教員9名	JAISTとの合同開催
ナノ生命科学専攻FD研修会	令和7年3月26日	博士後期課程における標準修業年限内の修了に向けた現状の課題についての検討・意見交換	13名	

○照会事項5 令和6年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和6年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和6年度の自己評価	総評
3	融合科学共同専攻のFD研修会はJAISTとの合同開催だが、令和6年度は、対面での実施により、率直かつ多様な意見交換が活発に行われた。また、各専攻で抱えている関心の高い課題を研修会のテーマに設定したこともあり、教員間で多くの質問や情報共有、検討が行われ、有意義な場を設けることができた。 また、標準修業年限内で学位取得を目指すため、教員と学生との間で学位取得までの研究計画の策定について「新学術創成研究科の研究指導に関する目安」を定め、令和7年度から運用を開始することとした。

【令和6年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

令和7年度も引き続き、各専攻における課題に着目した研修会を計画し実施する。令和7年度は、総合知創出科学専攻が加わったことから、FD活動の実施体制等を検討し進めていく。

令和6年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 法学研究科(修士課程・専門職学位課程)

参考資料:「令和5年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和6年度に向けた改善計画		
自己評価	令和5年度の自己評価	総評
令和5年度FD活動の自己評価及び総評	4	・法学研究科への進学に関する意識調査の結果分析をFD研修会にて議論した結果を、大学院説明会の改善(在学者による大学院生活の紹介と質疑応答を追加)に活かすとともに、大学院進学を希望する学生や専攻の在学者の今後の指導に活かせる情報を教員間で共有した(法学・政治学専攻)。 ・組織的・継続的に、可能な限りの取組がなされ、毎年改善されている(法務専攻)。
授業評価アンケート及び令和5年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和6年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和6年度に向けた改善計画 ・各種アンケートに加えて在学学生と直接意見交換する場を設けて学生のニーズを把握し、学修環境と組織体制の改善に努める(法学・政治学専攻)。 ・アンケート結果、及び、各教員によるアンケートに対する所感・意見をとりまとめて教員間で共有し、FD研修会において継続的に検討する。また、意見交換会の際に、弁護士からの意見も聴取する(法務専攻)。

【令和5年度の自己評価】4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和6年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☒ 英文での入力を周知した。(法学・政治学専攻) ☒ 英文での入力状況をチェックした。(法学・政治学専攻) ☒ 英文での入力を個別に依頼した。(法学・政治学専攻) ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。(法学・政治学専攻) ☐ その他()

○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。(法務専攻) ☒ 科目担当者間で共有した。(法務専攻) ☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。(法務専攻) ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。(法務専攻) ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()

2-2 下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☐ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☒ すべての教員の授業を公開している。(法務専攻) ☒ その他(弁護士による授業参観も実施し、意見交換会において、実際に参観した弁護士からの意見を聴取している(法務専攻))

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☒ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。(法務専攻) ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☒ 成績評価分布を調査した。(法務専攻) ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。(法務専攻) ☒ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。(法務専攻) ☒ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。(法務専攻) ☐ その他()

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和6年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
FD研修会「大学院進学者を増やすために」	令和7年3月27日	北陸大学国際交流センター横田隆志先生による、北陸大学の取り組みの紹介	20名	法学研究科・人間社会環境研究科共催
2024年度前期FD研修会	令和6年9月17日	1 学生の遅刻及び途中退席に対する対応について 2 学力レベルの異なる学生への対応について 3 SA室の使用状況等について 4 授業アンケートの回答率の向上策について	12名	法務専攻
2024年度意見交換会	令和7年1月16日	1 弁護士からの授業参観の感想について 2 未修者チューター制度等の現状について 3 授業参観の方式についての意見について	15名	法務専攻
2024年度後期FD研修会	令和7年3月11日	1 TKC模試及び司法試験の結果の共有について 2 授業アンケートに記載された誹謗・中傷等の表現について 3 試験問題の教員間の共有について 4 アンケートの回収率の向上策について 5 早期履修制度の問題点について	11名	法務専攻

○照会事項5 令和6年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和6年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和6年度の自己評価	総評
4	(法学・政治学専攻) 大学院進学者を増やすため、他大学の取り組みを学ぶFD研修会を実施した。 (法務専攻) 組織的・継続的に可能な限りの取り組みがなされ、毎年改善がなされている。

【令和6年度の自己評価】4: 大いに評価できる、3: 概ね評価できる、2: あまり評価できない、1: ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

・アンケート結果及び各教員によるアンケートに対する所感・意見をとりまとめて教員間で共有し、FD研修会において継続的に検討する。また、弁護士との意見交換会を開催し、授業参観をした弁護士からの意見を聴取するなどする。(法務専攻) ・令和6年度に新設した高度専門職コース知的財産・リスク管理プログラム、及び令和7年度に新設予定のデータプライバシー・エキスパート養成プログラムにおける指導体制のあり方について引き続き検討する。(法学・政治学専攻)
--

令和6年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 教職実践研究科

参考資料:「令和5年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和6年度に向けた改善計画		
自己評価	令和5年度の自己評価	総評
令和5年度FD活動の自己評価及び総評	4	学生の学修成果を把握するため、教務・FD委員会の下、全ての授業に対して「授業改善のための学生アンケート」を、年間4回実施し、アンケート結果から各授業の学修成果等の分布を客観的に把握している。令和5年度から「探究教育」と「共生教育」の2領域の高度化科目での学びがスタートすることを踏まえ7つの活動に取り組んだ:①開かれた教職大学院の学びの場とし「オープン・ラボ」の開催、②NPO法人との連携、③附属学校園との連携、④「共生」に係る授業を中核とした公開研修会の実施、⑤部局間協定校との国際セミナーの開催、⑥特別支援学校教諭専修免許の課程認定を受けての新しいカリキュラム開発、⑦富山大学教職大学院と連携し、大学院学生主体の授業の相互参観を実施し、昨年度よりも多面的・多角的なFD活動を実施できた。
授業評価アンケート及び令和5年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和6年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和6年度に向けた改善計画 教職実践研究科におけるFD活動を、各クォーターで公開授業を含む年4回計画している。特に、R6年能登半島地震に関する授業を「探究教育」と「共生教育」の2領域でFD授業を実施する。また、R6年度から新たに開始する特別支援学校教諭専修免許の課程認定科目を中心として、その内容等を教務・FD委員会を定期的に開催しながら、研究・検証していく。さらに、R5年度に試行した富山大学教職大学院との共同のFD活動を定例化する予定である。

【令和5年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

以下、令和6年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()

2-2 下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☐ 授業カタログを活用した。 ☒ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☒ すべての教員の授業を公開している。 ☐ その他()

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☒ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他()

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和6年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
能登里山里海未来創造センター (教育・ひとづくりWG)共催の公開研修会	令和6年6月12日	「災害時の子ども支援を学ぶ」と題して公益財団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの山田心健氏を講師として招き、災害時の環境変化による「非日常」の生活の中で、子どもたちが安心・安全に遊び・学べる「日常」を取り戻すための中長期的なフェーズにおける必要な支援や接し方を学んだ。	55名	
授業を中核とした公開研修会	令和6年9月2日、3日	「共生教育フィールドワーク」の公開授業に基づく授業研究会を実施した。	1名	京都教育大学との合同研修会として企画し、両研究科カリキュラムの相互検討会も予定していたが、悪天候(台風接近)により合同研究会は実施できなかった。

○照会事項5 令和6年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和6年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和6年度の自己評価	総評
4	令和5年度から「探究教育」と「共生教育」の2領域からなる新しい教育課程をスタートし、令和6年度はその完成年度にあたる。そのため、教務・FD委員会の下、全ての授業に対して「授業改善のための学生アンケート」を年間4回実施し、アンケート結果から各授業の学修成果等の分布を客観的に把握し、新教育課程の目標が首尾よく達成していることを確認した。また、令和6年度に教員養成評価機構の認証評価の受審にあたり、専門職大学院としてのFD活動の充実をはかり、以下の活動に取り組んだ:①「授業改善のための学生アンケート」をもとに、授業を学生主体となるよう改善を行った。②能登半島地震・豪雨災害における能登里山里海未来創造センター教育・人づくりWGのもとでNPO法人と連携した子どもの居場所づくりならびに学習支援を行った。③附属学校園コラボレーション推進室と連携しプロジェクトHESOに参加した。④「共生」に係る授業を中核とした公開研修会を実施した。⑤部局間協定校である米国コロラド大学コロラドスプリングス校との交流会ならびに実地研修引率を行った。⑥特別支援学校教諭専修免許の教育課程の初年度として、新設の授業及び学校実習を首尾よく実施するとともに、新しい評価基準を作成した。このような多面的・多角的なFD活動を展開することで、令和6年3月の認証評価結果では、基準(6-2)において、「教育研究上の目的を達成するため、教職大学院と学校教育学類が一体となった研究や附属学校園との協働研究が進められている。また、「令和6年能登半島地震金沢大学合同調査チームKUD」のもとで、「金沢大学復興アクションプラン」に関わり、令和6年能登半島地震からの復旧・復興に向けて、教職大学院として探究教育と共生教育にかかる研究に着手している点が評価できる。教職大学院独自のFD活動も計画的に実施されており、これらの活動は探究教育領域および共生教育領域に関連する研究を基盤に、教育の質向上を目指した取り組みとして評価できる。(一部抜粋)」と、研究科のFD活動が適切に実施されている旨の評価を受けることができた。

【令和6年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

学生主体の学修を重視しつつ、教務・FD委員会の下、全ての授業に対する「授業改善のための学生アンケート」を年間4回実施し、アンケート結果をもとに授業改善を継続する。令和7年度は完成年度を迎えた新教育課程をさらに充実・発展させるために、次の6点について新しい視点を取り込む：①社会に開かれた教職大学院をめざしてサービス・ラーニングの視点を取り入れ、通年にわたるプロジェクト型の授業を推進する。②「オープン・ラボ」等の開かれた学びの機会を、通年型のプロジェクト型授業の中間に位置づける。③能登半島地震・豪雨災害からの復興のためにNPO法人との連携を推進する。④附属学校園コラボレーション推進室と連携を継続する。⑤プロジェクト型の授業を中核とした公開研修会を実施する。⑥新しい時代の教職の在り方を検討するため、研究科長裁量経費により、スクール・リーダーシップの専門家を招聘し、公開の国際セミナーを開催する。

令和6年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 国際基幹教育院(GS教育部門)

参考資料:「令和5年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和6年度に向けた改善計画		
自己評価	令和5年度の自己評価	総評
令和5年度FD活動の自己評価及び総評	3	本年度はGS教育系主催で7回のFD研修会を実施した。「総合教育部の運営マニュアル」、「アクティブ・ラーニングの技能改善」、「LGBTQ+の理解と問題点」、「受講生相互採点による成績評価法と双方向性の高い教育の実現」、「生成AIを利用した教育支援」、「フューチャー・デザインの導入」に関する内容を取り上げ、各研修会では積極的な意見交換が行われた。また、GS教育系の各科目では、担当教員間での自主的なFD活動が複数回実施されており、アクティブ・ラーニングや英語授業の効果の向上等、授業改善に向けた効果的なFD活動が実施できていたと考えられた。外国語教育系主催のFD研修会への積極的な参加を促すことにより、共通教育における相互理解と問題点の共有に取り組むことができた。GS教育系は医薬保健、理工、社会科学や芸術まで全学術領域にまたがる内容であり、他の学類と比較すると科目の個性・特殊性がより強いと言えるが、アクティブ・ラーニングの手法、成績評価方法や生成AIによる教育支援等の全科目で共有できるテーマを見出し、これからの効果的なFD活動を実施していく予定である。
授業評価アンケート及び令和5年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和6年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和6年度に向けた改善計画

【令和5年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和6年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☒ 英文での入力を周知した。 ☐ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☐ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()

2-2 下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☐ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☒ その他(希望者による公開授業を実施した)

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☒ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他()

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和6年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
AIツールを利用した授業運営法とAIを用いた不正行為への対策	令和6年6月13日	AIに精通した教員3名(八柳、三橋、佐藤)によるAIの現状、学生の利用傾向と対策について	39名	
大阪大学における初年次少人数セミナー型導入科目「学問への扉」の有効性と課題	令和6年10月11日	大阪大学全学教育推進機構教育学習支援部村上正行教授による大阪大学の先進的取り組みについての講演	29名	
GS教育系各委員会報告会	令和6年11月21日	系内各委員会活動に関する報告と今後の連携と展開について	15名	オンライン開催
授業公開週間“Open Class Week”	令和6年10月15-29日	GS教育系、外国語教育系(英語科目、初習言語科目)合計55コマの授業公開	55名	
生成AIを活用した教育支援の活用事例と実践方法	令和7年3月24日	生成AIを活用した教育支援の活用事例と実践方法に関する株式会社システムサポートの講師による講演	34名	

○照会事項5 令和6年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和6年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和6年度の自己評価	総評
4	GS教育系の所属教員は医薬保健、理工、社会科学や芸術まで全学術領域にまたがっている。逆にその特性を活かし、アクティブ・ラーニングの手法、成績評価方法や生成AIによる教育支援等、学術領域を超えて共有する教育の課題を検討する活動を行なっている。令和6年度はGS教育系主催で、4つのFD研修会を行なった。特に力を入れたテーマはAI関連であり、「AIツールを利用した授業運営法とAIを用いた不正行為への対策」「生成AIを活用した教育支援の活用事例と実践方法」の2つを実施した。このほか「大阪大学における初年次少人数セミナー型導入科目「学問への扉」の有効性と課題」「GS教育系各委員会報告会」も行なった。外国語教育系主催のFD研修会への積極的な参加を促すことにより、共通教育における相互理解と問題点の共有に取り組むことができた。また、「Open Class Week」として、外国語系と共同で、教員間の授業参観の試みを実施した。2週間にわたり合計29名の教員が55コマの授業を公開した。これらに加え、担当教員間での自主的なFD活動が複数回実施されており、アクティブ・ラーニングや英語授業の効果の向上等、授業改善に向けた効果的なFD活動を行なっている。

【令和6年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

--

令和6年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 国際基幹教育院(外国語教育部門)

参考資料:「令和5年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和6年度に向けた改善計画		
自己評価	令和5年度の自己評価	総評
令和5年度FD活動の自己評価及び総評	4	令和5年度はすべての教育企画部(EAP教育企画部・国際試験教育企画部・初習言語教育企画部・未来教育創成環教育企画部)において充実したFD活動が実施された。 2022年度設置した英語将来構想WGが英語科目の抱える課題の洗い出しを行い、2024年度開講予定の新カリキュラムの方向性を提示した。(1)「英語で教授する」、(2)「共通シラバス・共通教材(共通教科書)・共通試験・評価」、(3)外部客観試験スコアを用いた学生の英語力の悉皆経年把握、(4)教育企画部による統一コース管理という特徴を継承しつつも、より確かな英語読解力、事象を批判的に捉える力(クリティカル・シンキング)、英語による発信力、汎用的知的コミュニケーション能力、本質的課題を見出しそれらの解決を思考する姿勢を育成・涵養するプログラムの開発が各教育企画部に指示された。これらの方針に基づき、国際試験教育企画部とEAP教育企画部は改革案をまとめ、科目開発およびシラバス・教材・教員マニュアルの全面的改訂を行った。 国際試験教育企画部は、従来「TOEIC準備コース」で扱っていたTOEICテスト対策の要素は残しつつ、より汎用的な実践英語を扱う「Practical English」という新コースを開発し、教科書もTOEIC対策に特化したものからより汎用的でクリティカル・シンキングの要素を入れた新しいものへと変更した。なお、客観試験の最終成績に占める比率を70%にするなど成績評価基準も変更した。 EAP教育企画部は、生成AIや機械翻訳への対応を考慮し、従来のEAPコースの内容に加えて、自分以外が書いたテキストへの評価や語彙、クリティカル・シンキングの自習教材・小テストを新たに導入し、主観的評価要素を排した客観的評価の要素が成績全体の30%を占めるような成績評価制度を構築した。なお、1年次学術リテラシー教育の基礎的科目と位置づけられる「アカデミックスキル」「プレゼンディベート」とEAPコースの連携を強めるために、各クォーターの授業で扱う内容や順序を適正化した。 学術リテラシー教育企画部は、全学的な学術リテラシー教育の推進のため2年次以上を対象とする英語学術リテラシー科目5コース20科目を開発し、令和6年度については共通教育自由履修科目としてパイロット開講することにした。 初習言語教育企画部では、学類との連携を強めより統一的に初習言語科目を運営するために、初習言語科目カリキュラム連絡会を設置した。また、初習言語科目カリキュラム改革WGを設置し、新カリキュラム作成検討準備会議を2023年度において30回以上開催した。これまでの初習言語科目の開講形態を抜本的に見直し、教育企画部による統一コース管理(統一教育目標、統一開講時間帯)を導入した新たなカリキュラムを立案・構築し、新カリキュラムのポイントをまとめた冊子『共通教育初習言語カリキュラム要覧』を作成し、関係教員に配布した。 生成AIの台頭を踏まえたFD研修会ほか他部局・学類との連携した講演・研修会が複数件実施されるなど活発なFD活動が展開された。これらの多様なFD活動を活かしてポストSGUの外国語教育改革に取り組み、新カリキュラムをまとめ上げた。
授業評価アンケート及び令和5年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和6年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和6年度に向けた改善計画

【令和5年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

以下、令和6年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☒ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☐ 科目担当者間で共有した。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他(教育企画部コーディネーターで結果を分析し、新カリキュラム策定委に活かした。)
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()

2-2 下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☒ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☒ すべての教員の授業を公開している。 ☐ その他()

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☒ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☐ 成績評価分布を調査した。 ☐ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☒ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☒ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他()

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和6年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
第1回外国語教育系FD研修会 (初習言語教育企画部企画)	令和6年7月12日	Jana Klacanska講師「ドイツ語授業における教材の工夫—第28回DaFセミナー参加を通しての考察」	系長ほか6名	
第2回外国語教育系FD研修会 (EAP教育企画部企画)	令和6年7月26日	第1回 EAPワークショップ	系長ほか9名	
第3回外国語教育系FD研修会 (国際試験教育企画部企画)	令和6年9月5日、12日	(講演会)前田広之氏・Ross Tulloch氏「英語読解問題作成セミナー:TOEIC Part 7 で学ぶ問題作成の視点と考え方」	系長ほか10名	オンライン開催
国際基幹教育院FD活動 (GS教育系・外国語教育系共催)	令和6年10月15-29日	授業公開週間“Open Class Week“	系長ほか55名	院長、系長参加。GS教育系、外国語教育系(英語科目、初習言語科目)合計55コマの授業公開。
第4回外国語教育系FD研修会 (国際基幹教育院共催)	令和6年12月2日	(講演会)中山裕木子「生成AI とのつきあいかた—これからの英語学習を考える」	系長ほか39名	オンライン開催
第5回外国語教育系FD研修会 (EAP教育企画部)	令和7年2月13日	第2回EAPワークショップ	系長ほか14名	

第6回外国語教育系FD研修会 (初習言語教育企画部)	令和7年2月19日	新共通教育初習言語カリキュラム施行の1年 を振り返る	系長ほか9 名	
未来創成教育環主催FD研修会 (国際基幹教育院共催)	令和7年3月5日	(講演会)保田幸子「英語科学論文の書き方・ 教え方」	系長ほか 89名(オン ライン参加 者 65名)	
未来創成教育環主催FD研修会 (国際基幹教育院共催)	令和7年3月12日	(国際シンポジウム)大藪加奈・門田修平・柴田 美紀・David Wei Dai「ソーシャル・エイジェントと しての英語使用者養成:国際共修教室におけ るインターアクティブ・コンピテンシーと社会・文 化アウェアネス」	教育担当 理事,学長 補佐,系長 ほか38名 (オンライン 参加者 24名)	

○照会事項5 令和6年度FD活動の自己評価及び総評

5ー1 貴部局等での令和6年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和6年度の自己評価	総評
4	授業評価アンケートなどの結果を踏まえ、より教育の質的向上を図るために計画された教育企画部(EAP教育企画部・国際試験教育企画部・初習言語教育企画部・未来教育創成環教育企画部)のFD活動は予定通り実施された。 令和6年度に新設されたPractical Englishコースでは、TOEIC準備コースの大枠(共通シラバス・共通教科書・共通試験)は継続し、クリティカル・シンキングなどの要素を取り入れた、より汎用性の高い英語能力の養成を目指した。授業内活動を増やす変更として、反転授業を促す教科書の選定、共通「帯活動」の導入、成績評価における試験成績と授業内評価の比率の変更(8対2から7対3)が挙げられる。 EAP教育企画部は教員からのフィードバックや教育研究、学生の学習観察に基づき常にそのカリキュラムを刷新してきた。批判的思考や文献に基づく文書作成やプレゼンテーションなど、大学での学びに必要な基礎的な学術スキルの養成を明確な教育目標としている点やアクティブラーニングや学生に主体性を持たせる教育方法を取って初年次教育に貢献している。 これらの実現に大きな教員負担がかかり、その負担軽減もまた課題の一つであった。そのための方策として、令和6年度には、LMSで自動採点できる小テストを導入した。運用する過程で大学の基幹的ネットワークの問題が浮上したが、現場での対応により成績評価等への影響は回避された。 学術リテラシー教育企画部は、全学的な学術リテラシー教育の推進のため2年次以上を対象とする英語学術リテラシー科目5コース20科目を開発し、令和7年度の学域共通GS言語科目への開講に向けて、令和6年度は共通教育自由履修科目としてパイロット開講した。 初習言語教育企画部では、これまでの初習言語科目の開講形態を抜本的に見直した新カリキュラムの初年度であった。年度末には学生に向けて初習言語に関するアンケートを実施した。そのアンケートの報告と新カリキュラムに関する教員の意見交換、改善策の議論の場としてFD研修会を開催した。FDでの議論を踏まえて、初習言語教育企画部で新カリキュラムの細部を検証し、『共通教育初習言語カリキュラム要覧』に反映させた。加筆修正された『要覧』は関係教員に配布された。 外国語教育系では、生成AIの台頭を踏まえたFD研修会ほか、GS教育系との共催で開催された授業見学週間Open Class Weekでは、外国語教育系所属教員全員が授業を公開し、他部局・学類との連携した講演・研修会が複数件実施されるといった活発なFD活動が展開された。これらの多様なFD活動を活かして本学の外国語教育のさらなる深化を目指す。

【令和6年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

5ー2 授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

令和6年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 学術メディア創成センター

参考資料:「令和5年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和6年度に向けた改善計画		
自己評価	令和5年度の自己評価	総評
令和5年度FD活動の自己評価及び総評	3	データサイエンス基礎の本センターが担当している部分について、令和6年度に向けて本センター教員全員で講習ができたこと、またメールやslack等を用いてお互い担当の授業を報告・情報共有しリアルタイムで授業改善に役立てられたことから、概ね評価できる。
授業評価アンケート及び令和5年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和6年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和6年度に向けた改善計画

【令和5年度の自己評価】4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和6年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☐ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☐ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☐ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☐ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☐ 英文での入力を周知した。 ☐ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☐ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☐ 担当者個人に返却した。 ☐ 科目担当者間で共有した。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()

2-2 下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☐ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☒ すべての教員の授業を公開している。 ☐ その他()

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☐ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☐ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☐ 成績評価分布を調査した。 ☐ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他()

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和6年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考
データサイエンス基礎の授業実施説明会	令和7年3月24日	次年度(令和7年度)のデータサイエンス基礎の実施に向けた研修会	センター長 他9名	
数理データサイエンスAI基礎/発展の事例紹介	令和7年3月24日	多文化共修とデータサイエンス教育を融合させた授業の実践報告	センター長 他9名	

○照会事項5 令和6年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和6年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和6年度の自己評価	総評
3	データサイエンス基礎の本センターが担当している部分について、令和6年度担当内容についてメールやslack等を用いてお互いの授業について情報共有し即座に授業改善に役立てられたこと、令和7年度に向けて本センター教員全員で講習ができたことから、概ね評価できる。

【令和6年度の自己評価】4:大いに評価できる、3:概ね評価できる、2:あまり評価できない、1:ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

--

令和6年度FD活動報告(様式)

様式1

部局等名 国際日本研究センター(旧国際機構)

参考資料:「令和5年度金沢大学におけるFD活動に関する報告書」に記載した自己評価・総評及び令和6年度に向けた改善計画		
自己評価	令和5年度の自己評価	総評
令和5年度FD活動の自己評価及び総評	3	国際機構は、留学生や国内学生のための質の高い教育や生活・学習サポートを提供するだけでなく、派遣・受け入れショートプログラムの運営、新しいプログラムの開発が求められている。特に令和5年度には、令和6年度から始まる新体制での教育、研究その他の業務内容について、各担当分野の教員が経験を基に活発な意見交換を重ね、FD活動を強化した。
授業評価アンケート及び令和5年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和6年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。		令和6年度に向けた改善計画

【令和5年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下、令和6年度の貴部局等の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 シラバス改善のための取組みの実施状況

下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①シラバスの基本的項目の点検	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ AL(Active Learning)に関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他()
②授業科目の英語化の点検	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☒ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他()

○照会事項2 授業方法・カリキュラムの改善のための取組み等の実施状況

2-1 授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用しましたか。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①授業評価アンケート結果の活用	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他()
②卒業・修了者に対するアンケート結果の活用	☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他()

2-2 下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)の実施	☒ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☒ すべての教員の授業を公開している。 ☒ その他(総合日本語プログラムの授業はすべて、担当者が互いに教材や授業の進め方などについての報告及び問題点の指摘などを行えるよう、定期的なミーティングを行っている。)

○照会事項3 成績評価基準等の作成・検証状況

下記について、令和6年度の実施状況を選択してください。なお、一部のコース等で実施した場合は、実施したコース等を()書きで記載してください。

観 点	以下のチェック項目について、該当するものに☑してください。
①成績評価基準等の作成・検証	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他()
②成績評価方法の検証	☒ 成績評価分布を調査した。 ☐ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他()

○照会事項4 FD研修会の実施状況(本学主催)

FD講演会、FD関連の各種研修等(学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援及び研究等を含む)について、令和6年度の実施状況(名称・開催日・概要・参加人数)を記載してください。なお、他部局等との合同開催である場合は他部局等名を、貴部局等内の一部のコース等での開催である場合はコース名等を備考欄に記載してください。

名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考

○照会事項5 令和6年度FD活動の自己評価及び総評

5-1 貴部局等での令和6年度のFD活動全体について、自己評価及び総評を記載してください。また、貴部局等で特色ある取り組みを行った場合は、詳細を記載してください(学類単位の特色ある取り組み担当の部局は様式4へ記載)。

令和6年度の自己評価	総評
3	国際日本研究センターは、留学生や日本人学生のための質の高い教育や生活・学習サポートを提供するだけでなく、派遣・受入プログラムの運営、新しいプログラムの開発が求められている。特に令和6年度後半には、ソーシャルインパクト事業に採択されことにより、事業の核となる「国際共修」を推進すべく、次年度の取組に向けたFD活動として、各担当分野の教員が経験を基に活発な意見交換を重ねた。

【令和6年度の自己評価】 4: 大いに評価できる、3: 概ね評価できる、2: あまり評価できない、1: ほとんど評価できない

5-2 授業評価アンケート及び令和6年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和7年度に行われる教育方法・カリキュラムの改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画について、具体的に記載してください。

--

3 各部局等の BSD 活動

令和6年度BSD活動報告(様式)

課名 学務部学務課

参考資料: 令和5年度に提出された自己評価及び令和5年度の改善にむけての取組み予定
※昨年提出していただいた情報を掲載しています。

自己評価	令和5年度の自己評価	令和6年度の改善に向けての取組み予定
照会事項3 自己評価及び総評 令和5年度BSD活動の自己評価及び総評	3	

【令和5年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下は、令和6年度の貴課の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 BSD研修会の実施状況

BSD講演会、BSD関連の各種研修等(教員向けFD活動を活用したBSD研修、学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援等を図るための研修等を活用したBSD研修)について、令和6年度の実施回数、各回の講演会等の名称、開催日、テーマ(内容)及び参加人数を記入してください。(適宜、行を追加してください。)(総務部職員課が主催等している研修の記載は不要です。)

実施回数: 13回

名称	概要テーマ(内容)	開催日	参加人数(概数)	備考
令和6年度第1回全学FD研修会	新任教員説明会<教育・学生編>	4月4日	3名	主催, 全体64名
令和6年度第2回全学FD研修会	「文理融合・STEAM教育に関連した授業設計とは～教養教育、専門教育など多様な観点から考える～」	7月4日	6名	主催, 全体101名
知識集約型社会を支える人材育成事業(DP)採択校合同企画	「未来思考型ワークショップ 2024(アイデアソン) ～『知識集約型社会を支える人材育成事業(DP)』が創造する大学教育の未来～」	8月28日	3名	主催, 全体85名
令和6年度第3回全学FD研修会	「イシューベースラーニングのすすめ～課題解決力や実践力を鍛えるための授業設計～」	9月27日	7名	主催, 全体56名
令和6年度第4回全学FD研修会	「FD活動報告書成果発表会」ー学類等における組織的FDの取組事例ー	11月1日	9名	主催, 全体43名
「知識集約型社会を支える人材育成事業(DP)」共通テーマ3 参加校合同主催・学芸マネジメントセミナー2024	『文理横断の学びを支援する組織・方法・担い手について考える～文理融合・STEAM教育の時代における新しい学修支援～』	12月9日	9名	主催, 全体170名
令和6年度「文部科学省・知識集約型社会を支える人材育成事業(DP)総括シンポジウム	「新しい時代の大学教育につなぐメッセージ ～DP事業が目指し、創り上げてきた成果～」	3月6日	5名	主催, 全体192名
数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム 北信越ブロック 第4回シンポジウム	ダイバーシティ×数理・データサイエンス・AI教育 ～多様な数理・データサイエンス・AI人材の育成に向けて～	8月23日	3名	主催, 全体95名
数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム 北信越ブロック 第5回シンポジウム	人文・社会科学系 応用基礎レベル モデルシラバスと取組事例の紹介	2月10日	3名	主催, 全体76名
大学コンソーシアム石川 令和6年度 第1回FD/SD研修	「サステナビリティ時代の大学の持続的成長戦略を考える」ーイノベーション、サステナビリティと地域貢献の統合化を目指してー	9月14日	1名	
大学コンソーシアム石川 令和6年度 第2回FD/SD研修	「心身の健康に役立つマインドフルネスとセルフ・コンパッション」(好奇心に満ちた気づきと自分に対する思いやり)	10月5日	1名	
大学コンソーシアム石川 令和6年度 第3回FD/SD研修	「金沢工業大学における教育ビッグデータの分析とその活用」	10月11日	1名	
大学コンソーシアム石川 令和6年度 第4回FD/SD研修	第3回北陸地区研究データ基盤セミナー 共催事業「データマネジメントプラン(DMP)から始まる研究データ管理と活用」	11月20日	1名	

※参加人数は、貴課の参加人数を記載してください。

※備考欄は、学外の大学等が主催する研修会の場合は主催名を記載してください。また、所掌する委員会等が主催する研修会(FD研修会を除く)の場合は、「主催」と全体の参加者数を記載してください。

○照会事項2 その他の活動状況

貴課において、上記以外のBSD活動を行っている場合は、記入してください。

--

○照会事項3 令和6年度BSD活動の自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定

貴課での令和6年度のBSD活動全体について、自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定を記載してください。

令和6年度の自己評価	総評	来年度の改善取組予定 自己評価で「あまり評価できない」又は「ほとんど評価できない」の場合は、必ず記載してください。
3	本学主催のFD研修会やセミナー、及び外部機関が主催する研修会に参加し、教員のFD活動の支援並びに学生の学修環境の充実とともに、理解を深めた。	

【今年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

令和6年度BSD活動報告(様式)

課名 学務部基幹教育支援課

参考資料: 令和5年度に提出された自己評価及び令和5年度の改善にむけての取組み予定
 ※昨年提出していただいた情報を掲載しています。

自己評価	令和5年度の自己評価	令和6年度の改善に向けての取組み予定
照会事項3 自己評価及び総評 令和5年度BSD活動の自己評価及び総評	3	次年度も引き続き実施・参加する。

【令和5年度の自己評価】 4: 大いに評価できる, 3: 概ね評価できる, 2: あまり評価できない, 1: ほとんど評価できない

以下は, 令和6年度の貴課の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 BSD研修会の実施状況

BSD講演会, BSD関連の各種研修等(教員向けFD活動を活用したBSD研修, 学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援等を図るための研修等を活用したBSD研修)について, 令和6年度の実施回数, 各回の講演会等の名称, 開催日, テーマ(内容)及び参加人数を記入してください。(適宜, 行を追加してください。)(総務部職員課が主催等している研修の記載は不要です。)

実施回数: 1回

名称	概要テーマ(内容)	開催日	参加人数(概数)	備考
令和6年度前期 学生相談担当者研修会	なんでも相談室の基本方針, ハラスメント相談への対応, 相談をうけるときの基本的な態度, 共通教育のカリキュラムや履修登録の方法等の説明をオンデマンドで実施した。	オンデマンド	4名程度	主催(全体参加者数11名程度)

※参加人数は, 貴課の参加人数を記載してください。

※備考欄は, 学外の大学等が主催する研修会の場合は主催名を記載してください。また, 所掌する委員会等が主催する研修会(FD研修会を除く)の場合は, 「主催」と全体の参加者数を記載してください。

○照会事項2 その他の活動状況

貴課において, 上記以外のBSD活動を行っている場合は, 記入してください。

国際基幹教育院主催FD研修会に毎回1～5名程度が参加している。

○照会事項3 令和6年度BSD活動の自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定

貴課での令和6年度のBSD活動全体について, 自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定を記載してください。

令和6年度の自己評価	総評	来年度の改善取組予定 自己評価で「あまり評価できない」又は「ほとんど評価できない」の場合は, 必ず記載してください。
3	「学生相談担当者研修会」は, 毎年相談員となるメンバーが変わるため, 継続した開催が必要と思われる。	令和7年度も引き続き実施・参加する。

【今年度の自己評価】 4: 大いに評価できる, 3: 概ね評価できる, 2: あまり評価できない, 1: ほとんど評価できない

令和6年度BSD活動報告(様式)

課名 学務部学生支援課

参考資料: 令和5年度に提出された自己評価及び令和5年度の改善にむけての取組み予定
※昨年提出していただいた情報を掲載しています。

自己評価	令和5年度の自己評価	令和6年度の改善に向けての取組み予定
照会事項3 自己評価及び総評 令和5年度BSD活動の自己評価及び総評	3	教職員のニーズを反映した講師・内容で、自死防止に関する研修会を継続して開催する。

【令和5年度の自己評価】 4: 大いに評価できる, 3: 概ね評価できる, 2: あまり評価できない, 1: ほとんど評価できない

以下は、令和6年度の貴課の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 BSD研修会の実施状況

BSD講演会、BSD関連の各種研修等(教員向けFD活動を活用したBSD研修、学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援等を図るための研修等を活用したBSD研修)について、令和6年度の実施回数、各回の講演会等の名称、開催日、テーマ(内容)及び参加人数を記入してください。(適宜、行を追加してください。)(総務部職員課が主催等している研修の記載は不要です。)

実施回数: 1回

名称	概要テーマ(内容)	開催日	参加人数(概数)	備 考
学生・教職員の自死防止のための研修会	災害を乗り越えるために一人ひとりができること	12月9日	5名	学生自死防止専門委員会主催、全学FD委員会共催、全体80名

※参加人数は、貴課の参加人数を記載してください。

※備考欄は、学外の大学等が主催する研修会の場合は主催名を記載してください。また、所掌する委員会等が主催する研修会(FD研修会を除く)の場合は、「主催」と全体の参加者数を記載してください。

○照会事項2 その他の活動状況

貴課において、上記以外のBSD活動を行っている場合は、記入してください。

・保健管理センターや障がい学生支援室、キャリア支援課窓口の有機的な連携に事務職員も貢献し、対応状況を共有することでBSDにつながっている。

○照会事項3 令和6年度BSD活動の自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定

貴課での令和6年度のBSD活動全体について、自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定を記載してください。

令和6年度の自己評価	総評	来年度の改善取組予定 自己評価で「あまり評価できない」又は「ほとんど評価できない」の場合は、必ず記載してください。
3	令和6年能登半島地震発災後、災害後のメンタルヘルスの問題をテーマとして研修会を行い、教員、職員、専門職等が連携することの重要性を再認識し、学生支援体制の強化につながった。また、平素から複数窓口の連携が必要な問題のある学生に関し、事務職員も積極的に関与することがOJTに結びついている。	教職員のニーズを反映した講師・内容で、自死防止に関する研修会を継続して開催する。

【今年度の自己評価】 4: 大いに評価できる, 3: 概ね評価できる, 2: あまり評価できない, 1: ほとんど評価できない

令和6年度BSD活動報告(様式)

課名 学務部キャリア支援課

参考資料: 令和5年度に提出された自己評価及び令和5年度の改善にむけての取組み予定
※昨年提出していただいた情報を掲載しています。

自己評価	令和5年度の自己評価	令和6年度の改善に向けての取組み予定

【令和5年度の自己評価】 4: 大いに評価できる, 3: 概ね評価できる, 2: あまり評価できない, 1: ほとんど評価できない

以下は, 令和6年度の貴課の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 BSD研修会の実施状況

BSD講演会, BSD関連の各種研修等(教員向けFD活動を活用したBSD研修, 学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援等を図るための研修等を活用したBSD研修)について, 令和6年度の実施回数, 各回の講演会等の名称, 開催日, テーマ(内容)及び参加人数を記入してください。(適宜, 行を追加してください。)(総務部職員課が主催等している研修の記載は不要です。)

実施回数: 5回

名称	概要テーマ(内容)	開催日	参加人数(概数)	備考
就業支援基礎研修	雇用と福祉の分野横断的な基礎的知識・スキルを付与する研修	令和6年9月3・6・10日	2名	石川障害者職業センター主催
インターンシップ専門人材セミナー～基礎編～	インターンシップ専門人材として必要になる実践的なスキルの向上	令和6年9月20日	1名	日本学生支援機構主催
国立大学キャリア支援担当者情報共有分科会	各国立大学のキャリア支援担当者とのキャリア支援等に関する情報交換	令和6年9月27日	1名	株式会社レグルス主催
大学等と企業との就職に関する情報交換会	大学と企業との就職支援に関する取組、就職状況等に関するディスカッション	令和6年10月22日	2名	金沢市主催
インターンシップ専門人材研修会	インターンシップ専門人材として必要になる実践的なスキルの向上	令和6年11月22日 12月10日	2名	(一社)産学協働人材育成コンソーシアム主催

※参加人数は, 貴課の参加人数を記載してください。

※備考欄は, 学外の大学等が主催する研修会の場合は主催名を記載してください。また, 所掌する委員会等が主催する研修会(FD研修会を除く)の場合は, 「主催」と全体の参加者数を記載してください。

○照会事項2 その他の活動状況

貴課において, 上記以外のBSD活動を行っている場合は, 記入してください。

--

○照会事項3 令和6年度BSD活動の自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定

貴課での令和6年度のBSD活動全体について, 自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定を記載してください。

令和6年度の自己評価	総評	来年度の改善取組予定 自己評価で「あまり評価できない」又は「ほとんど評価できない」の場合は, 必ず記載してください。
3	各機関で実施している研修や情報交換会への参加を通して, 職員の知識向上やスキルアップに努めている。また, 研修等で得た情報については, 課内で情報共有している。	

【今年度の自己評価】 4: 大いに評価できる, 3: 概ね評価できる, 2: あまり評価できない, 1: ほとんど評価できない

令和6年度BSD活動報告(様式)

課名 学務部入試課

参考資料: 令和5年度に提出された自己評価及び令和5年度の改善にむけての取組み予定
 ※昨年提出していただいた情報を掲載しています。

自己評価	令和5年度の自己評価	令和6年度の改善に向けての取組み予定
照会事項3 自己評価及び総評 令和5年度BSD活動の自己評価及び総評	3	

【令和5年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下は, 令和6年度の貴課の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 BSD研修会の実施状況

BSD講演会, BSD関連の各種研修等(教員向けFD活動を活用したBSD研修, 学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援等を図るための研修等を活用したBSD研修)について, 令和6年度の実施回数, 各回の講演会等の名称, 開催日, テーマ(内容)及び参加人数を記入してください。(適宜, 行を追加してください。)(総務部職員課が主催等している研修の記載は不要です。)

実施回数:1回

名称	概要テーマ(内容)	開催日	参加人数(概数)	備考
令和7年度入学者選抜試験(一般選抜)合格者判定資料等に関する説明会	主体性評価方法及び合格者判定資料等についての説明をオンデマンドで実施	1月21日	6名	主催, 全体96名

※参加人数は, 貴課の参加人数を記載してください。

※備考欄は, 学外の大学等が主催する研修会の場合は主催名を記載してください。また, 所掌する委員会等が主催する研修会(FD研修会を除く)の場合は, 「主催」と全体の参加者数を記載してください。

○照会事項2 その他の活動状況

貴課において, 上記以外のBSD活動を行っている場合は, 記入してください。

令和7年度入学者選抜試験(一般選抜)事務担当者打ち合わせ会及び案内業務説明会を, 令和5年度に引き続きオンデマンド形式で実施し, 繁忙期においても担当者がいつでも繰り返し内容を確認可能とした。

○照会事項3 令和6年度BSD活動の自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定

貴課での令和6年度のBSD活動全体について, 自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定を記載してください。

令和6年度の自己評価	総評	来年度の改善取組予定 自己評価で「あまり評価できない」又は「ほとんど評価できない」の場合は, 必ず記載してください。
3	令和5年度と同様の取り組みを実施し, 令和7年度入学者選抜試験を無事に実施することができた。	

【今年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

令和6年度BSD活動報告(様式)

課名 融合系事務部学生課

参考資料: 令和5年度に提出された自己評価及び令和5年度の改善にむけての取組み予定 ※昨年提出していただいた情報を掲載しています。		
自己評価	令和5年度の自己評価	令和6年度の改善に向けての取組み予定
照会事項3 自己評価及び総評 令和5年度BSD活動の自己評価及び総評	3	引き続き、融合学域FD研修会、融合学域教員研究シーズ紹介、各学類ワークショップ等に参加する。(融合学域) 今年度も引き続き、教員と課題について共有を図り、FD研修会の企画・実施を進める。(新学術創成研究科)

【令和5年度の自己評価】 4: 大いに評価できる, 3: 概ね評価できる, 2: あまり評価できない, 1: ほとんど評価できない

以下は、令和6年度の貴課の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 BSD研修会の実施状況

BSD講演会、BSD関連の各種研修等(教員向けFD活動を活用したBSD研修、学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援等を図るための研修等を活用したBSD研修)について、令和6年度の実施回数、各回の講演会等の名称、開催日、テーマ(内容)及び参加人数を記入してください。(適宜、行を追加してください。)(総務部職員課が主催等している研修の記載は不要です。)

実施回数: 21 回

名称	概要テーマ(内容)	開催日	参加人数 (概数)	備考
第18回融合学域FD研修会	「確立科目/融合研究・演習・試験[卒研相当]について」	令和6年5月30日	6名	全体28名
第19回融合学域FD研修会	「確立科目/融合研究・演習・試験[卒研相当]について その2」	令和6年6月27日	5名	全体20名
第20回融合学域FD研修会	「GPS-Academic(問題解決力測定テスト)の概要・前年度結果・今年度実施予定等」	令和6年7月25日	5名	全体18名
第21回融合学域FD研修会	「文理医融合教育」	令和6年11月28日	5名	全体19名
第22回融合学域FD研修会	「融合学域ふりかえり」	令和6年12月26日	5名	全体24名
第23回融合学域FD研修会	「確立科目その他」	令和7年2月27日	4名	全体23名
第24回融合学域FD研修会	「新年度の課題」	令和7年3月27日	5名	全体28名
研究シーズ紹介	融合研究域教員の研究紹介	令和6年6月13日	5名	全体40名
研究シーズ紹介	融合研究域教員の研究紹介	令和6年7月11日	5名	全体40名
研究シーズ紹介	融合研究域教員の研究紹介	令和6年10月10日	5名	全体43名
研究シーズ紹介	融合研究域教員の研究紹介	令和6年11月14日	6名	全体42名
研究シーズ紹介	融合研究域教員の研究紹介	令和6年12月12日	6名	全体43名
研究シーズ紹介	融合研究域教員の研究紹介	令和7年1月9日	6名	全体44名
第1回先導学類ワークショップ	令和7年度以降カリキュラム ほか	令和6年10月4日	6名	全体25名
第2回先導学類ワークショップ	令和7年度以降カリキュラム ほか	令和6年12月26日	6名	全体24名
第3回先導学類ワークショップ	令和7年度以降カリキュラム ほか	令和7年1月17日	6名	全体27名
第1回観光デザイン学類ワークショップ	復興・産業創生に向けての地域連携推進 ほか	令和6年10月15日	6名	全体23名
第2回観光デザイン学類ワークショップ	令和7年度授業担当教員 ほか	令和6年12月3日	6名	全体22名
スマート創成科学類ワークショップ	令和7年度授業担当教員 ほか	令和6年10月24日	6名	全体26名
新学術創成研究科 融合科学共同専攻FD研修会	JAISTと合同実施の授業における課題や改善及び学生募集について	令和7年3月10日	1名	全体12名 他JAIST教員
新学術創成研究科 ナノ生命科学専攻FD研修会	博士後期課程における標準修業年限内での修了に向けた現状の課題について	令和7年3月26日	1名	全体13名

※参加人数は、貴課の参加人数を記載してください。

※備考欄は、学外の大学等が主催する研修会の場合は主催名を記載してください。また、所掌する委員会等が主催する研修会(FD研修会を除く)の場合は、「主催」と全体の参加者数を記載してください。

○照会事項2 その他の活動状況

貴課において、上記以外のBSD活動を行っている場合は、記入してください。

--

○照会事項3 令和6年度BSD活動の自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定

貴課での令和6年度のBSD活動全体について、自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定を記載してください。

令和6年度の自己評価	総評	来年度の改善取組予定 自己評価で「あまり評価できない」又は「ほとんど評価できない」の場合は、必ず記載してください。
3	融合学域FD研修会、融合学域教員研究シーズ紹介、及び学類ワークショップに参加し、教員との情報共有を行った。 新学術創成研究科各専攻のFD研修会に参加し、JAIST教員も含めて、教員の研究内容や、各専攻における課題の共有を図ることができた。	引き続き、融合学域FD研修会、融合学域教員研究シーズ紹介、各学類ワークショップ、及び新学術創成研究科FD研修会等に参加する。 教員との貴重な情報共有の場であるため、事務職員の参加人数を増やす。

【今年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

令和6年度BSD活動報告(様式)

課名 人間社会系事務部学生課

参考資料: 令和5年度に提出された自己評価及び令和5年度の改善にむけての取組み予定
 ※昨年提出していただいた情報を掲載しています。

自己評価	令和5年度の自己評価	令和6年度の改善に向けての取組み予定
照会事項3 自己評価及び総評 令和5年度BSD活動の自己評価及び総評	3	

【令和5年度の自己評価】 4: 大いに評価できる, 3: 概ね評価できる, 2: あまり評価できない, 1: ほとんど評価できない

以下は, 令和6年度の貴課の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 BSD研修会の実施状況

BSD講演会, BSD関連の各種研修等(教員向けFD活動を活用したBSD研修, 学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援等を図るための研修等を活用したBSD研修)について, 令和6年度の実施回数, 各回の講演会等の名称, 開催日, テーマ(内容)及び参加人数を記入してください。(適宜, 行を追加してください。)(総務部職員課が主催等している研修の記載は不要です。)

実施回数: 3回

名称	概要テーマ(内容)	開催日	参加人数(概数)	備考
国立大学法人等情報化要員研修	LLMプロンプトエンジニアリング研修 ~ ChatGPTで質問力を鍛えて「面倒業務」を効率化~	11月22日	1名	主催(国立大学法人等情報化連絡協議会)
人間社会学域FD研修会(第1回)	学類・専攻における教学マネジメントの要点	12月17日	1名	
第17回障がい学生支援セミナー	障害者差別解消法に基づいた学生支援	2月20日	2名	主催(大学コンソーシアム石川)

※参加人数は, 貴課の参加人数を記載してください。

※備考欄は, 学外の大学等が主催する研修会の場合は主催名を記載してください。また, 所掌する委員会等が主催する研修会(FD研修会を除く)の場合は, 「主催」と全体の参加者数を記載してください。

○照会事項2 その他の活動状況

貴課において, 上記以外のBSD活動を行っている場合は, 記入してください。

--

○照会事項3 令和6年度BSD活動の自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定

貴課での令和6年度のBSD活動全体について, 自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定を記載してください。

令和6年度の自己評価	総評	来年度の改善取組予定 自己評価で「あまり評価できない」又は「ほとんど評価できない」の場合は、必ず記載してください。
3	課独自に研修を行うことは負担が大きいためから難しいものの、業務効率化及び学生系に関わるテーマの研修会を活用し、BSD活動を行うことが出来た。	

【今年度の自己評価】 4: 大いに評価できる, 3: 概ね評価できる, 2: あまり評価できない, 1: ほとんど評価できない

令和6年度BSD活動報告(様式)

課名 理工系事務部学生課

参考資料: 令和5年度に提出された自己評価及び令和5年度の改善にむけての取組み予定
※昨年提出していただいた情報を掲載しています。

自己評価	令和5年度の自己評価	令和6年度の改善に向けての取組み予定
照会事項3 自己評価及び総評 令和5年度BSD活動の自己評価及び総評	2	来年度の活動予定において、時期の移動や回数増などの変更は予定していない。

【令和5年度の自己評価】 4: 大いに評価できる, 3: 概ね評価できる, 2: あまり評価できない, 1: ほとんど評価できない

以下は、令和6年度の貴課の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 BSD研修会の実施状況

BSD講演会, BSD関連の各種研修等(教員向けFD活動を活用したBSD研修, 学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援等を図るための研修等を活用したBSD研修)について、令和6年度の実施回数, 各回の講演会等の名称, 開催日, テーマ(内容)及び参加人数を記入してください。(適宜, 行を追加してください。)(総務部職員課が主催等している研修の記載は不要です。)

実施回数: 1回

名称	概要テーマ(内容)	開催日	参加人数(概数)	備考
理工学域・自然科学研究科 第16回FDシンポジウム	理工系専門教育における反転授業の実践と効果	3月25日	3名	主催, 全体75名

※参加人数は、貴課の参加人数を記載してください。

※備考欄は、学外の大学等が主催する研修会の場合は主催名を記載してください。また、所掌する委員会等が主催する研修会(FD研修会を除く)の場合は、「主催」と全体の参加者数を記載してください。

○照会事項2 その他の活動状況

貴課において、上記以外のBSD活動を行っている場合は、記入してください。

--

○照会事項3 令和6年度BSD活動の自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定

貴課での令和6年度のBSD活動全体について、自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定を記載してください。

令和6年度の自己評価	総評	来年度の改善取組予定 自己評価で「あまり評価できない」又は「ほとんど評価できない」の場合は、必ず記載してください。
3	山梨大学で長年取り組まれてきた「反転授業」の解説と、その学習効果をテーマにした講演では、反転授業の具体的な取り組みを示してもらいイメージが湧いたとの感想や、教員からのたくさんの質問があったことで、関心の高さが伺え、大変有意義なシンポジウムとなり、教員のFD活動の支援ができた。	

【今年度の自己評価】 4: 大いに評価できる, 3: 概ね評価できる, 2: あまり評価できない, 1: ほとんど評価できない

令和6年度BSD活動報告(様式)

課名 医薬保健系事務部学生課

参考資料: 令和5年度に提出された自己評価及び令和5年度の改善にむけての取組み予定 ※昨年提出していただいた情報を掲載しています。		
自己評価	令和5年度の自己評価	令和6年度の改善に向けての取組み予定
照会事項3 自己評価及び総評 令和5年度BSD活動の自己評価及び総評	4	

【令和5年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

以下は, 令和6年度の貴課の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 BSD研修会の実施状況

BSD講演会, BSD関連の各種研修等(教員向けFD活動を活用したBSD研修, 学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援等を図るための研修等を活用したBSD研修)について, 令和6年度の実施回数, 各回の講演会等の名称, 開催日, テーマ(内容)及び参加人数を記入してください。(適宜, 行を追加してください。)(総務部職員課が主催等している研修の記載は不要です。)

実施回数:11回

名称	概要テーマ(内容)	開催日	参加人数(概数)	備 考
第1回医学系FD研修会	金沢大学医学類の教育理念・3つのポリシー	4月	3名	
第2回医学系FD研修会	学びを促す授業設計に向けて 目標・活動・評価の整合性をはかるには	5月13日	3名	
第3回医学系FD研修会	プロフェッショナルリズム	6月17日	3名	
第4回医学系FD研修会	多職種連携教育(IPE)の実践例と今後に向けて	7月22日	3名	
第5回医学系FD研修会	マルチモビディティをバランスよく見るための妄想力を鍛えるカンファレンス(通称:マルモカンファレンス)をやってみよう!	10月31日	3名	
第6回医学系FD研修会	どうする?多職種連携教育～物理的距離を超えよう～	11月12日	3名	
第7回医学系FD研修会	臨床タイアップセッション ～臨床ナースの力を借りて事例をもとに状況判断能力を養う	12月9日	3名	
学生の自死防止のための研修会(金沢大学学生自死防止専門委員会)	災害を乗り越えるために一人ひとりができること	12月9日	6名	
第8回医学系FD研修会	学生の学びを促すアクティブラーニングの技法	1月20日	3名	
第9回医学系FD研修会	入学から卒業までのシームレスな学生支援に向けて～医学生をプロフェッショナルな医師へと育成するために教員ができること～	2月10日	3名	
第10回医学系FD研修会	人工知能(AI)と教育ーAIが人を教育する未来	2月18日	3名	

※参加人数は, 貴課の参加人数を記載してください。
※備考欄は, 学外の大学等が主催する研修会の場合は主催名を記載してください。また, 所掌する委員会等が主催する研修会(FD研修会を除く)の場合は, 「主催」と全体の参加者数を記載してください。

○照会事項2 その他の活動状況

貴課において, 上記以外のBSD活動を行っている場合は, 記入してください。

○照会事項3 令和6年度BSD活動の自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定

貴課での令和6年度のBSD活動全体について、自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定を記載してください。

令和6年度の自己評価	総評	来年度の改善取組予定 自己評価で「あまり評価できない」又は「ほとんど評価できない」の場合は、必ず記載してください。
4	令和5年度より設置の医療人材教育研究センターによるFD研修会と合同で医学系FD研修会を実施しており、事務職員が参加しやすい環境が整っている。	

【今年度の自己評価】 4:大いに評価できる, 3:概ね評価できる, 2:あまり評価できない, 1:ほとんど評価できない

令和6年度BSD活動報告(様式)

課名 医薬保健系事務部薬学・がん研支援課

参考資料: 令和5年度に提出された自己評価及び令和5年度の改善にむけての取組み予定
※昨年提出していただいた情報を掲載しています。

自己評価	令和5年度の自己評価	令和6年度の改善に向けての取組み予定
照会事項3 自己評価及び総評 令和5年度BSD活動の自己評価及び総評	3	

【令和5年度の自己評価】 4: 大いに評価できる, 3: 概ね評価できる, 2: あまり評価できない, 1: ほとんど評価できない

以下は, 令和6年度の貴課の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 BSD研修会の実施状況

BSD講演会, BSD関連の各種研修等(教員向けFD活動を活用したBSD研修, 学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援等を図るための研修等を活用したBSD研修)について, 令和6年度の実施回数, 各回の講演会等の名称, 開催日, テーマ(内容)及び参加人数を記入してください。(適宜, 行を追加してください。)(総務部職員課が主催等している研修の記載は不要です。)

実施回数: 1回

名称	概要テーマ(内容)	開催日	参加人数(概数)	備考
薬学4年制課程卒業生の薬剤師国家試験受験資格認定に関する勉強会	薬学4年制課程の卒業生が薬剤師国家試験受験資格を取得できる制度について, 制度の概要や手続きに必要な知識の勉強会を行った。	9月26日	2名	

※参加人数は, 貴課の参加人数を記載してください。

※備考欄は, 学外の大学等が主催する研修会の場合は主催名を記載してください。また, 所掌する委員会等が主催する研修会(FD研修会を除く)の場合は, 「主催」と全体の参加者数を記載してください。

○照会事項2 その他の活動状況

貴課において, 上記以外のBSD活動を行っている場合は, 記入してください。

--

○照会事項3 令和6年度BSD活動の自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定

貴課での令和6年度のBSD活動全体について, 自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定を記載してください。

令和6年度の自己評価	総評	来年度の改善取組予定 自己評価で「あまり評価できない」又は「ほとんど評価できない」の場合は, 必ず記載してください。
3	「研修」という形式にまでは至らないものの, 日常業務のOJTによる教務システムや教員が利用するWebClassの使い方などの知識向上やスキルアップに努めている。また, 専門部署や関係教員等にアドバイスを求め, その内容等の情報共有を課内で密に行っている。	

【今年度の自己評価】 4: 大いに評価できる, 3: 概ね評価できる, 2: あまり評価できない, 1: ほとんど評価できない

令和6年度BSD活動報告(様式)

課名 医薬保健系事務部保健学支援課

参考資料: 令和5年度に提出された自己評価及び令和5年度の改善にむけての取組み予定
 ※昨年提出していただいた情報を掲載しています。

自己評価	令和5年度の自己評価	令和6年度の改善に向けての取組み予定
照会事項3 自己評価及び総評 令和5年度BSD活動の自己評価及び総評	3	

【令和5年度の自己評価】 4: 大いに評価できる, 3: 概ね評価できる, 2: あまり評価できない, 1: ほとんど評価できない

以下は, 令和6年度の貴課の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 BSD研修会の実施状況

BSD講演会, BSD関連の各種研修等(教員向けFD活動を活用したBSD研修, 学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援等を図るための研修等を活用したBSD研修)について, 令和6年度の実施回数, 各回の講演会等の名称, 開催日, テーマ(内容)及び参加人数を記入してください。(適宜, 行を追加してください。)(総務部職員課が主催等している研修の記載は不要です。)

実施回数:3回

名称	概要テーマ(内容)	開催日	参加人数(概数)	備考
令和6年度第1回保健学系FD研修会	セルフタッチング ストレスをコントロールしよう!	令和6年8月7日	5名	全体参加人数57名
令和6年度第2回保健学系FD研修会	発達障害について—学生の苦しさを知る	令和6年11月6日	5名	全体参加人数45名
令和6年度第3回保健学系FD研修会	高大接続の足がかり～高校現場の視点から	令和7年1月8日	5名	全体参加人数42名

※参加人数は, 貴課の参加人数を記載してください。

※備考欄は, 学外の大学等が主催する研修会の場合は主催名を記載してください。また, 所掌する委員会等が主催する研修会(FD研修会を除く)の場合は, 「主催」と全体の参加者数を記載してください。

○照会事項2 その他の活動状況

貴課において, 上記以外のBSD活動を行っている場合は, 記入してください。

--

○照会事項3 令和6年度BSD活動の自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定

貴課での令和6年度のBSD活動全体について, 自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定を記載してください。

令和6年度の自己評価	総評	来年度の改善取組予定 自己評価で「あまり評価できない」又は「ほとんど評価できない」の場合は, 必ず記載してください。
3	現在の学生の特徴や, こころの健康のサポート, ハラスメント防止をテーマとした教員向けのFD研修会への参加を通じて, 学生への支援のあり方について理解を深めることができた。	

【今年度の自己評価】 4: 大いに評価できる, 3: 概ね評価できる, 2: あまり評価できない, 1: ほとんど評価できない

令和6年度BSD活動報告(様式)

課名 国際部留学企画課

参考資料: 令和5年度に提出された自己評価及び令和5年度の改善にむけての取組み予定
※昨年提出していただいた情報を掲載しています。

自己評価	令和5年度の自己評価	令和6年度の改善に向けての取組み予定
照会事項3 自己評価及び総評 令和5年度BSD活動の自己評価及び総評	3	

【令和5年度の自己評価】 4: 大いに評価できる, 3: 概ね評価できる, 2: あまり評価できない, 1: ほとんど評価できない

以下は、令和6年度の貴課の実施状況等を回答願います。

○照会事項1 BSD研修会の実施状況

BSD講演会、BSD関連の各種研修等(教員向けFD活動を活用したBSD研修、学生の心身の保護やキャリア形成を促進する学生支援等を図るための研修等を活用したBSD研修)について、令和6年度の実施回数、各回の講演会等の名称、開催日、テーマ(内容)及び参加人数を記入してください。(適宜、行を追加してください。)(総務部職員課が主催等している研修の記載は不要です。)

実施回数:3回

名称	概要テーマ(内容)	開催日	参加人数(概数)	備考
大学国際教育交流・派遣留学 管理者向け危機管理オンラインセミナー	『海外派遣留学のトラブル事例に学ぶ大学の危機管理』～国際交流専門の弁護士による基調講演:派遣留学における大学の法的責任～	6月24日	1名	日本アイラック主催
入国管理行政・申請取次制度講習会	入国管理局業務の最新情勢と申請取次制度	6月28日	3名	主催, 全体42名
第2回実践英語研修	「Supporting Students Face-to-Face, by E-mail and on the Telephone」	7月11日	1名	ブリティッシュ・カウンシル・JAFSA共催

※参加人数は、貴課の参加人数を記載してください。

※備考欄は、学外の大学等が主催する研修会の場合は主催名を記載してください。また、所掌する委員会等が主催する研修会(FD研修会を除く)の場合は、「主催」と全体の参加者数を記載してください。

○照会事項2 その他の活動状況

貴課において、上記以外のBSD活動を行っている場合は、記入してください。

--

○照会事項3 令和6年度BSD活動の自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定

貴課での令和6年度のBSD活動全体について、自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定を記載してください。

令和6年度の自己評価	総評	来年度の改善取組予定 自己評価で「あまり評価できない」又は「ほとんど評価できない」の場合は、必ず記載してください。
3	日本人学生の海外派遣支援業務に携わる際に、最も重要な知識である「危機管理」と、外国人留学生を受入れる際に、最初の重要なステップである「CoE申請」についての講習を事務職員が受講したことにより、留学企画課として必要なスキルの底上げができた。	

【今年度の自己評価】 4: 大いに評価できる, 3: 概ね評価できる, 2: あまり評価できない, 1: ほとんど評価できない

3-1 照会事項 1 BSD 研修会の実施状況

(参考)

	名称	内容	参加人数 (概数)	備考
	令和6年度金沢大学初任者研修	事務・技術系の初任職員に対して、本学の基本的事項について講義、見学体験等の多様なプログラムを提供し、「金沢大学職員」としての基礎的な能力を身につけさせることにより、今後の大学事務執行の円滑化を図る。	15名	金沢大学
	令和6年度金沢大学初任者研修（フォローアップ研修）	本研修は、以下の事項を目的として実施する。 ・主に大綱化以降の高等教育及び大学職員の役割の変化、さらに本学の未来ビジョンを理解し、大学が直面する課題や将来の方向性について洞察を得ることで、本学職員として広い視野を養う。 ・自身の業務経験を振り返り、成長を自覚し、モチベーションを持続・向上させる。 ・先輩職員との交流を通じて仕事への不安や悩みを軽減し、中長期的なキャリア形成を考える機会とする。	10名	金沢大学
	令和6年度「ー 未来を切り拓く心の力ー レジリエンス向上研修」	近年、少子化の急速な進行をはじめ、大学を取り巻く諸情勢が大きく変化し、教育研究など大学が行う業務は高度化・複雑化している。事務系職員においても、その職務はこれまで以上に多様化・複雑化し、役割の高度化が求められている。このような状況の中、本学のあるべき姿「未来ビジョン」の実現に向けて、職員一人ひとりが心身の健康を維持しながら、様々な困難や変化に柔軟に対応し、持続的に成長していくことが重要であり、かつ必要である。本研修は、事務系職員のこのような心の力＝レジリエンスの向上と、それに伴うモチベーションの向上を目的として実施する。	24名	金沢大学
	令和6年度北陸地区国立大学法人等初任者研修	新たに採用された事務系・技術系職員に対し、国立大学法人等事務に関する基礎的知識を修得させ、事務能率の増進を図ることを目的とする。	13名	金沢大学
	令和6年度北陸地区国立大学法人等マネジメント研修	国立大学法人を取り巻く環境が大きく変化する中、大学の事務組織には、変化に即応し、課題を解決する能力が求められる。そのためには、管理職が組織の力を最大限に活用することが必要であることから、それらを実現するための、マネジメント能力の向上を図ることを目的とする。	6名	金沢大学
	令和6年度北陸地区国立大学法人等中堅職員研修	北陸地区国立大学法人等の中堅職員に対し、役割認識と職務に必要な知識及び能力を付与することにより、職務遂行能力の増進を図ることを目的とする。	15名	北陸先端科学技術大学院大学

3-1 照会事項 1 BSD 研修会の実施状況

	名称	内容	参加人数 (概数)	備考
	令和6年度北陸地区国立大学法人等新任係長・専門職員研修	北陸地区国立大学法人等の係長・専門職員としての心構え及び職務遂行に必要な基本的、一般的知識を修得させるとともに、係長・専門職員としての能力及び識見を確立させ、国立大学法人等の管理運営の重要な担い手としての資質向上を図ることを目的とする。	10名	福井大学
	令和6年度北陸地区国立大学法人等リーダーシップ研修	北陸地区の国立大学法人、独立行政法人国立高等専門学校機構及び独立行政法人国立青少年教育振興機構の機関（以下「国立大学法人等機関」という。）の管理職員に対し、立場と役割を認識し、能力及び識見を確立させ、職員としての資質向上を図ることを目的とする。	3名	富山大学
	令和6年度国立大学法人等部課長級研修	国立大学法人等の部長級、課長級職員を対象に、大学運営の基本的知識の修得と幹部職員としての能力の向上を図る。	1名	国立大学協会
	2024年度国立大学法人等若手職員勉強会	国立大学等の継続的な発展に貢献する若手職員の力量向上 ①所属機関全体や職員としての役割・課題を自覚し、当事者意識を持って考える ②国立大学法人等とそれを取り巻く実状について主体的に学ぶ ③職員として必要な資質やマインドに気づき、自らが目指すべき職員像を意識する ④他機関の職員とのコミュニケーションを通してネットワークを構築する ⑤成果を所属機関へフィードバックし、各機関の発展に貢献する	1名	一般社団法人 国立大学協会
	第20回中部地区メンター養成研修	職場におけるメンター、メンタリングに関する基本的な知識とコミュニケーション・スキルを習得させる。	1名	人事院中部事務局
	第13回国立六大学事務職員研修会	本研修会は、千葉大学、新潟大学、金沢大学、岡山大学、長崎大学及び熊本大学の国立六大学の事務職員が、国立六大学連携コンソーシアムの趣旨を踏まえ、その具体的な連携・協力の推進や、大学間の垣根を越えた職員同士のネットワークの構築などを目的として実施するものである。	5名	千葉大学
	石川県研修「行政クレーム対応研修」	行政クレームへの対処方法を学ぶとともに、円滑な県民対応に資するコミュニケーション能力の向上を図る。	3名	石川県自治研修センター
	石川県「説明力向上研修」	県民や上司などに対して、正確で分かりやすく説明するために必要なスキルやコツなどを実践的な演習を通して習得する。	4名	石川県自治研修センター
	石川県「セルフケア能力向上研修」	心の調節力を高め、職務遂行上の適度なストレスと上手に付き合うための知恵を学び、生き生きと活動するためのセルフケア能力の向上を図る。	6名	石川県自治研修センター
	石川県「ネゴシエーションスキル(交渉力)向上研修」	窓口などの渉外業務を遂行する上で必要となる実践的な交渉力の向上を図る。	5名	石川県自治研修センター

3-1 照会事項 1 BSD 研修会の実施状況

	名称	内容	参加人数 (概数)	備考
	令和6年度東海・北陸地区 国立大学法人等人事担当者 (係長級以下) 研修	この研修は、東海・北陸地区の国立大学法人、大学共同利用機関法人、独立行政法人国立高等専門学校機構及び独立行政法人国立青少年教育振興機構の機関以下「国立大学法人等機関」という。)の人事担当者(係長級以下)に対し、役割認識と職務に必要な知識及び能力を付与することにより、法人職員の資質の向上と職務遂行能力の増進を図ることを目的とする。	3名	福井大学
	令和6年度東海・北陸地区 国立大学法人等会計事務職員 研修会	東海・北陸地区国立大学法人等の事務職員に対して、国立大学法人会計基準等に関する知識を習得させ、かつ、国立大学法人等職員として必要となる見識を研修することにより、各職員の資質の向上を図ることを目的とする。	6名	三重大学
	令和6年度国立大学法人等 施設担当職員研修会(初任ク ラス)	国立大学法人等の施設担当職員として自己の能力を十分に発揮できるよう、国立大学法人等の現況や動向などの概論について理解させるとともに、国立大学法人等の施設整備に係る多様な業務について、初任職員として必要な基礎的知識を習得させる。また、グループごとに課題テーマに対して全員で討議を行い、メンバーの相互コミュニケーションを通じてテーマに対する理解を深め、今後、業務に生かすことのできる人的ネットワークの構築を図る。	1名	国立大学協会
	令和6年度国立大学法人等 施設担当職員研修会(中堅 クラス)	国立大学法人等の施設担当職員のうち、中堅職員を対象として、施設整備を巡る現状と課題についてその知識を深めるとともに、人的ネットワークを構築・活用し、将来の大学経営を担う人材育成することを目的として、施設担当者職員研修を実施する。	1名	国立大学法人 等施設担当部 課長会 一般社団法人 国立大学協会 東京地区支部 及び関東・甲信 越地区支部
	令和6年度大学図書館職員 長期研修	全国の大学図書館等において 将来的に運営の中核を担うことが期待される 職員 に対し、学術情報に関する最新の知識を教授するとともに、図書館経営・情報サービスの在り方について再教育を行い、職員の資質とマネジメント・企画等の能力の向上を図ることにより、大学図書館等の情報提供サービス体制を充実させることを目的とする。	1名	筑波大学
	大学図書館員のための IT 総 合研修	本研修は、大学図書館等がサービスを提供する上で必要な、IT 技術の理解を深めることを目的とする。大学等研究機関の図書館は利用案内等を掲載する Web ページや、自館の所蔵資料を検索できる OPAC 等を公開している。近年では Web ページの作成は CMS (Contents Management System) によるところが多く、HTML・CSS・	1名	国立情報学研 究所

3-1 照会事項1 BSD 研修会の実施状況

	名称	内容	参加人数 (概数)	備考
		JavaScript に関する基本的な知識を修得する機会は少ない。 本研修では、大学等研究機関の図書館で必要とされる Web でのコンテンツ公開にかかる基本的な事項（Web サイトの仕組み、HTML・CSS の記述、簡単な JavaScript の記述）について、解説や演習を通して、理解する。なお、Web サイトの公開にあたっては、GitHub を使用する。 こうした実践を踏まえた理解を通して、Web ページや OPAC 等のあり方をシステムベンダーやシステム管理者と協議・構想するための知識や技術を修得する機会を提供する。		
	令和 6 年度就業支援基礎研修	福祉、教育医療等の機関において障害者の就業支援を担当している者を対象に障害者の就業支援に必要な基礎的知識・技術等の習得を目的とする。	2 名	独立行政法人 高齢・障害・求 職者雇用支援 機構

4 資料編

4-1 令和6年度授業評価アンケート

4-1 令和6年度授業評価アンケート

4-1-1 令和6年度授業評価アンケート回答率

令和6年度授業評価アンケート回答率について、前年度との比較は以下のとおりである。
令和4年度から導入した新システムによる授業評価アンケート実施が3年目を迎え、各部署の授業評価アンケート回答率が低下傾向にあり、回答率の改善充実が改めて求められる。

令和6年度授業評価アンケート回答率概要

部局名	回答率	(参考) 令和5年度回答率
【学士課程】		
共通教育	93.0%	99.1%
融合学域	91.7%	98.0%
人間社会学域	88.4%	97.1%
理工学域	63.6%	73.0%
医薬保健学域	61.1%	88.4%
【博士前期課程・修士課程】		
人間社会環境研究科	71.8%	76.4%
自然科学研究科	31.9%	53.6%
医薬保健学総合研究科	83.0%	85.2%
新学術創成研究科	89.8%	93.0%
【博士後期課程】		
人間社会環境研究科	70.4%	60.6%
医薬保健学総合研究科	58.1%	52.9%
新学術創成研究科	81.3%	71.4%
【博士課程】		
医薬保健学総合研究科	11.4%	18.2%
先進予防医学研究科	25.0%	32.1%
【専門職学位課程】		
法学研究科	63.9%	47.5%
教職実践研究科	100.0%	100.0%

4－1 令和6年度授業評価アンケート

4－1－2 共通教育科目 GS 科目 1～6 群の回答結果比較

令和3年度から共通教育科目 GS 科目に新たに6群が加わり、1群から6群における共通設問「①授業内容の適切性」「②担当教員の説明の仕方」「③授業外学修時間」「④授業理解度」「⑤学修目標達成度」「⑥授業満足度」の6項目について比較を行った。前年度と同様の傾向が概ね見られ、「①授業内容の適切性」「⑤学修目標達成度」「⑥授業満足度」について、2群の科目が他群に比べ、平均スコアが高い。また、「②担当教員の説明の仕方」「③授業外学修時間」「④授業理解度」について、5群の科目が他群に比べ、平均スコアが高い。

令和6年度		回答数	回答率	①授業内容の適切性 (－50～50の101段階の スコア平均)	②担当教員の説明の仕方 (－50～50の101段階の スコア平均)	③授業外学修時間 (－50～50の101段階の スコア平均)	④授業理解度 (－50～50の101段階の スコア平均)	⑤学修目標達成度 (－50～50の101段階の スコア平均)	⑥授業満足度 (－50～50の101段階の スコア平均)
共通教育科目 GS科目	1群	4,476	94.7%	30.8	27.3	3.3	25.2	25.3	26.3
	2群	6,543	93.4%	33.2	30.9	3.5	29.0	28.2	30.2
	3群	4,511	93.2%	32.2	30.5	2.6	28.1	27.7	29.5
	4群	5,211	94.5%	30.1	27.6	3.7	26.1	25.5	26.3
	5群	5,013	93.6%	33.0	31.1	3.9	29.1	27.9	29.0
	6群	6,790	94.8%	30.6	26.7	3.1	25.0	25.3	26.2

4-2 令和6年度卒業・修了者アンケート

4-2-1 令和6年度卒業・修了者アンケート回答率

令和6年度卒業・修了者アンケート回答率について、前年度との比較は以下のとおりである。学士課程を中心に、回答率が低下している部局が相当数見られ、回答率の改善充実が改めて求められる。

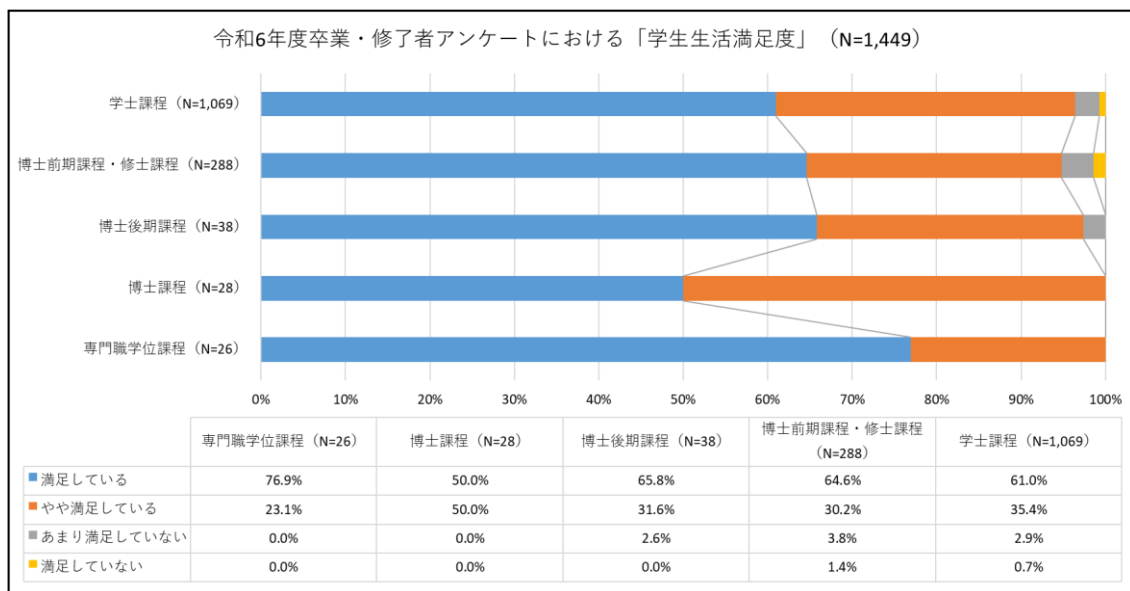
令和6年度卒業・修了者アンケート回答率概要

部局名	回答率	(参考) 令和5年度回答率
【学士課程】		
融合学域	86.0%	—
人間社会学域	72.2%	73.9%
理工学域	55.1%	65.7%
医薬保健学域	61.4%	68.4%
【博士前期課程・修士課程】		
人間社会環境研究科	54.3%	67.4%
自然科学研究科	43.1%	58.4%
医薬保健学総合研究科	55.1%	71.6%
新学術創成研究科	68.8%	42.9%
法学研究科	100.0%	100.0%
【博士後期課程】		
人間社会環境研究科	0.0%	100.0%
自然科学研究科	25.8%	20.0%
医薬保健学総合研究科	82.8%	73.9%
新学術創成研究科	66.7%	40.0%
【博士課程】		
医薬保健学総合研究科	75.0%	93.3%
先進予防医学研究科	66.7%	50.0%
【専門職学位課程】		
法学研究科	90.9%	66.7%
教職実践研究科	100.0%	100.0%

4-2 令和6年度卒業・修了者アンケート

4-2-2 令和6年度卒業・修了者アンケート結果による「学生生活満足度」

令和3年度から全学共通で4件法で設問している「学生生活満足度」の回答結果について、前年度同様、どの教育課程においても、満足度が概ね高い結果となっている。



4-3 令和6年度卒業・修了後アンケート

4-3 令和6年度卒業・修了後アンケート

4-3-1 令和6年度卒業・修了後アンケート回答者内訳

令和6年度卒業・修了後アンケートについて、前年度同様に、金沢大学IDを活用して実施した。「金沢大学における教育の内部質保証に関する指針」（令和6年2月9日、令和5年度第12回教育企画会議決定）に基づき、卒業・修了後3年の者を対象に毎年度実施している。今回は、令和3年度に卒業・修了した2,576名を対象に当該アンケートを実施した。令和7年3月21日～5月16日の回答期間において152件の回答があり、そのうち、有効回答数は139件（対象者2,576名、回答率5.4%）であった。

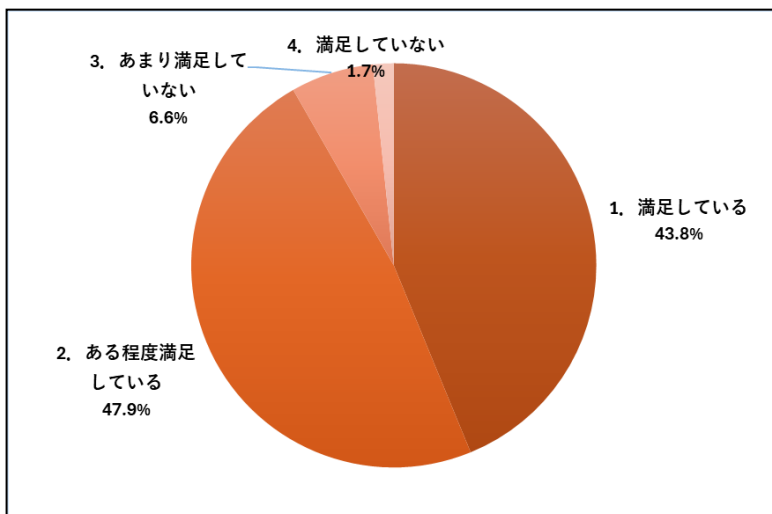
卒業・修了部局	回答者数
人間社会学域	25
理工学域	43
医薬保健学域	18
学士課程 小計	86
人間社会環境研究科	
博士前期課程	2
自然科学研究科	
博士前期課程	24
博士後期課程	2
医薬保健学総合研究科	
修士課程	2
博士前期課程	14
博士後期課程	3
博士課程	1
新学術創成研究科	
博士前期課程	1
教職実践研究科	4
大学院課程 小計	53
総計	139

4-3-2 現在の職種（N=123）

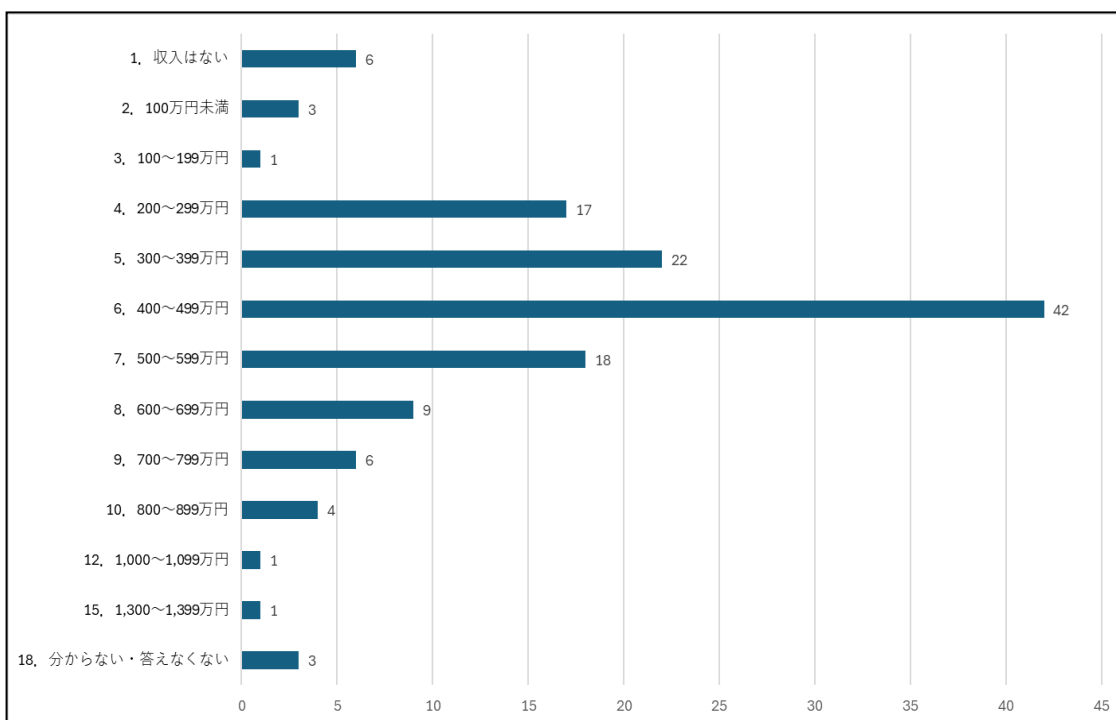
	1. 事務職	2. 経営・管理職	3. 技術職	4. 技能職	5. 教育職	6. 研究職	7. 販売・サービス	8. 専門職・自由業	11. アルバイト・派遣社員	その他	総計
人間社会学域	12	1	2		2		2	1	1	1	22
理工学域	1		28		2	4	1			1	37
医薬保健学域			4		1	2		7		1	15
人間社会環境研究科											
博士前期課程	2										2
自然科学研究科											
博士前期課程	1		11	1		10					23
博士後期課程						2					2
医薬保健学総合研究科											
修士課程			1			1					2
博士前期課程			3		1	5	1	1	1		12
博士後期課程					2	1					3
新学術創成研究科											
博士前期課程						1					1
教職実践研究科					4						4
総計	16	1	49	1	12	26	4	9	2	3	123

4－3 令和6年度卒業・修了後アンケート

4－3－3 現在の職業満足度（N=121）



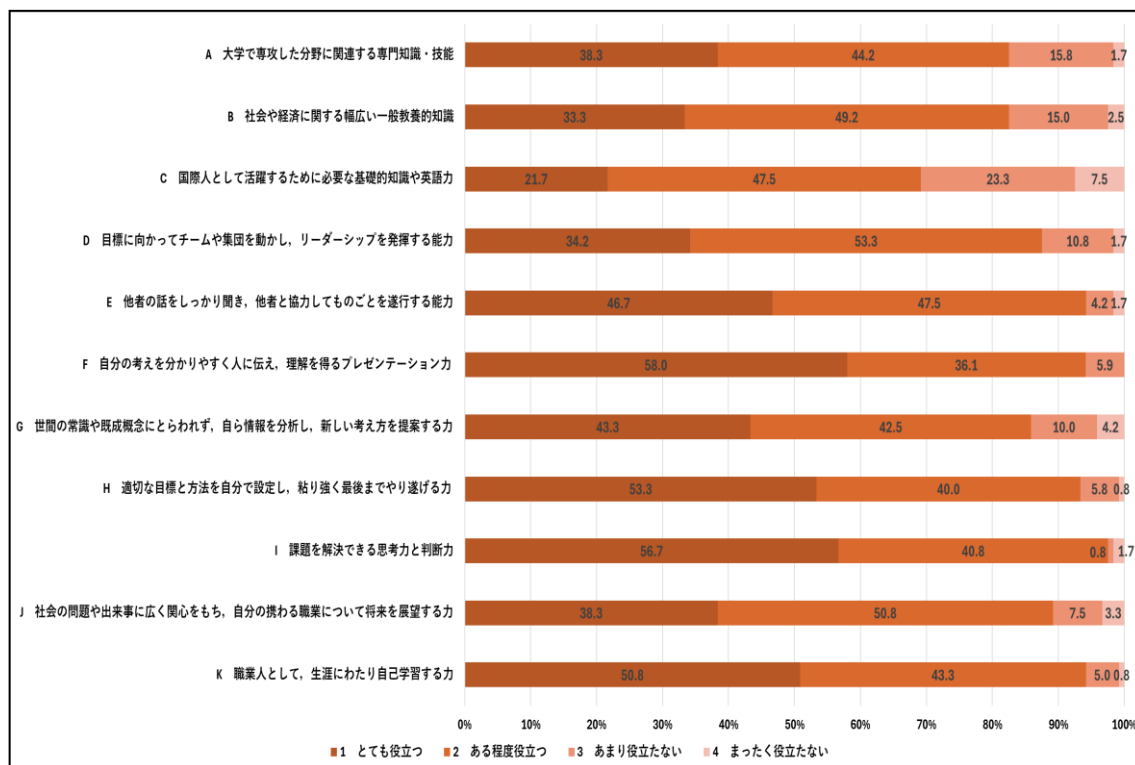
4－3－4 現在の個人年収（N=133）



4-3 令和6年度卒業・修了後アンケート

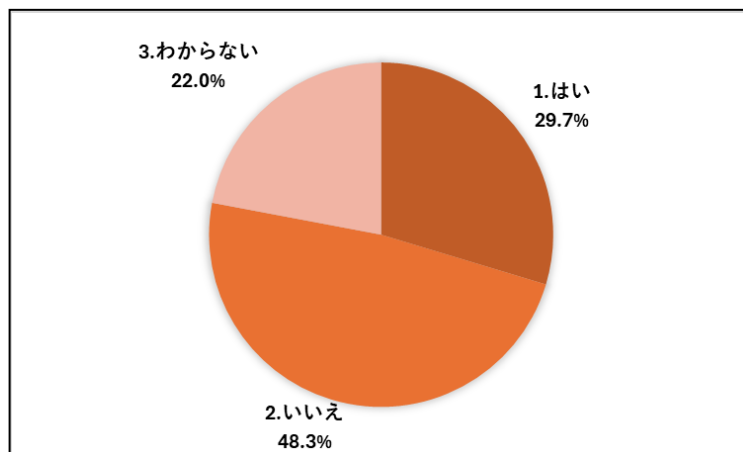
4-3-5 大学での経験や学修で得られた知識・技能の卒業・修了後のキャリアにおける役立ち度合い（N=120）

大学での経験や学修で得られた知識・技能の卒業・修了後のキャリアにおける役立ち度合いでは、「課題を解決できる思考力と判断力」「職業人として、生涯にわたり自己学習する力」「他者の話をしっかり聞き、他者と協力してものごとを遂行する能力」「自分の考えを分かりやすく人に伝え、理解を得るプレゼンテーション力」「適切な目標と方法を自分で設定し、粘り強く最後までやり遂げる力」が特に高い結果となっている。



4-3-6 大学・大学院における学び直しの希望の有無（N=118）

問8の大学・大学院における学び直しについて、29.7%の割合で希望ありと答えており、学び直し向けの効果的な情報発信等を更に充実していく必要がある。



4－4 金沢大学 FD 委員会規程

(平成 20 年 4 月 1 日規程第 1031 号)

改正

(設置)

第 1 条 金沢大学教育企画会議に、国立大学法人金沢大学基幹会議規程第 22 条第 1 項の規定に基づき、金沢大学 FD 委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(目的)

第 2 条 委員会は、本学及び本学の教員が、教育の質的向上を図るために組織的に取り組む活動を推進する事項について審議することを目的とする。

(審議事項)

第 3 条 委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 教育方法等の調査・検討に関すること。
- (2) 研修会等の実施に関すること。
- (3) 各部局が実施する活動への支援に関すること。
- (4) その他全学的な連絡・調整に関すること。

(組織)

第 4 条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 教育担当理事が指名する副学長 1 人
- (2) 融合学域を担当する教員から選出された者 1 人
- (3) 人間社会学域、理工学域及び医薬保健学域を担当する教員から選出された者 各 2 人
- (4) 各研究科を担当する教員から選出された者 各 1 人
- (5) 国際基幹教育院に所属する教員から選出された者 1 人
- (6) 教学マネジメントセンターに所属する教員から選出された者 1 人
- (7) 学務部長
- (8) その他委員長が必要と認めた者 若干人

(任期)

第 5 条 前条第 1 号から第 6 号及び第 8 号の委員の任期は 1 年とし、再任を妨げない。

2 前項の委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第 6 条 委員会に委員長を置き、第 4 条第 1 号の委員をもって充てる。

2 委員長は、委員会の会議を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

(会議)

第7条 会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第8条 委員長は、必要があると認めたときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を聴くことができる。

(ワーキンググループ等)

第9条 委員会に、専門的事項を審議するため、ワーキンググループ等必要な下部組織を置くことができる。

(事務)

第10条 委員会の事務は、学務部学務課において処理する。

(雑則)

第11条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則 (抄)

この規程は、令和6年4月1日から施行する。

4－5 金沢大学におけるFD活動指針

平成21年3月 9日	FD委員会承認
平成21年4月10日	教育企画会議承認
平成26年9月12日	教育企画会議改正
平成28年7月26日	FD委員会改正
平成29年3月10日	教育企画会議改正
令和 3年6月 4日	FD委員会改正
令和 3年6月11日	教育企画会議改正
令和 5年1月18日	FD委員会改正
令和 5年3月10日	教育企画会議改正

本学は、社会の信頼に応える学士課程並びに大学院課程教育を実現するために、社会的要請に的確に対応し、本学が掲げる教育研究上の目的に根ざした人材を育成することができるように、質の高い教育を実施する責務を負っている。

金沢大学学則第3条において、本学は、教育水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するため、自ら授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を行うことを定めている。もとより、授業の内容及び方法の改善は、各教員や部局等において地道に積み重ねられてきたものであるが、今後は、それらの改善に向けての取組みを、計画・実践・評価・改善のサイクルの中に位置づけ、より組織的かつ継続的に行うことにより、実質的な改善へと繋げていかなければならない。

本指針に基づき、本学のFD及びSD活動がますます活発となり、一層本学の教育の質の向上及び学生支援の推進に繋がることを期待する。

(目的)

第1 この指針は、金沢大学におけるFD及びSD活動についての基本的事項を定め、授業の内容及び方法の改善、教職員による様々な学生支援及びそのための研究・教育に関する研修についての取組みを明らかにすることにより、本学の教職員及び部局等のFD及びSD活動を推進し、もって教育の質の向上を図り、学生支援の円滑な遂行を図ることを目的とする。

(定義)

第2 この指針において、「FD」(ファカルティ・ディベロップメント)とは、授業の内容及び方法の改善等による教育の質の向上並びに学生の心身の保護とキャリア形成を促進する等の学生支援を図るための教員及び部局等の研究、研修等の自発的取組みをいう。

2 この指針において、「SD」(スタッフ・ディベロップメント)とは、教育研究活動等の適切かつ効率的な運営を図るために必要な知識及び技能の習得並びに能力及び資質の向上を図るための教職員の研修等の自発的取組みをいう。

- 3 この指針において、「BSD（バックアップ・スタッフ・ディベロップメント）」とは、SD活動のうち、教員のFD活動を支援すること、学生の心身の健康を保護すること、及びキャリア形成を促進する等の学生支援を図るための職員の研修等の自発的取組みをいう。
- 4 この指針において、「教職員」とは、本学の常勤及び非常勤の教職員をいう。
- 5 この指針において、「指導補助者（教員を除く。）」とは、ティーチング・アシスタント、高度ティーチング・アシスタント、クラス・ラーニング・アドバイザーをいう。
- 6 この指針において、「部局等」とは、教職員個人を除き、学域・学類・研究科・センター等、FD活動に関して、組織的取組みを実施する主体をいう。

（教職員及び部局等の責務）

- 第3 本学の教員は、金沢大学学則第3条（自己点検評価及び研修等）及び金沢大学大学院学則第21条（授業の方法等）に基づき、個人として、積極的にFD活動に取り組むとともに、職務上必要に応じて、SD活動に取り組む。
- 2 本学の職員は、職務上必要に応じて、SD活動に取り組む。
- 3 部局等は、教員のFD活動を促進するために、組織的に授業の内容・方法の改善及び学生支援のための取組みや研修の計画を策定するとともに、その実施内容等を点検し、報告書を毎年度作成する。

（FD委員会の業務）

- 第4 FD委員会は、金沢大学FD委員会規程第3条に基づき、本学におけるFD及びBSD活動並びに本指針に関する事項を審議する。
- 2 FD委員会は、全学におけるFD活動に関する状況等を把握するとともに、それらの情報が全学的に共有されるよう努める。
- 3 FD委員会は、部局等の作成した報告書に基づき、当該年度の全学におけるFD活動に関する報告書（以下、「年度報告書」という。）を作成し、それを教育企画会議に報告する。

（FD委員会委員長による改善の措置等）

- 第5 FD委員会委員長は、部局等のFD活動の改善に必要と認めた場合、FD委員会の議に基づいて、改善のための適切な措置等を講ずるとともに、それを教育企画会議に報告する。

（年度報告書の公開）

- 第6 FD委員会委員長は、年度報告書を公表する。

（部局等の改善に向けての取組み）

- 第7 部局等は、自らFD活動の実施に努めるとともに、その活動内容等について、継続的に改善に努める。
- 2 部局等は、優れたFD活動を行っている教員への表彰や、研修会参加についての証明書発行等の、FD活動推進のための取組みを行うことができる。

（FD活動等への支援）

第8 教学マネジメントセンターは、FD、SD、BSD活動及び指導補助者（教員を除く。）への研修に対して、必要な支援を行う。

4－6 金沢大学における教育の内部質保証に関する指針

(令和 6 年 2 月 9 日 令和 5 年度第 12 回教育企画会議決定)

1. 趣旨

本指針は、大学設置基準第 1 条第 3 項の規定に基づき、金沢大学が教育の状況を点検及び評価し、自ら改善及び改革を行う内部質保証を有効に機能させるために定める。

2. 目的

大学設置基準第 2 条の 2 及び第 19 条第 1 項並びに学校教育法施行規則第 165 条の 2 の規定に基づき、「入学者の受入れに関する方針」「教育課程の編成及び実施に関する方針」「卒業又は修了の認定に関する方針」(以下、「三つの方針」という。)に沿った教育の内部質保証体制を整え、教育課程の編成等や自己点検・評価、認証評価の結果を踏まえた不断の見直しを行うとともに、教育の実質化等による質向上を図る。

3. 方法

教育の内部質保証については、「教学マネジメント指針」(中央教育審議会大学分科会(令和 2 年 1 月 22 日))に沿って、「大学全体レベル」「学位プログラムレベル」「授業科目レベル」の 3 つのレベルに分けて捉える。

大学全体レベルについては、教育企画会議及びその下に設置された専門委員会が、教学マネジメントセンターの支援を受け、日常的な点検(モニタリング)及び総合的な点検・評価(レビュー)を行う。

学位プログラムレベルについては、三つの方針に則しつつ、あらかじめ定めた方法により、日常的な点検(モニタリング)を行うとともに、定期的に、学生が学修目標を確実に達成しているか、その上で改善が必要な事項は何かといった点も含め、様々な角度から掘り下げた分析を行うなど総合的な点検・評価(レビュー)を行うこととし、具体的な方法は次のとおりとする。なお、授業科目レベルについては、学位プログラムレベルに含め、日常的な点検(モニタリング)及び総合的な点検・評価(レビュー)を行う。

- (1) 学位プログラムの日常的な点検(モニタリング)として、各学位プログラムの責任者は、毎年度、当該学位プログラムの教育成果・学修成果に関する指標に基づき、日常的な点検を行い、教育担当理事・副学長に報告しなければならない。なお、本学においては、FD 活動報告書を以て充てる。
- (2) 学位プログラムの総合的な点検・評価(レビュー)として、各学位プログラムの責任者は、原則として 7 年に 1 回、毎年度点検(モニタリング)する教育成果・学修成果等について、学生が学修目標を確実に達成しているか、その上で改善が必要な事項は何かといっ

た点も含め、様々な角度から掘り下げた分析を行い、教育担当理事・副学長に報告しなければならない。

- (3) 毎年度1回の日常的な点検（モニタリング）及び7年に1回の総合的な点検・評価（レビュー）の結果について、教育の内部質保証の推進責任者である教育担当理事・副学長は、教育企画会議の議を経て、内部質保証の統括責任者（学長）に報告する。報告を受けた内部質保証の統括責任者は、必要に応じて推進責任者に改善を指示し、推進責任者は教育企画会議に改善方針等を示し、改善活動を行う。

4. 教育成果・学修成果に関する各種調査データ

日常的な点検（モニタリング）及び総合的な点検・評価（レビュー）において参照すべき各種調査データは、次のとおりとする。

- (1) 日常的な点検（モニタリング）及び総合的な点検・評価（レビュー）を行う際には、表に掲げる各種調査データを参照しながら、点検・評価を行わなければならない。
- (2) 表に掲げる各種調査データのほか、必要に応じ、在学者、卒業・修了者、企業等から大学全体及び学位プログラム等に関する意見聴取を行い、点検・評価に資することが推奨される。
- (3) (1)及び(2)に関する各種調査データの提供及び分析等について、各学位プログラムの責任者からの依頼の下、教学マネジメントセンターが支援する。

5. 雑則

本指針に定めるもののほか、教育の内部質保証に関し必要な事項は、別に定める。

表 教育成果・学修成果に関する各種調査データ一覧

調査名	指標	頻度	教学マネジメント レベル
新入生アンケート	志望理由、大学における学修に対する期待、入学者選抜に対する意見、希望進路、アドミッション・ポリシー、入試広報活動、入学後の学修・学生生活	毎年度（入学時）	大学全体レベル 学位プログラムレベル
授業評価アンケート	授業内容の適切性、担当教員の説明の仕方、授業外学修時間、授業理解度、学修目標達成度、授業満足度	毎年度（毎クォーターまたはセメスター）	授業科目レベル 学位プログラムレベル

4-6 金沢大学における教育の内部質保証に関する指針

学生生活実 態調査	金沢大学<グローバル>スタンダードの修得度, 住居・通学手段, 経済状況, 学修時間, 学修環境・学生支援満足度, 課外活動・福利厚生施設への要望, その他要望事項	2年に1回	大学全体レベル 学位プログラムレベル
卒業・修了者 アンケート	ディプロマ・ポリシー達成度, 学修及び学生生活の満足度, その他必要な事項	毎年度	大学全体レベル 学位プログラムレベル
卒業・修了後 アンケート	在学中に身につけるべき能力の就職後の活用度, 職業満足度, 年収, その他必要な事項	毎年度（原則として, 卒業・修了後3年の者を対象）	大学全体レベル 学位プログラムレベル
就業先アンケート	在学中に身に付けるべき能力の実装度及び期待度, 就職活動に対する対応度, その他必要な事項	2年に1回	大学全体レベル 学位プログラムレベル

4－7 金沢大学履修規程

(平成 20 年 4 月 1 日規程第 1079 号)

改正

(趣旨)

第 1 条 この規程は、金沢大学学則第 49 条第 3 項の規定に基づき、授業科目の履修について必要な事項を定めるものとする。

(授業科目と履修方法)

第 2 条 授業科目は、共通教育科目(「金沢大学<グローバル>スタンダード」を基軸とした、学士課程教育の基盤をなす授業科目をいう。)及び専門教育科目(学域に係る専門の学芸を教授することを目的とする授業科目をいう。)に区分する。

2 履修方法については、国際基幹教育院及び各学域において別に定める。

第 3 条 共通教育科目は、「導入科目」、「G S 科目」、「G S 言語科目」、「基礎科目」、「初習言語科目」及び「自由履修科目」に区分する。

2 専門教育科目は、「学域 G S 科目」、「学域 G S 言語科目」、「専門基礎科目」及び「専門科目」に区分する。

(基幹教育特設プログラム)

第 4 条 特定分野の学修を目的として、共通教育科目及び各学類が提供する専門教育科目から編成する教育プログラム(以下「基幹教育特設プログラム」という。)を開設し、その学修成果を認定することができるものとする。

2 基幹教育特設プログラムにおいて、所定の単位を修得した者には、共通教育委員会の議を経て、国際基幹教育院長が修了を認定する。

3 前 2 項の教育課程等については、国際基幹教育院において別に定める。

(副専攻)

第 5 条 学生が所属する学域、学類並びにコース及び専攻に係る分野以外の分野又は課題に関する教育課程(以下「副専攻」という。)を開設し、その学修成果を認定することができるものとする。

2 副専攻において、所定の単位を修得した者には、当該学生が所属する学域の教育研究会議の議を経て、学域長が修了を認定する。

3 前 2 項の教育課程等については、各学域において別に定める。

(先導 STEAM 人材育成プログラム)

第 5 条の 2 幅広い教養と深い専門性を両立した人材を育成することを目的として、「先導 STEAM 人材育成プログラム」を開設し、その学修成果を認定することができるものとする。

- 2 先導 STEAM 人材育成プログラムを修了した者には、修了証を交付する。
- 3 先導 STEAM 人材育成プログラムに関する必要な事項は、別に定める。

(データサイエンス特別プログラム)

第5条の3 数理・データサイエンス・AI 活用のための基礎的知識を有する人材を育成するため「データサイエンス特別プログラム」を開設し、その学修成果を認定することができるものとする。

- 2 データサイエンス特別プログラムを修了した者には、修了証を交付する。
- 3 データサイエンス特別プログラムに関する必要な事項は、別に定める。

(教育職員免許状の取得に関する授業科目)

第6条 教育職員免許状を取得しようとする者は、別に定める「教科に関する専門的事項」，「教育の基礎的理解に関する科目」，「道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目」，「教育実践に関する科目」，「各教科の指導法」，「大学が独自に設定する科目」及び「特別支援教育に関する科目」の単位を修得しなければならない。

(受講者の抽選・選抜)

第7条 一部の授業科目については、選抜試験又は抽選等で受講者を選定することがある。

- 2 前項の授業科目及び受講者の適正人数は、国際基幹教育院及び各学域において指示するものとする。

(履修手続)

第8条 学生は、履修を希望する授業科目について、別に定める履修登録期間に履修登録手続により学域長又は国際基幹教育院長に願い出、許可を受けなければならない。

- 2 学生は、履修登録期間後に履修を希望する授業科目の確認を行い、変更する場合は確認・変更期間内に手続を行わなければならない。
- 3 履修登録手続をしていない授業科目については、履修することができない。履修登録手続に不備又は誤りがあった場合も同様とする。
- 4 やむを得ない理由により、所定の期間内に履修登録手続を行うことができない場合は、その理由を付して学域長又は国際基幹教育院長に届け出なければならない。

(履修登録の制限)

第9条 各学期又は各クォーターに履修登録できる単位数の上限は、各学域及び国際基幹教育院で別に定める。

(履修許可の取消し)

第10条 履修を許可された後においても、本規程に違反して履修登録したことが判明した場合には履修の許可を取り消すことがある。

(単位認定対象資格)

第 11 条 次に掲げる各号のいずれかに該当する学生は、単位認定を受ける資格がないものとする。

- (1) 当該授業科目の履修登録をしていない者
- (2) 授業出席回数が国際基幹教育院及び各学域で定める出席すべき授業回数に満たない者
- (3) 休学期間が当該授業科目の開講期間と重なる者
(不正行為)

第 12 条 試験等における不正行為については、金沢大学学生懲戒規程の定めるところによる。

(単位確定時期)

第 13 条 各学期及び各クォーターにおける開講授業科目の単位確定時期は別に定める。ただし、卒業者については学位授与の日をもって単位確定の時期とする。

(成績の評価)

第 14 条 授業科目の成績は、次の各号に掲げる基準によるものとする。

評語 英訳(証明書) 評語判定 学修達成度

- | | | | |
|--------|--------------|-----|-------------|
| (1) S | AA | 合格 | 90%以上 |
| (2) A | A | 合格 | 80%以上 90%未満 |
| (3) B | B | 合格 | 70%以上 80%未満 |
| (4) C | C | 合格 | 60%以上 70%未満 |
| (5) 合 | P : Pass | 合格 | 60%以上 |
| (6) 認定 | CF : Certify | 合格 | 60%以上 |
| (7) 不可 | | 不合格 | 60%未満 |
| (8) 否 | | 不合格 | 60%未満 |
| (9) 放棄 | | 不合格 | |

2 「合」及び「否」の評語は、一定水準の成績達成を目的とした授業科目において使用するものとする。

3 「認定」の評語は、本学の開講科目以外の授業科目及び外部試験等の結果により、評価する授業科目において使用するものとする。ただし、単位互換協定書その他により定めがある場合は、この限りでない。

4 単位認定を保留とする場合の基準及び保留後の成績評価方法については、国際基幹教育院及び各学域において別に定める。

5 成績通知には、第 1 項の評語を用いる。

6 成績証明書には、判定が合格となった授業科目のみ記載し、第 1 項の評語を用いる。ただし、認定は「認」と表示する。

(総合成績評価)

第 15 条 前条の成績の評価に対して次の各号に掲げるグレード・ポイント(以下「GP」という。)を設定し、不合格の授業科目を含めて、履修科目のグレード・ポイントの平均(グレード・ポイント・アベレージ(以下「GPA」という。))を算出し、総合成績評価を行う。

評語 GP

- (1) S 4 点
 - (2) A 3 点
 - (3) B 2 点
 - (4) C 1 点
 - (5) 合 対象外
 - (6) 認定対象外
 - (7) 不可 0 点
 - (8) 否 対象外
 - (9) 放棄 0 点 (第 14 条第 2 項に規定する評語を用いる科目については対象外)
- 2 単位認定が保留となった授業科目の GP は、0 点とする。
- 3 GPA を算出する基準は、次のとおりとする。
- $GPA = (\text{授業科目で得た GP} \times \text{その授業科目の単位数}) \text{の総和} / (\text{履修登録した授業科目の単位数の総和})$
- 4 成績証明書には、GPA は明記しない。
- 5 GPA における保留授業科目は、履修登録した授業科目の単位数の総和に含める。
- 6 再履修の取扱いについては、国際基幹教育院及び各学域において別に定める。
- 7 GPA 対象外授業科目は、次のとおりとする。
- (1) 共通教育科目
「導入科目」，「いしかわシティカレッジの他大学提供科目」，「放送大学の授業科目」，「入学前の既修得単位を「認定」の評語で単位認定した授業科目」及び「外部試験によって「認定」の評語で単位認定した授業科目」
 - (2) 前号以外の共通教育科目については、各学域において別に定める。
 - (3) 専門教育科目については、各学域において別に定める。
- (成績評価の疑義申し立て)
- 第 16 条 成績の評価に対する疑義申し立てについては、「成績評価への疑義申し出に対する対応についての申し合わせ」による。

附 則

この規程は、平成 20 年 4 月 1 日から施行し、平成 20 年度入学者から適用する。

附 則 (抄)

この規程は、令和 6 年 4 月 12 日に施行し、令和 6 年 4 月 1 日から適用する。

4－8

金沢大学シラバス様式

〇〇学域 〇〇学類

科目名[英文名] / Course Title			
担当教員名[ローマ字表記] / Instructor			
科目ナンバー / Numbering			
時間割番号 / Course Number		科目区分 / Subject distinguished	
講義形態 / Lecture Form		開講学域等 / Faculty	
適正人数 / Number of Proper		開講学期 / Semester	
曜日・時限 / Day・Period		単位数 / Number of Credits	
授業形態 / Class Format		60単位上限 Class to a maximum of 60 credits	
対象学生 / Target students			
キーワード / KeyWord			
講義室情報 / Lecture room information			
開放科目 / Open account			
備考 / Note			
授業の主題 / Topic			
学修目標（到達目標） / Learning Goal(Target)			
授業概要 / Outline			
講義スケジュール / Lecture Schedule			
評価方法と割合 / Grading 【評価方法 / Grading Method】 ※成績評価：次項の項目及び割合で総合評価し、次のとおり判定する。 「S（達成度90%～100%）」，「A（同80%～90%未満）」， 「B（同70%～80%未満）」，「C（同60%～70%未満）」を合格とし， 「不可（同60%未満）」を不合格とする。（標準評価方法） 【評価の割合 / Grading Rate】 【ルーブリック / Rubric】 【ルーブリック備考 / Rubric note】			
授業時間外の学修に関する指示 / Learning outside of class hours 【予習に関する指示 / Preparation】 【予習に関する教材 / Materials on preparatory studies】 【復習に関する指示 / Homework】 【復習に関する教材 / Materials on homework】			
教科書・参考書 / Books 【教科書 / Textbooks】 【参考書 / Reference Books】 【教科書・参考書補足 / Teaching Materials Note】			
オフィスアワー・連絡先等（学生からの質問への対応方法等） /Consultation Time / Contact information			
履修条件 / Prerequisites 【適正人数 / Class Size】 【受講者調整方法 / Method for adjusting class size】 【その他履修上の注意事項や学習上の助言 / Others】			
特記事項 / Special Note 【カリキュラムの中の位置づけ / Position of Curriculum】 【特記事項 / Special note】			

4-9

令和6年度 F D 委員会

事務担当：学務部学務課教育推進係

任期2024. 4. 1～2025. 3. 31

部 局 等	職 名	氏 名
〔委員長〕	学長補佐	合田 篤子
融合学域	教授	金間 大介
人間社会学域	教授	轟 亮
人間社会学域	教授	江藤 望
理工学域	教授	長尾 秀実
理工学域	教授	仁宮 一章
医薬保健学域	教授	吉田 栄人
医薬保健学域	教授	杉本 直俊
人間社会環境研究科	教授	入江 浩司
法学研究科	教授	合田 篤子
自然科学研究科	准教授	阪田 義隆
医薬保健学総合研究科	教授	太田 邦雄
先進予防医学研究科	准教授	平安 恒幸
新学術創成研究科	教授	坂本 二郎
教職実践研究科	教授	大谷 実
国際基幹教育院	准教授	渡辺 敦子
教学マネジメントセンター	教授	林 透
事務局学務部	学務部長	松本 佳子



令和6年度
金沢大学FD活動報告書
令和7年9月発行

編集・発行 金沢大学FD委員会

〒920-1192 金沢市角間町

E-mail : gakukikaku@adm.kanazawa-u.ac.jp (学務部学務課)